

令和 5 年 度

事業 報告 書

公益財団法人 東京動物園協会

目 次

第1 運 営 の 概 要

I. 運 営 概 要	1
----------------------	---

第2 公 益 目 的 事 業

I. 事 業 総 括	3
〔1〕管 理 施 設	3
〔2〕主 な 実 施 事 項	3
II. 事 業 実 績	21
〔1〕飼 育 ・ 展 示 事 業	21
〔2〕野 生 生 物 保 全 事 業	39
〔3〕教 育 普 及 事 業	41
〔4〕市 民 ・ 団 体 と の 協 働 事 業	72
〔5〕利 用 者 サ ー ビ ス	81
〔6〕安 全 ・ 安 心 の 確 保	88
〔7〕受 託 業 務	93

第3 収 益 事 業

I. 事 業 総 括	95
II. 事 業 実 績	96
〔1〕便 益 施 設 の 経 営	96
〔2〕そ の 他 の 事 業	99

第4 決 算 概 要	100
----------------------	-----

第5 事 務 報 告

I. 役 員 会 議 の 開 催	101
II. 監 査	102
III. 人 事 関 係	103
IV. 組 織 概 要	106

第1 運 営 の 概 要

I. 運 営 概 要

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症へ移行したことに伴い、引き続き感染防止対策を徹底した上で、対面によるイベントやガイドツアー、ボランティア活動などを本格的に再開した。令和5年の夏は全国的に記録的な猛暑となったため、ミスト装置やテントの設置、来園者に向けた熱中症予防への積極的な広報などを行い、各園にて暑さ対策をより一層強化した。下半期は訪日外国人の来園が急増し、コロナ禍前の賑わいが少しずつ戻ってきた。4園合計の入園者数は約603万人となり、前年比で約25万人増となった。

令和5年2月に多摩動物公園において飼育鳥のツクシガモとソデグロヅルが高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染していることが判明し、その後53日間にわたり臨時休園となった。この経験を活かすべく、「都立動物園における鳥インフルエンザ対策（ハード面）」に関する基本方針の策定や「鳥インフルエンザ対応マニュアル」の改訂を行い、万全の体制を整えた。

来園者・動物・職員にとって安全安心な動物園・水族園づくりをより一層推進し、協会としての創設時からの使命である「動物園及び水族園事業の発展振興」、「人と動物の共存への貢献」のため、長年培ってきた技術・経験を土台とし、各園の個性を発揮して、我が国の動物園・水族館の先導役としての役割を果たすべく、以下の5つの取組を積極的に展開した。

1 野生生物本来の生態や魅力を引き出す「動物の飼育・展示」

4園が緊密に連携し、展示動物の適正な飼育管理や展示の充実を図った。また、飼育技術の更なる向上に取り組むとともに、動物福祉に配慮した管理手法を実現することにより、人にも動物にも安全で魅力的な飼育展示を行った。更に4園で得られた野生生物に関する知見を国内外で積極的に発信するほか、大学や研究機関との共同研究を推進するなど、高度な飼育技術の継承・向上をより一層推進した。

【主な取組】

- 飼育展示の更なる充実のほか、季節やトピックに合わせた特設展や企画展を積極的に展開
- 環境エンリッチメントやトレーニングの工夫などを通じて動物福祉に配慮した飼育管理を行い、安全な健康管理や動物の自然な行動を引き出す取組を実施 など

2 「第2次ブーストック計画」の対象種など希少種を中心とした「野生生物の保全」

「野生生物保全センター」を中心に4園が連携し、計画的な野生生物の保全活動を展開した。また、令和3年度に「東京動物園協会野生生物保全基金」に新設した「保全パートナー部門」においては、保全に取り組む研究者との連携を更に強化し、保全活動を推進した。

【主な取組】

- スマトラトラ、アイアイ、ルリカケス、ミヤコカナヘビ、トキ、アカガシラカラスバト、エトピリカ、ゼニタナゴ、アムールヤマネコ、アマミトゲネズミなど希少動物の繁殖
- 飼育繁殖技術の向上や継承のため、新たに27種の「ブーストック計画推進ハンドブック」を作成、大島公園動物園作成成分を含め全124種のハンドブック作成が完了 など

3 多様なプログラムや情報発信による「教育普及」

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症へ移行したことを受け、感染防止対策を徹底した上で、定例イベントや講演会、各種ガイド等を本格的に再開した。また、コロナ禍において培ったオンライン技術を活かし、オンラインコンテンツを活用した教育普及活動も引き続き行った。障がいのある子どもとご家族を都立動物園・水族園に招待する「ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウム in Tokyo」や、移動水族館による活動、特別支援学級向けプログラムにおいては、専門家による研修や評価を実施し、改善につなげた。

【主な取組】

- 「世界ゴリラの日」では飼育係による解説を実施したほか、使用済み携帯電話・スマートフォン回収などのイベントを国内ゴリラ飼育園館との連携により実施
- タスマニアデビル来園に伴うスペシャルトークやパネル展などの普及啓発イベントの実施
- 4園にて「ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウム in Tokyo」を実施

4 魅力的な商品やホスピタリティあふれる「利用者サービス」

入園券購入及び店舗におけるキャッシュレス対応を引き続き推進するとともに、先端技術を活用したサービスの拡充や暑熱期の暑さ対策等による利用者満足度の向上を図った。また、各園の展示に合わせた魅力的なオリジナル商品の開発や快適な店舗環境の提供、接遇力向上により多様な来園者の期待に応えるとともに、通信販売を強化した。

【主な取組】

- 「見どころデジタルマップ」への動物観察に役立つ情報の追加及びデジタルスタンプラリー機能を活用した4園周遊キャンペーンの実施
- 夏の園内を少しでも快適に過ごしていただき、熱中症予防にも役立てていただくため、園内でひと涼みできる場所を「ひんやり ZOO スポット」「COOL ZOO スポット」として紹介
- 飼育係の監修によるオリジナルギフト商品・フード商品の販売 など

5 危機管理対策や万全な施設管理による「安全・安心の確保」

令和5年2月に多摩動物公園にて発生した、飼養鳥による高病原性鳥インフルエンザウイルス感染事例を踏まえて、国や関係機関と連携しながら、ハード面・ソフト面における対策を着実に実施した。また、12月4日に井の頭自然文化園で発生した駆虫のための薬剤によりニホンリス31頭が中毒死した事故については、その教訓をもとに再発防止に努め、確実かつ着実な業務を遂行するよう努めた。更に、地震などの自然災害や無差別テロ等を想定した訓練を各園にて実地開催するとともに、動物舎や樹木等の的確な管理に努め、お客様の安全・安心の確保を図った。

【主な取組】

- 「鳥インフルエンザ対応マニュアル」の改訂及び各園におけるハード面への対策を強化
- 警察等と連携した自然災害及びテロ対策訓練の実施
- 施設、設備や樹木等の定常的な維持管理に加え、ナラ枯れ処理やベンチ座板補修などの緊急的な維持管理を実施 など

第2 公益目的事業

都立動物園・水族園4園の指定管理者として管理運営を行うとともに、動物園事業の発展・振興を図り、動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献することを目的に、動物飼育及び展示業務、野生生物保全業務、教育普及業務、市民・団体との協働に関する業務、利用者サービスに関する業務、安全・安心の確保に関する業務及び受託業務を実施した。

I. 事業総括

〔1〕管理施設

名 称	住 所	開園面積（㎡）	摘 要
恩賜上野動物園	台東区上野公園、池之端三丁目	144,040.513	
多摩動物公園	日野市程久保六丁目、七丁目、 南平八丁目	601,372.54	うち無料開園区域 77,508.22㎡
葛西臨海水族園	江戸川区臨海町六丁目	85,958.90	
井の頭自然文化園	武蔵野市御殿山一丁目、 三鷹市井の頭四丁目	115,500.00	

〔2〕主な実施事項

1. 4園共通

【新型コロナウイルス感染症対策】

令和5年5月8日より新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行したことに伴い、対面によるイベントやガイド等を本格的に再開した。一方で、消毒液の設置や換気など、安心して動物園・水族園を楽しんでいただくための感染防止対策を図った。

【「地球環境保全行動戦略」の推進】

令和4年12月に都立動物園・水族園における地球環境保全に向けた率先行動の指針として「地球環境保全行動戦略」を策定、公表した。この戦略に基づき、令和5年度は各事業分野にて4園の重要な役割である生物多様性保全の取組を強化し、園内の自然を活用したガイドや緑のカーテンの設置、余った飼料等の園内リサイクルなどを通じて、地球環境への負荷を低減させる取組を推進した。

また、令和4年度の実績を公式ホームページにて公表するとともに、環境総合展「エコプロ」や「ヤマネコ祭」、「コウノトリまつり」等へのブース出展を通じて、当協会の地球環境保全への取組を広く情報発信した。

【動物の飼育・展示】

展示動物の適正な飼育管理と魅力的な展示の充実に向け、4園間の密接な連携のもと、飼育展示業務を着実に実施した。また、飼育下でのトレーニングや各種エンリッチメントの実施、飼育環境整備など、動物福祉の向上に向けた取組を行った。高度な飼育繁殖技術の継承・向上を目指し、各園で教育普及・飼育展示研究会等を定期的に開催した。また、国内外の会議・学会・研究会等への積極的な参加を通じて各方面の専門家との人的・技術交流や最新の知識や技術の向上に努めた。

令和5年度より新たに設置した「動物福祉委員会」では、各園及び他園館における動物福祉の取組について情報共有を行ったほか、動物福祉向上策の一環として「安楽死処置ガイドライン」を整備した。また、WAZA2023アニマルウェルフェア・ゴール（世界動物園水族館協会2023年動物福祉目標）に向けた（公社）日本動物園水族館協会（JAZA）の取組のひとつである「動物福祉評価」について、12月に上野動物園及び多摩動物公園がJAZAによる監査を受けた。

【野生生物の保全】

国内外の諸機関と連携し、希少種等の保全活動を推進した。令和5年度より新たに課組織として機能を強化した野生生物保全センターでは、4園の保全活動を総合調整するとともに、野生生物保全を目的とした検査を行った。飼育動物の排泄物から抽出した性ホルモンの測定では、その変動を観察することでアジアゾウやユキヒョウ等の希少種の繁殖生理の解明、繁殖計画の検討に役立てることができた。また、遺伝学的な手法としては、PCR法を用いた鳥類・哺乳類の性判別、DNA解析による野生のアカガシラカラスバトの遺伝的多様性調査、東京都内に生息するアズマヒキガエルの変異状況調査を行った。このような検査の結果は、保全計画を検討する際の基礎情報として利用されている。また、将来の人工授精等への活用を視野に入れ、飼育動物や死亡した動物から得た精液の凍結保存を継続した。更に令和5年度からは栄養学的研究を研究活動の柱のひとつに位置付け、栄養学に関する職員向けのワークショップを開催した。

各園においては、上野動物園でのスマトラトラの26年ぶりの繁殖や、井の頭でのアマミトゲネズミの初繁殖をはじめ、アイアイ、トキ、ナベコウ、エトピリカ、アムールヤマネコ、ニホンカモシカなど、ブーストック種及び保全対象種のうち40種が4園で繁殖した。

「第2次ブーストック計画」の対象種124種については、飼育繁殖や保全、教育普及等の取組を一層推進し、その進捗状況に関しての評価検証を行った。その結果、令和5年は飼育繁殖の取組については90%以上が計画に沿って進めることができるなど、着実に計画を推進した。令和5年度については、27種についてブーストック計画推進ハンドブックを作成し、全124種で計画推進ハンドブックの作成が完了した。

「東京動物園協会野生生物保全基金」では、野生生物の保全に取り組む個人・団体の支援を目的とした助成対象活動を公募し、助成金の交付を行うことにより、固有事業としての保全活動を推進した。

【教育普及】

教育普及センターを中心に4園の連携を一層強化し、大人から子どもまで幅広い来園者を対象に、動物の魅力や地球環境保全の重要性を伝える多様な教育普及プログラムを展開した。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止していた対面活動については、来園者が安心して参加できる方法を試行しながら再開するとともに、オンラインを活用した教育普及活動も継続した。講演会のハイブリッド開催（対面とオンライン両方で行う）や学校団体向けオンライン授業の実施、授業に役立つオンライン教材の開発など、より多くの方に学びの場を提供することができた。

また、ふれあいプログラムについてはモルモットのストレス評価や利用者評価を継続しながら動物福祉に配慮した新たな形で再開している。

障がいのある子どもとそのご家族を招待する「ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウム in Tokyo」や移動水族館活動、特別支援学級向けプログラムではソーシャルインクルージョンの専門家の研修や評価を実施し、改善へとつなげることで、誰もが楽しく学べる場の提供に取り組んだ。

学校教育との連携強化については、引き続き教員を対象とした各種プログラム、児童や生徒等を対象とした学習プログラム、学習補助教材の貸出し・提供等を行った。教科書研究や学校現場の状況を把握するための教員ヒアリングを継続し、新たな教材やオンライン授業の開発につなげた。

【利用者サービス】

利用者の多様なニーズにきめ細かく対応するため、入園券購入におけるキャッシュレス対応を引き続き推進した。また、令和3年6月から運用を開始した上野動物園内の混雑状況をホームページ上で知らせる「上野動物園混雑マップ」では、対象エリアの拡充に向け、増設箇所の調査・検討を行った。

若手職員を中心に構成するサービス向上委員会では、実際に来園したお客様がどのような点に興味を持って園内を観覧しているのか現地調査を行い、引き続き外部有識者の意見を取り入れながらサービス向上策の検討を行い、上野動物園・多摩動物公園にて、新たな観察誘導ツールを展開した。また、4園の見どころを伝える「見どころデジタルマップ」では、上野動物園における動物観察に役立つ情報を追加したほか、デジタルスタンプラリー機能を活用した4園周遊キャンペーンを実施した。

当協会の公式Instagramでは、各園の情報発信を行ったほか、広告機能を利用した各園のPRを積極的に行った結果、夜間開園の集客につながった。

収益部門においては、地球環境への負担軽減の取組として、フードロス削減に向けたワーキンググループを立ち上げ、削減を進めた。また、各園の展示や各種イベントと連動し、SDGsにも配慮した当協会ならではのギフト商品・フードメニューの開発及び販売を行い、園内販売における売上高はコロナ禍以前の水準を上回る結果となった。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

震災・テロ対策に関する職員の防災意識と知識向上のための防災マニュアル「東京Zoo防災」については、新規採用職員への配布及び研修を行うとともに、マニュアルの内容に基づき、全職員を対象にeラーニングを実施した。また、総務部及び各園にて震災時における初動対応訓練を行ったほか、警察・消防等の関係機関との連携のもと、4園でテロ対策訓練を開催し、基本的な対応手順について改めて確認した。また、上野動物園では令和3年度以降コロナ禍で中断していた猛獣脱出対策訓練を実地開催した。施設管理については、日常の巡回点検や定期的な樹木点検等により、不具合を早期に発見し、迅速に対応することで園内の安全で快適な環境を確保した。台風、集中豪雨、大雪等の自然災害に対しては、気象災害対策計画や雪害対策計画に基づき、迅速に緊急点検を実施し、不具合箇所や落枝等の早期発見・対応により、入園者への影響を未然に防いだ。また、施設係と飼育展示係の協力体制に基づく情報共有を通じて、事故を未然に防ぐための施設補修等を適切に実施した。

令和5年2月に多摩動物公園の飼育鳥類に高病原性鳥インフルエンザが発生し、令和5年2月16日から4月9日まで臨時休園となったことを踏まえ、国や関係機関と連携しながら対策を強化した。ハード面では「都立動物園における鳥インフルエンザ対策（ハード面）に関する基本方針」を新たに策定し、鳥舎への野鳥の侵入防止策などを講じた。また、環境省のガイドライン改訂に合わせて「鳥インフルエンザ対応マニュアル」を改訂し、当協会全体における体制の強化を図った。

2. 恩賜上野動物園

【動物の飼育・展示】

ジャイアントパンダでは、令和5年9月以降「リーリー（オス）」と「シンシン（メス）」において高血圧が判明し、定期的な血圧測定の実施と降圧剤による投薬治療を順次開始した。同年10月と翌年3月には中国ジャイアントパンダ保護研究センターの専門家を招聘し、個体の健康状態の確認を行った。また、高血圧治療の一環として運動量の増加を目的に放飼場へ櫓を設置し、空間を立体的に活用できるようにした。令和3年6月に誕生した双子の「シャオシャオ（オス）」と「レイレイ（メス）」では、3歳となる令和6年6月までに別々に飼育管理する方針としている。

令和5年10月20日～24日に、北米よりゾウ飼育の専門家であるアラン・ルークロフト氏を招聘し、ハズバンダリートレーニング（動物の健康な飼育と人間の安全な作業を目的として、動物に自発的な行動をとらせるための訓練）及び飼育管理全般における技術指導を受け、「スーリヤ（メス）」と「ウタイ（メス）」「アルン（オス）」母子の同居を今年度も断続的に試みたが、結果として継続した同居には至らなかった。今後は「アルン（オス）」の成長に伴い、母親「ウタイ（メス）」からの独り立ちも視野に、「アルン（オス）」も含めた全頭へのハズバンダリートレーニングに注力していく。

スマトラトラは26年ぶりに繁殖が実現した。令和5年4月28日と12月4日の2回の繁殖で計5頭が誕生し、4頭（オス2・メス2）が育成している。

東アフリカ原産の小型鳥類、シロガシラウシハタオリの人工孵化、人工育雛に国内で初めて成功し、（公社）日本動物園水族館協会の研究会で発表した。今後、同様の小型鳥類の人工繁殖技術の開発につながることが期待されている。

コビトカバは、令和6年3月20日に繁殖用貸与により大阪市のニフレル（NIFREL）から来園したオス1頭と、以前から飼育していたメス2頭により繁殖の取組を進めた。交尾は確認されたが妊娠には至らなかった。アイアイは、令和5年5月4日に昨年に引き続き繁殖が成功し、メスの子が誕生した。フォッサは、国内唯一の飼育個体であったが、令和6年3月24日に18歳で死亡した。

両生爬虫類館では、特設展示「カルルくんの自由研究 あしの違いをくらべてみよう」を令和6年3月5日に開始した。

子ども動物園すてっぷのしのばずラボでは、日本に生息する昆虫を飼育展示する企画展「夏の昆虫展」を開催した。

【野生生物の保全】

ライチョウは、環境省保護増殖事業の域外保全事業計画に基づき、横浜市繁殖センターと協力し、人工採精・授精の技術確立に努めた。凍結保存した精液を融解して人工授精を行った結果、有精卵を得ることに成功したが、孵化には至らなかった。人工授精技術の最終的な目標である乗鞍岳の野生ライチョウからの人工採精、低温保存、人工授精を行うため、現地での事前調査を関係機関と協力して実施した。ライチョウに関する共同研究は、日本獣医生命科学大学、中部大学、岐阜大学と継続して実施した。

ルリカケスは令和5年5月8日に、奄美大島から新たな繁殖用個体として1羽の雛を搬入したほか、日本の鳥Ⅰにおいて令和6年3月8日に1羽、4月28日に2羽が自然繁殖により孵化し、育成した。2回の繁殖は同一ペアによるものであり、1度の繁殖期に同一ペアが2回の繁殖に成功した事例は初めての事であった。

オガサワラカワラヒワの域外保全活動としては、令和5年9月と翌年3月に職員が小笠原父島に出

張し、飼育繁殖、獣医臨床分野で現地指導を行った。近縁種での飼育技術確立の試みとしては、カラヒワの繁殖を試み、1ペアにより4羽の孵化、育雛に成功した。

アカガシラカラスバトは、3月末日現在29羽(オス9、メス20)を飼育している。光環境などの飼育環境要因の調査等を日本獣医生命科学大学との共同研究として継続実施した。

イボイモリは、順調な繁殖を継続しており令和5年度は5月に産卵が確認され、令和6年3月末現在で徳之島由来の創始個体6頭、上野繁殖個体73頭(令和5年度に繁殖した幼体6頭を含む)の計79頭を飼育している。

ミヤコカナヘビは、平成29年10月に(公社)日本動物園水族館協会を通じて繁殖用個体14頭を導入した。平成30年6月に孵化を確認してから順調に繁殖を継続しており、令和6年3月末現在で105頭を飼育している。

小笠原陸産貝類は、環境省の保護増殖事業に基づき、令和5年10月24日にチヂジマカタマイマイを新たに搬入した。これに先立ち上野で飼育繁殖に取り組んでいたアナカタマイマイは、展示に必要な頭数を残して多摩に搬出した。今後は、4園で1種ずつ飼育繁殖に取り組む計画である。

【教育普及】

前年度1月よりスタートした東京都都市公園制度制定150周年記念事業に協力し、公園をめぐるデジタルスタンプラリー、巨樹・巨木ツアー、サクラガイドなど年間を通じて各種イベントを行った。

6月にはジャイアントパンダ双子の2歳記念として、小学生以下の子どもたちによるお祝いメッセージカード作成と掲出、行動観察ビンゴカード配布、成長を紹介するパネル展及びX(旧Twitter)による情報発信を行った。8月は3時間延長イベント「真夏の夜の動物園」により、藤棚休憩所における飼育係のトークセッション、世界ゾウの日関連イベント、標本展示等を実施した。9月にはコウモリ観察イベントとして外部講師等による講演とコウモリ観察を伊豆大島からのライブ中継を交えて行ったほか、世界ゴリラの日には飼育係の解説、使用済み携帯電話・スマートフォン回収などのイベントを国内ゴリラ飼育園館との連携により実施した。10月はパンダの日を記念して、学生向けセミナーと実施後の紹介動画放映、竹を使ったワークショップを行った。11月の文化財ウィークには解説カード配布、天然記念物の動物ガイドほか、英語ガイドを開催し、これ以降も英語ガイドを不定期で実施した。12月には「ドリームデイ・アット・ザ・ズー」を開催し、事前募集により障がいのある子どもとその家族を招待し、点字のスタンプラリー、飼育係のおはなし、移動水族館の出張展示などを実施した。新年イベントとしては、セルフガイドシート「龍を観察！～龍に九似あり！～」の配付、園長による新年あいさつ動画放映と等身大パネル設置、「獅子舞」練り歩きを行った。

また、子供動物園係によるキーパーズトークに加え、1月からは飼育展示課全体に広げた「飼育係のおはなし」を通常イベントとして開始し、各入園門に今年度新設したイベント案内看板や園内放送による事前告知により実施した。

連携事業としては、世界自然保護基金ジャパン、日本アジアカワウソ保全協会、東京都歯科医師会、トラ・ゾウ保護基金、対州馬保存会、関東エコロジカルネットワーク推進協議会等との共催・後援により、世界カワウソの日や世界トラの日等にワークショップ、飼育係のトークイベント、海外研究者を招いた講演会、スタンプラリー、パネル展等の各種普及啓発イベントを実施した。

子ども動物園すてっぷでは、わくわくベースで一般向けの体験プログラム「モルモットとなかよし」を開催した。動画でモルモットの生態を学んでから、スタッフのサポートのもと間近で観察したり、膝にのせたりして命のあたたかさを体感する動物介在教育として行い、2,644組6,464名が参加した。

はじめてルームはイベントスペースとして活用し、9月から東京動物園ボランティアズとともにぬりえや絵本などを楽しむイベント「おたのしみ会」を開催した。学校団体向け体験型学習プログラムは、障がい児教育の専門家のアドバイスのもと特別支援学校向けプログラムをブラッシュアップし、30校369名（特別支援学校含む）の児童が参加した。

6月に近隣の小学校と「不忍池環境学習プログラム」を行った。子どもたちがそれぞれ興味をもった不忍池の生き物について調べ学習を行い、10月に発表会を行った。発表会には子供動物園係と教育普及センターの職員も出席し、子どもたちの質問への回答やアドバイスをを行った。

事前募集型プログラム「うねのZOOスクール」は羽やうろこ、毛などの標本とモルモットやウサギの触察から動物の多様性について学ぶ「羽、うろこ、毛の不思議」と、肉食獣（トラ）や草食獣（ウマやモルモット）、鳥類の頭骨や餌の触察から頭骨の造形と食性の関わりについて学ぶ「ホネ・ホネたんけん隊」を実施した。視覚障がい児を対象としたクラスでは、一人一人がじっくりと触察し、音や重さ、香りなど五感を使った観察を取り入れたことで、「言葉や映像では得られない、動物園ならではの貴重な体験により、弱視児が楽しみながらより多くの学びを得ることができた」と高い評価を得た。

【利用者サービス】

令和4年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を確実に実施しながら、5類感染症移行後は、訪日外国人旅行者、団体、土日祝日の来園者が増加し、年間入園者数は326万人を達成するなど、国内外の多様な来園者を迎えることができた。

4年ぶりとなる入園制限のない春休みとゴールデンウィークについては、キャッシュレス及びオンラインチケット導入後初めてであり、弁天門からの入園も初めてとなることから、各入園門の受入れ体制を整え、柔軟に対応した。

弁天門は日常的に午前7時台から入園待機列ができる状態であることから、入園門前の混雑を避けるため、開園前に園内への引き込みを行い、スムーズな入園と案内を実施することができた。

池之端門については、10月10日より開園時間を10時30分から10時に変更し、根津・湯島方面からの利便性が向上した。展示動物の観覧動線については、改善を行いながら、丁寧な声掛けにより来園者サービスの向上に努めた。

ジャイアントパンダについては、双子のシャオシャオとレイレイの観覧待機列が平日で最大1時間、土日祝日で1時間半程度となったが、ブースごとに時間制限を設けた観覧に変更したことにより、立ち止まってじっくり観覧することができると好評が得られた。

記録的な猛暑となった夏の暑熱対策としては、日よけのテントや大型ミスト機を設置したほか、「ひんやりZOOスポットでひとやすみ」と題して、園内にて涼める場所の案内や動物の涼み方を紹介した配布物を作成した。

また、訪日外国人向け、英語と中国語による熱中症予防のアナウンスを実施した。

収益事業では、4年ぶりに入園制限のないゴールデンウィークを迎えた。新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後は、パンダ号を始めとする団体やインバウンドが急回復したことに伴い、西園無料休憩所ではフルメニュー販売、バードソングでは平日の営業を再開した。

ギフト店では、6月23日にジャイアントパンダのシャオシャオとレイレイの2歳記念商品を発売した。

8月には世界ゾウの日の企画として、環境に配慮した素材を使用した記念商品を取り揃え、ゾウを取り巻く状況を伝える取組を行った。2月にはジャイアントパンダ保護サポート基金による「つながり上野動物園ジャイアントパンダ飼育の50年【抄本】」を発売した。

フード店では、動物園らしさを楽しんでいただける商品として、オリジナルのパンダ型マシュマロを使用した「パンダのもりのグリーンアップルソーダ」や「カメレオンソーダ」「パンダみるくアイス」などを開発した。8月の世界ゾウの日の企画では、アジアゾウのアルンが砂遊びをしている様子をイメージしたわらび餅のデザート「アルンきな粉まみれ」を発売し話題となった。冬季にはマヌルネコの生息環境をモチーフにした「マヌルネコの隠れ家デザート」などを販売し、季節感を演出した。このアジアゾウ（アルン）やマヌルネコのデザートについては、飼育展示係や制作広報室の協力を得て写真を使用したメニュー開発を実現した。

外部販売では、東京都都市公園制度 150 周年記念事業の一環として上野恩賜公園開園 150 周年総合文化祭のブースでの営業や上野恩賜公園 It's My Park Day! みんなで公園日和「マルシェ日和」への出店を行った。その他、シャオシャオ・レイレイのカスタムフォトブックやフォトグッズ制作サービス「みんつく」を活用し、「つなが 【抄本】」に掲載されている写真やシャンシャンの写真が選べるカスタムフォトグッズを販売した。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

危機管理対策では、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に応じた各種感染防止対策を実施した。また、高病原性鳥インフルエンザ対策として、不忍池に集まる野鳥から飼育鳥類への感染を防ぐべく、様々な取組を実施した。

震災対策としては、初動対応訓練、テロ・無差別殺傷対策訓練を警察・消防の協力を得て実施するとともに、災害時の多様な事態を想定した机上訓練、安否確認・参集・無線等の各種訓練を行った。

更に、令和3年以降コロナ禍で中断していた猛獣脱出対策訓練を、スマトラトラが脱出したことを想定して行った。

園内維持管理では、省エネ対策として園内施設のLED化の更新を推進するとともに、園内樹木の枝処理や剪定作業、「ゴリラ・トラの住む森」の観覧通路をはじめとする園路の不陸部分の舗装補修、西園ベンチの補修など、利用者の快適性の向上と安全確保に努めた。また、施設維持管理の一環として、ゾウ舎NO.1プールスクリーン補修整備・旧正門横トイレ屋上防水等の補修を行った。

3. 多摩動物公園

【動物の飼育・展示】

希少野生動物をはじめとする様々な動物の飼育展示・繁殖に努め、36年連続でのニホンコウノトリの孵化を始め、キリン、ハイロガン、アカガシラカラスバト、アズマモグラ、タヌキなど様々な種の繁殖に成功した。特筆すべき点として、アズマモグラが国内の動物園で初めて繁殖に成功したことを7月に確認し、メス1頭が順調に成育している。一方、インドサイ（オス）、タスマニアデビル（オス）、シフゾウ（メス）等が死亡している。新たな繁殖・展示を目指すためライオン（オス）、タイリクオオカミ（メス）、タスマニアデビル（メス）等を搬入し、ボルネオオランウータン（メス）、ユキヒョウ（オス）、モウコノウマ（メス）等を搬出した。キリンの群れ管理維持のため2020年から若オスの去勢手術を実施しているが、令和5年度には3頭の処置を行った。

施設関連では、旧キリン舎跡地にシマウマ、オリックス等を飼育展示する施設整備が進められている。

令和5年2月に園内の「カモ池」及び「ソデグロヅル舎」で発生した高病原性鳥インフルエンザにより令和5年2月16日より臨時閉園をして、園内の消毒などの防疫措置を実施してきたが、その後の飼育鳥での発生が終息したことから、4月4日に高病原性鳥インフルエンザの清浄化を確認し、4月10日から一部の区域を除いて再開園した。

昆虫園の本館では、10月6日に発生した床上浸水事故によるエレベーターの故障で2階へ行くことが困難な来園者のために、ハキリアリのライブ映像を1階で見られるようにした。

新型コロナウイルスのため令和2年2月より中止していたオキナワトガリナナフシなどのふれあい展示は10月より再開した。グローワームはスイスのウォルター動物園と飼育等に関する協定を結び、卵を送付している。生態園ではヘイケボタルの成虫が発光する様子の周年展示を継続している。

【野生生物の保全】

トキは、自然繁殖により3ペアから計4羽を育成した（うち3羽は自然孵化）。また、幼鳥4羽と飼育中の成鳥3羽を佐渡トキ保護センターへ移送するとともに、新規の2ペアを受け入れ、野外に放鳥した際に定着できる個体を育成するため、自然繁殖が期待できるペアへの更新を図った。

国内の飼育下繁殖の拠点として継続して飼育・繁殖に取り組んでいるクロツラヘラサギでは、リニューアル準備のため飼育場所が無くなる葛西臨海水族園から1羽を受け入れ、国内2施設へ計7羽の搬出を行った。

アカガシラカラスバトは、平成30年以降自然繁殖が順調で遺伝的多様性を高めるため、野生からの保護個体を優先した繁殖に取り組んでいる。令和5年度は、父島で保護された個体1羽を受け入れた。

ニホンコウノトリは、(公社)日本動物園水族館協会のニホンコウノトリ管理計画に基づき、飼育繁殖の継続（メス2羽成育）、個体の移動（搬出2ペア・搬入オス2メス1）を実施した。

9月23日の日野市主催のシンポジウム「日野にもくるかな、コウノトリ」では、「ニホンコウノトリの野生復帰と動物園での取り組み」について講演した。また、IPPM-OWS（コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル）と共催で3月9・10日に「コウノトリまつり2024」を開催した。

ボルネオオランウータンは、令和2年10月より釧路市動物園から一時預かり中のメスの社会性学習を実施していたが目的もほぼ達成されたと判断され、10月に繁殖目的で搬出した。

ユーラシアカワウソ（韓国産個体群）は、5月に韓国の動物園関係者が来園し動物相互寄贈について合意した。12月には多摩動物公園の職員が韓国の動物園及び生息地（安山葦の湿地公園）を訪れ、

飼育技術に関することや野外での生態や保全の状況について情報収集を実施した。

アナカタマイマイは飼育繁殖を継続するとともに、飼育下個体群の遺伝的劣化状況把握のため近交系での累代飼育をスタートした。また、都立動物園で保全に取り組む小笠原固有の陸産貝類の受け入れ対象種を増やすため、上野動物園のアナカタマイマイを多摩へ移管した。

オガサワラシジミは全ゲノムリシーケンス及び形態形質の測定のため保管していた試料を兵庫県立大学と奈良教育大学へ移送した。

野生動物の保全調査事業としては、園内アズマヒキガエルの減少が顕著なことから、アライグマなどによる捕食の影響を受けない旧類人猿舎放飼場に卵を放ち、モニタリングを継続して行っている。

【教育普及】

新型コロナウイルス感染症対策による制約の緩和に伴い、キーパーズトークや動物解説員のガイドツアーなどの定例イベントを徐々に再開した。また、新型コロナウイルス感染症対策の中で培ってきたオンライン技術は遠方からの参加が可能であるなどの利点もあるため、一部のプログラムでは適宜オンラインを取り入れながら教育普及活動を行った。

今年度の教育普及活動において特筆すべき点を3つ挙げる。

①定例イベントの再開

飼育担当によるキーパーズトークは、令和4年度末ごろに試行の計画を進めていたものの、園内で高病原性鳥インフルエンザ発生に伴う臨時休園のため開始が遅れていた。ゴールデンウィーク後にまずは試行から再開し、十分な感染症対策を取る、トーク時間を短縮する、などの工夫を重ねながらより良い実施方法を探り、定着させることができた。動物解説員によるガイドツアーは、新型コロナウイルス感染症対策を実施していた時期は「動物ガイド」としてスポット形式で実施していたが、5類感染症への移行後は、以前のガイドコースや時間、内容の見直しを図り、9月からツアー形式のガイドとして再開している。

②企画展の充実

年間を通じて大小さまざまな企画展を開催した。夏に実施したカブトムシ展は、「カブトムシの春・夏・秋・冬」と題し、あまり知られていない秋から春にかけてのカブトムシの姿や暮らしぶりについて、実物と解説パネルにより紹介した。毎年実施している干支の企画展は、2024年の干支が辰（竜）であることから、漢字で「土竜」と書くモグラをテーマに取り上げ、「ようこそ 土竜世界（モグラランド）へ」を開催した。土の中で暮らすため目にする機会がないモグラの生態や人との関わりなどについて幅広く紹介した。モグラのトンネル標本の展示や体験コーナーも設置し、多くの方にモグラについて知っていただく機会となった。

③タスマニアデビル来園に伴う記念イベント

タスマニアデビルの現地での危機的な状況を広く知ってもらうという使命を担う動物大使（アンバサダー）として、2月にタスマニアデビル2頭が来園した。これに伴い、園内では様々な普及啓発イベントを実施した。ウォッチングセンターエントランスでは、タスマニアデビルの現状や保護活動、タスマニア島の自然について紹介するパネル展を実施した。3月には動物ホールでスペシャルトークを行った。このスペシャルトークでは、現地での保護活動や、タスマニアデビルを受入れるにあたり現地で行われた研修の様子などについて、園長と飼育担当者が動画を交えながら話し、200名を超える参加者が聴講した。また、これらのイベントと並行して、現地での保護活動を行っている「セイブ・ザ・タスマニアデビル・プログラム」への支援を目的とした募金活動も行い、多くの方に募金への協力をいただいた。

その他、令和4年度から多摩動物公園の公式ウェブサイト上で公開している幼児向けオンラインコンテンツ「キッズ アンド ズー」は、新たに工作シリーズをリリースした。また、これまで「動物新聞」として発行してきた月刊の動物見どころ情報紙は、紙面デザインのリニューアルのため一時的に休刊していたが、名称を新たに「TAMA NEWS」として1月から再刊した。

外部機関や企業との連携としては、日野市市制施行60周年記念イベントとして講演会やブース出展を園内で開催したほか、第9回アフリカフェアなどを実施した。

【利用者サービスの提供】

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後から入園制限は行わず、来園者に対しては引き続き消毒やこまめな手洗い、長く立ち止まらずにご観覧いただくことなどについて、協力を依頼した。

高病原性鳥インフルエンザ発生による休園からの再開園に当たっては、消毒のため撒布された消石灰に来園者が触れることがないように、園路からの除去作業を行った。また、高病原性鳥インフルエンザ対応等により非公開となった展示については、掲示物等による分かりやすい情報提供に努めた。

サバンナエリア工事のため、昆虫坂からサバンナまでの園路が8月末まで通行止めとなっていたが、ドリームナイト・アット・ザ・ズー in Tokyoやサマーナイトの際は、限定的に規制を解除することにより、アフリカ園へアクセスしやすい園路を提供した。

収益部門では、「飼育の日」、干支企画展「ようこそ土竜世界（モグランド）へ」「タスマニアデビル来園記念イベント」「コウノトリまつり2024」など教育普及プログラムに関連したメニューの販売や、ギフト商品では特設コーナーを展開して販売を強化した。また、サバンナキッチンでは注文の待機時間を緩和するため、オンライン整理券システムを試験的に導入し、利便性向上への施策も進めた。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

令和3年度より急速に拡大したナラ枯れ被害の拡大対策として、園路や動物舎周辺のコナラの健全に、あらかじめナラ枯れ防止剤を樹幹注入し、新規ナラ枯れ感染を予防した。

また、ナラ枯れ被害にあった樹木は、倒木や落枝による被害が発生する前に伐採作業を進め、来園者の安全・安心の確保につなげた。

経年劣化に伴い発生したサバンナキッチン周辺やウォッチングセンター前の不陸の解消や、昆虫広場やカンガルー広場など園内各広場の老朽化した野外卓の補修や更新を行い、来園者に安全かつ快適な環境を提供した。

危機管理対策としては、テロ対策訓練を7月に実施した。令和元年12月以来3年半ぶりの実施であったため、今一度基本に立ち返り、園内で事件が発生した際の情報共有体制の確認及び警察への速やかな通報、サスマタを使った実技研修といった来園者の安全確保の流れを確認した。11月には事業継続を目的とした机上訓練を行い、地震等の発災時における安全確認箇所の優先順位等の確認を行った。2月には震災対策初動対応訓練を実施し、来園者避難誘導及び傷病者搬送等の対応に加え、自衛消防隊の放水手順の確認を含めた訓練とした。

4. 葛西臨海水族園

【動物の飼育・展示】

大洋の航海者エリアの「大洋の航海者マグロ」水槽では、5月にクロマグロの1歳魚を30尾追加し、安定した群れ展示を作り上げた。

8月に高知県でバショウカジキの試験的な収集を行い、1尾の輸送に成功したが、繁殖センターに收容した翌日に死亡したため展示までに至らなかった。また、バショウカジキ調査時に採集されたタコブネをトピック水槽及び浮遊生物コーナーで展示し、12月までの108日間展示することができた。

10月にはオーストラリア・ダーウィンで自家採集したナーサリーフィッシュ25尾を搬入した。

令和4年8月に展示変更してオープンした「サンゴ礁の海」水槽は、照明や擬岩の追加を行うとともにイシサンゴ類を中心とした生物を追加し、展示を充実させた。

新たな展示手法開発の一環として、夜間に集魚灯を使ったライトトラップによる採集を昨年度より継続して行い、オオタルマワシや魚類の稚魚などのトピック展示を実施した。

新水族園の整備開始に向けて、9月までにコウノトリとタンチョウをそれぞれ1羽、クロツラヘラサギ5羽を搬出し、「水辺の鳥」を休止した。また、「ペンギンの生態」改修工事のため、フンボルトペンギン98羽を6園館に分散して搬出し、1月より休止したが、テントデッキ横の芝生部分に仮設展示場を設置して3月よりオウサマペンギンの展示を開始した。

「海鳥の生態」では、エトピリカが1羽とウミガラスが2羽、展示場で繁殖した。

【野生生物の保全】

保全活動として、4園共同でアカハライモリやミナミメダカの調査を継続的に行っている。アカハライモリの活動では、6月、8月と1月にフィールド調査を実施し、8月と1月の調査では引き続きタグリーダーアンテナを用いた陸上個体探索を行った。また、7月と2月に地元小学校の5年生を対象に授業を実施した。

ミナミメダカでは、葛飾区産個体群15個体を葛飾区へ譲渡した。また、調布市産個体の譲渡に向けて、東京都立農業高校及び神代植物公園の3者で覚書を交わした。トビハゼ調査では、当園が事務局となり、東京湾内で調査研究を行っている8施設による「トビハゼ保全施設連絡会」はコロナ禍により延期が続いていたが、8月8日に3年ぶりに開催することができた。フィールド調査では、7月に巣穴調査を実施し、10月に稚魚調査を実施した。また9月には、トビハゼ保全施設連絡会の協力により、観察会「トビハゼの調査地を訪ねる」を開催した。域外保全では、展示水槽内で繁殖に成功し、7月から8月にかけて、展示水槽内で9回稚魚が確認されている。東京産両生類の保全活動では、アカハライモリ、トウキョウサンショウウオ、ムカシツチガエル、カジカガエルの産卵に成功している。

卵の育成については、4園で構成する東京産両生類ワーキンググループの繁殖計画に従い、計画的な育成をしている。産卵した種のうち、アカハライモリ、ムカシツチガエル、カジカガエルを育成している。また、他園よりニホンアカガエルとアズマヒキガエルの幼生又は幼体を移管している。

ゼニタナゴの保全では、4月に稚仔魚の浮出を確認し、7月までに205尾を育成することができた。

8月に千葉県我孫子市で開催された第10回全国タナゴサミットにおいて、「葛西臨海水族園におけるゼニタナゴの保全に向けた取り組み」についてポスター発表を行った。

環境省がすすめる小笠原陸産貝類WGへ協力し、4園のとりまとめを行うとともに、小笠原諸島における個体群再生に協力している。葛西では、カタマイマイの系統保存をしていたが、今年度はアナカタマイマイ全個体を上野動物園へ移管し、カタマイマイの一部を井の頭自然文化園へ移管した。そして新たに小笠原世界遺産センターよりキノボリカタマイマイ30個体を導入した。

キノボリカタマイマイは2月に産卵を確認している。また、環境省が進めているウミガラス保護増殖委員会に職員が委員として参加し、域内保全に協力した。

国立研究開発法人水産研究・教育機構と締結した包括連携協定の一環として、「ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業」に参加し、ニホンウナギの種苗実験に協力した。

小笠原諸島で例年行っているユウゼン調査は、11月に兄島の調査区内で個体識別のための潜水調査を行った。ユウゼンの域内保全の取組としては、ペアの形成及び産卵まで確認できており、仔魚の育成にチャレンジした。

【教育普及】

前年度に引き続き、年度当初はコロナ禍による開園中の対面で行う教育活動の制限を行っていたが、5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類感染症に移行したことに伴い、状況を見ながら少しずつ対面での教育普及活動を再開した。

また、年間を通じてX（旧Twitter）で積極的に園の情報発信を行うとともに、YouTubeでの情報発信と連動させるなどの工夫をし、多様な情報発信を行った。行動制限の緩和や感染状況などを見ながら、徐々に対面での活動も再開するとともに、対面とZoom併用のハイブリッド形式での活動も実施した。

7月には障がいのある子どもとそのご家族をご招待する「ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウム in Tokyo」を参加者の募集人数を制限した上で昨年に引き続き対面で実施した。

8月のお盆期間中の指定日に開園時間を3時間延長し、開園中に水槽の照明を消して魚たちといっしょに夜を迎える「Night of Wonder——夜の不思議な水族園」を昨年に引き続き実施した。マグロやペンギンのガイドを行ったほか、水槽前にスタッフが立ち、見どころや観察ポイントを紹介した。

10月は葛西臨海水族園の開園記念日イベント「ALL ABOUT MAGURO」を実施し、マグロと他の魚を比べて学ぶ「くらべるマグロシート」の配布や「マグロ飼育担当によるスタッフトーク」を行い、情報資料室では「マグロのぞき」と題してマグログッズを展示したほか、マグロに関するYES or NOクイズ「マグロウルトラクイズ」や東京シーライフボランティアーズによるスペシャルガイドなどを実施した。

11月には開園以来の入園者の累計数が6,000万人を超えたことに伴い、6,000万人目の入園者に園長から記念品をお渡しするセレモニーをガラスドーム内で実施した。また、達成後の入園者に記念缶バッジを配布した。

お正月は、2024年の干支である辰に絡めてタツノオトシゴやアマモに関する「YES or NO」クイズ「辰年ウルトラクイズ！」を実施したほか、水族園の展示生物をテーマにしたおみくじ「開運・かさりんみくじ」を来園者に配布した。

2月には「Deep of Wonder——不思議な深海の生き物たち」と題して、深海の魅力を伝える様々なプログラムを開催した。深海生物をテーマにした「深海スタッフトーク」の実施やオリジナルの深海カードの配布などを行った。

子ども向けの体験型プログラムは、「西なぎさ」でのフィールド観察を幼児向けの「進め！海のいきものたち」、小学1・2年生向けの「いきものことはじめ」、小学3・4年生向けの「海のあそびや」、小学5・6年生向けの「集まれ！汐っ子たち」で各2回実施した。

フィールド観察プログラム「東京の海を知る」では、「ラムサール条約登録湿地の人工干潟を訪ねる」と「東京の海の幸を釣る・食べる」をそれぞれ実施した。高校生・大学生向けの「海の学び舎」は、ハイブリッド形式で2回実施した。

7月に「ウミホタルから光を盗むキンメドモドキ 新しい進化の戦略——盗タンパク質」、12月に「魚

類の社会と性転換の進化～行動生態学的アプローチと野外研究～」をそれぞれ実施し、オンラインでは全国各地から参加があった。

11月にはクロマグロの群れが泳ぐ水族園のマグロ大水槽と海からサケが遡上してくる山形県遊佐町の滝沢川をオンラインで結んで、ダイナミックな泳ぎのひみつや生活史のふしぎなどを、生中継しながら紹介する親子向けオンライン体験ツアーを昨年に引き続き実施した。

学校との連携では、実地での団体プログラムを実施し、未就学児から大学生まで合計262件15,640名に対して実施した。実地開催を行いつつオンラインでの遠隔団体プログラムの受け入れも継続し、合計7件367名に対して実施した。また博物館実習は、感染防止対策に配慮した上で例年どおり12名受け入れた。

一般向けの講演会は海鳥の保全をテーマとした「つどえ、オロロヘン！」や身近な水辺の保全講演会等、対面とZoom併用のハイブリッド形式で合計4回実施した。

10月は開園記念日に合わせて、国立研究開発法人水産研究・教育機構と共同でトークイベント「マグロの未来を語ろう！-これからもマグロを食べ続けるために-」を実施した。

12月には、講演会「つどえ、オロロヘン！」を、パートナーシップ協定を結んでいる羽幌町との共催により実施した。

2月には深海サイエンストーク「深海熱水にすむ生き物の特異な生き方」と身近な水辺保全講演会「知ればきっと行きたくなる 東京湾の干潟ってどんなところ？」を、それぞれ実施した。

特設展示「イキモノマヅカ」では、自由観覧のほかに、1日2回の解説プログラムを実施し、合計596回5,136名に対して実施した。

移動水族館事業は、標本等の教材を使用したプログラムを再開している。水槽等周辺の消毒を定期的に行う等、引き続き感染症防止対策を行いながら実施した。障がい等のために来園することが難しい特別支援学校や社会福祉施設の利用者を対象に、合計50回実施した。

【利用者サービス】

昨年度（令和4年12月まで）は新型コロナウイルス感染症の影響により団体入園について受け入れの制限を行っていたが、今年度は年度当初より制限が完全に解除され多くの団体の受け入れを実施した。制限解除による混雑集中も予想されたため、団体入園が特定の日に集中しないよう、また快適に観覧いただくことを目的に、団体来園予約状況や過去の来園者数を参考に混雑予想を立てた「混雑予想カレンダー」をホームページ上で発信した。

多様な来園者を迎えるための取組として、乳児連れのお客様向けにベビーケアルーム（箱型の授乳室）を本館内に2台追加設置（8月及び12月以降常設）し、環境を整備した。また、外国人来園者への対応として、館内定時放送を日英2言語対応に更新（9月）した。案内接客スタッフの接客力向上を図るため、月1回の英会話講習を実施したほか、障がいをもつ方への理解とコミュニケーション方法を学ぶ「ユニバーサルコミュニケーション研修」を実施した。

夏季における園内サービスとして、無料休憩所において、遮熱・遮光を目的としたつる性植物（西洋アサガオやトケイソウ）による緑陰の創出を継続したほか、輻射熱対策としてミスト扇風機の導入（正門、レストハウス、ペンギンテラス）等、涼感の演出による入園者向けサービスを継続実施した。

収益部門のレストランでは前年度に引き続き、持続可能な漁業や養殖業の認証である「MSC/ASC認証食材」の使用や地産地消を推進した。「ASC認証スモークサーモン」を使用したメニューの発売を開始したほか、東京都産食材を使用した「江戸川区産小松菜の和風パスタ」を発売し『とうきょう特産食材使用店』として認可された。ギフトショップではエコグッズコーナーを展開したほか、海洋プラス

チックを含む再生樹脂を使用したボールペンの販売を開始するなど、SDGsを意識した商品展開を行った。また一年を通し園内イベントと連携した店舗展開をレストラン、ギフトショップ共に実施した。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

経年劣化による機器故障の補修や配管類の破損修繕を行うとともに、予防保全として不具合発生前の改修や快適性向上のため壁面塗装やベンチ補修等、約120件の工事や修繕等を実施し、設備の適切な運用に努めた。

園内樹木は、植樹から30余年が経過し育成から成熟の時期を迎えたことにより、樹形を考慮しながら剪定と世代交代を意識した間伐を行い、健全な生育と自然環境の創出、保全を行った。

危機管理対策としては、地震発生時の初動対応訓練を継続実施したほか、大規模災害相互救援に関する広域連携基本協定の締結先である新潟市水族館マリニピア日本海と協議会を開催し防災に関する情報交換を行った。また、新たに名古屋港水族館を加えた3者間で「大規模災害相互救援に関する広域連携基本協定」を令和6年3月31日に締結した。

テロ対策に関する職員の意識及び対応力の向上を目的として、葛西警察署及び警視庁、隣接する公園と連携したテロ対処合同訓練を実施した。サスマタの実技講習を行ったほか、刃物を持った不審者が館内に現れたというシナリオのもと、園内各所で実際にサスマタを使用した実技訓練を行った。訓練後には、爆発物テロ対策講習会を開催した。

感染防止対策としては、5類感染症移行後も引き続き検温や手指消毒液の設置・提供を継続したほか、園内でのルールをわかりやすく来園者に伝えるために作成した「新しい水族園の楽しみ方」を公式HPや園内にて掲出した。

5. 井の頭自然文化園

【動物の飼育・展示】

動物園（本園）では昨年度に引き続き、ソウル大公園（韓国）から搬入したアムールヤマネコのペアから5月2日に4頭（オス3頭メス1頭）が誕生した。5か月後の10月20日から子ども4頭のうち、オス3頭の展示を開始し、来園者の人気を集めた。昨年生まれた4頭（オス1頭メス3頭）のうち、メス1頭を富山市ファミリーパークに搬出した。

ニホンカモシカにおいても昨年度に引き続き、4月20日にメスの仔が生まれた。一時的に両親2頭と昨年度に生まれた仔と計4頭の展示になり、こちらも人気を集めた。その後、昨年度生まれの個体は5月に飯田市動物園へ搬出した。

その他、11月8日にカピバラのメスが死亡し、本種の展示が休止となった。メンフクロウが2クラッチ産卵し、有精卵が取れたものの孵化には至らなかった。

コロナ禍によりモルモットのふれあい活動が中止していたが、生きものへの関心や大切に思う気持ちを育む新たなふれあい活動の試行を重ね、12月12日より「こんにちはモルモット」を開始した。

12月4日、ニホンリスの駆虫のために滴下、散布した薬剤により31頭が中毒死した。リスの健康管理のために行ったものであったが、再発防止策を講じた。

水生物園（分園）では、水鳥類の繁殖に取り組み、オシドリ6羽、ヒドリガモ5羽（うち4羽人工育雛）、マガモ1羽、オカヨシガモ5羽（うち4羽人工育雛）、ヨシガモ3羽（うち1羽人工育雛）、ツクシガモ3羽、コガモ1羽（人工育雛）、カリガネ1羽を成育した。また、昨年に続きミゾゴイが産卵し、井の頭では初めて3羽を育成することができた。高病原性鳥インフルエンザ対策では、近県発生時には弁天池側のハクチョウなど開放型の展示にいた水鳥類などをカリガネ舎やオシドリ舎など網で囲われたケージへ移動するとともに、すべての禽舎の屋根に遮光ネット又はポリエチレンラッセルネットを張り、野鳥の落下糞対策を強化実施した。また、害獣対策としてサギ舎コサギ室の金網の目合を小さいものへ交換した。

水生物館では、昨年より雌雄で飼育展示しているカイツブリが、令和5年9月に2羽、令和6年2月に2羽繁殖して、水槽内で子育てする様子を展示することができた。特設展示では、アカハライモリをテーマにしたものなど、2回の特設展示を実施した。

2011年から整備を進めてきた水辺のいきもの広場は、井の頭池の水位が下がったことで陸地の乾燥化が進み、湿生植物が見られなくなったため、水中ポンプで池の水を汲み上げて陸地部分に流し、湿地を再生した。

【野生生物の保全】

当園は、環境省と（公社）日本動物園水族館協会が共同で進める「ツシマヤマネコの保護増殖事業」に参画し、アムールヤマネコでの人工授精の成功を受け、同事業において「人工繁殖推進施設」と位置付けられている。平成27年度から令和2年度まで毎年、ツシマヤマネコの人工授精を実施してきたが、未だ妊娠・出産に至っていない。令和4年度は当園では人工授精を実施しなかったが、令和6年3月にアムールヤマネコで実施した。また、名古屋市東山動植物園で生まれたツシマヤマネコのメスを12月に受け入れ、同居訓練を行った。その後、令和6年2月に環境省ツシマヤマネコ野生順化ステーションへ搬出した。昨年度、コロナ禍以降3年ぶりとなる「ヤマネコ祭」を再開しており、本年度も10月に実施した。

平成29年度から新たに小笠原諸島父島に生息する陸産貝類（カタツムリ類）の絶滅危惧種であるカ

タマイマイの生息域外保全を開始し、平成30年6月に初めて産卵を確認した。今年度は葛西臨海水族園へのキノボリカタマイマイ搬入に伴い、葛西臨海水族園で飼育していたカタマイマイの受け入れを行った。このため、本年度の繁殖は実施しなかった。

また、(公社)日本動物園水族館協会と環境省との間で締結した「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づくトゲネズミ類の生息域外保全等推進事業に協力し、令和2年7月にアマミトゲネズミのオス6頭、メス4頭を受け入れて、飼育を開始した(非公開)。そして、5月21日、8月7日、9月13日に出産を確認し、このうちメス2頭が成育した。なお井の頭自然文化園では初繁殖であった。同事業において策定した「令和5年度アマミトゲネズミ移動・繁殖計画」に基づき、令和5年11月にオス3頭メス1頭を横浜市金沢動物園から受け入れ、令和6年2月にメス2頭を足立区生物園へ搬出した。繁殖仔以外では、11月12日、1月9日、1月12日にそれぞれオス1頭が死亡した。今後もペアリングを進めて、繁殖を目指していく。

淡水魚類については、(公社)日本動物園水族館協会の種保存事業に協力し、ミヤコタナゴ、ムサシトミヨ、シナイモツゴの域外保全に取り組んでいる。ミヤコタナゴについては、令和5年3月10日に埼玉県滑川町エコミュージアムセンターより譲り受けた個体を繁殖に用いて、100個体の仔魚が得られた。

東京産両生類は、引き続き4園が連携して飼育下繁殖の技術向上に努めるとともに、4園間での個体の交換を進めた。令和5年度は、4月に多摩動物公園内で野外採集したアズマヒキガエル幼生40個体、葛西で育成した多摩の飼育下繁殖のアズマヒキガエル6個体を受け入れた。

また、令和6年2月に産卵孵化したニホンアカガエルの幼生40個体を葛西へ移動した。

【教育普及】

5月より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したこともあり、休止していたり内容を変更して行ってきたりした各種プログラムをコロナ前の内容に戻し、実施した。

当園の特色である専属のデザイナーによる、統一感のある親しみやすいデザインを活かした展示ラベル等の作成を行い、様々な魅力ある情報発信を継続した。地域連携等の企画においても自園のデザインをベースに展開し、園のイメージ強化を図った。

教育普及プログラムとしては、動物解説員による一般来園者へ向けた定例の「ミニガイド」、小学校教員対象の教員向けセミナーのほか、園内の展示を活用した特別企画として小学生対象の「身近ないきもの探検」を3回、「文化園いきものクラブ」を4回、大学生・専門学生を対象とした「大学生のためのズーカレッジ」、障がいのある子どもとそのご家族を対象とする「ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウム in Tokyo」などを実施した。その他、各種団体へはオンライン授業16件やアウトリーチ14件も含めて幅広く対応を行い、日本獣医生命科学大学や武蔵野美術大学、東京都教育委員会などをはじめとして、動物園の専門性を生かし、様々な団体組織の実習・見学等の受け入れを積極的に行った。動物解説員・彫刻園芸芸員による学校団体対応及び今年度から再開した職場訪問、職場体験を含めて計147件を受け入れた。動物園実習は9月に2名、博物館実習は11月に4名受け入れた。

また、身近ないきものを観察できる「いきもの広場」での観察プログラム「いきもの広場であそぼう!」を4月から再開し、隔週の日曜日、多くの子どもたちに生物の発見と観察の場を提供した。その他、「みてみて!えさの時間だよ」や「飼育係のいきものガイド」などの飼育係による定例ガイド、「飼育の日」「開園記念イベント」など各種イベントにおいて飼育係や農園芸職員などスタッフによるトークを行った。

野生生物の保全に関する普及啓発については、10月に「ヤマネコ祭2023」を2日間開催し、生息地

の対馬市や大学研究機関などヤマネコの保全に取り組む様々な団体とともに多様なプログラムを開催した。今年度から野生生物保全センターも出展し、当協会が取り組んでいる野生生物の保全や地球環境保全に向けた取組について、普及啓発を行った。

子どもたちを楽しみながら動物や当園について知ってもらう工夫として、オリジナリティの高いスタンプラリーを実施してきたが、開園81周年となった開園記念日には「今も昔も文化園めぐり」セルフガイドシート配布し、夏は2019年以来4年ぶりとなる「動物園怪談画劇―井之頭百物語・捌(はち)」スタンプラリーを再開、更に年末年始は干支の辰にちなんだ動物をめぐる「帰ってきた！ぶんかえん龍伝説」スタンプラリーを開催した。

東京動物園ボランティアズの活動も徐々に再開し、DGによる「ヤマネコガイド」「ヤマドリガイド」「ボトルウォッチング」、SGによる工作教室も開催するようになった。その他、DG・SGには開園記念日やヤマネコ祭等の園内企画にも協力してもらった。

資料館での企画展は、4月には飼育係の仕事について紹介する「飼育係のおしごと展」、7月～8月には創作怪談スタンプラリーのイラストを手掛けた天野行雄氏の原画や立体物を展示する特設展、9月～翌年1月には「Art and the Zoo vol.8」として当園で働く職員のそれぞれの思い出の動植物の記憶を元に作家の武藤亜希子氏が制作した作品を展示する「思い出いきもの園」を開催し、会期中に作品のモチーフとなった動物を武藤氏と動物解説員が解説するガイドツアーや子ども向けの創作ワークショップも開催した。

水生物園水生物館では、7月～11月には身近な生き物であったアカハライモリの特徴、都市部でその数を減らしている現状、そして保全の取組について紹介する特設展「いもり学にゆうもん」を、11月から(翌年度まで継続)ニホンコウノトリの普及啓発を目的とした特設展「おしえて！コウノトリ」を開催し、飼育係によるトークも実施した。

講演会は、10月に鳥羽水族館の三谷伸也氏を招き、昨年同園が繁殖に成功したスナドリネコについて、当園でのアムールヤマネコの繁殖についての報告とあわせたヤマネコ保全講演会「動物園・水族館ができること―アジアに生息するヤマネコを守る」を実施した。2月にはトンボの研究者である国立研究開発法人産業技術総合研究所の二橋亮氏を招き、身近な水辺保全講演&観察会「冬のトンボはどうしてる？都心の水辺でだいそうさく！」を実施し、小学生の親子を対象にレクチャーあわせて、「いきもの広場」でヤゴ探しと観察をおこない、都市部の水辺についての理解を深めてもらった。

地域との連携では、5月の開園記念日イベントや10月のヤマネコ祭で地元の製品を販売するマルシェへの出店協力をしてもらった。また、「むさしの環境フェスタ」及び「三鷹国際交流フェスティバル」にて、当園の野生生物保全について紹介するブース出展や、その取組を伝えるワークショップを開催した。更に、地元吉祥寺の商業施設との連携企画を実施し、動物園事業の普及啓発に努めた。

彫刻園では、常設展示に関するセルフガイドシートの配布、彫刻園学芸員によるギャラリートークの実施に加え、企画展「北村西望書道展―ながれとにじみ」,「大正時代の写実主義―北村西望の彫塑と日本画」展,「北村西望の浮き彫り」展,「彫刻を設置しに行く。北村西望の旅」展、企画展「写真と彫刻」を開催した。また、9月には親子向けの「彫刻を洗おう！」ワークショップ、2月にはハイブリッド型シンポジウム「近代彫刻の石膏原型の保存修復を考える」を開催した。

園内情報発信整備として、和鳥舎で飼育展示している種の音声観察を促すための情報パネルを作成した。

【利用者サービス】

令和5年3月1日をもって新型コロナウイルス感染拡大防止のための滞留人数管理方式は撤廃されたが、最繁忙時期であるゴールデンウィーク期間中の混雑対策として、ホームページ等を通じたオンラインチケットの利用促進及び公共交通機関利用の呼びかけを行うとともに、5月4日の無料開園日は4年ぶりに臨時門（万助橋門）を開放した。ゴールデンウィーク後、5月8日から新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類感染症に変更されたことに伴い、園内での各種制限を順次緩和した。

10月7日、8日は恒例の秋の開園3時間延長「ちょっとおでかけ 秋の夜長の自然文化園」を開催した。企画内容の充実を図るとともに、広報活動ではポスターグラフィックをSNS広告などウェブ上にも積極的に展開し、2日間の入園者数は本企画過去最大の17,256人（令和4年度比48%増）を達成した。この広報活動について、政策企画局主催の第1回「伝わる広報大賞」に応募したところ、リピーター増などの成果を伴う広報活動の質の高さが認められ、クリエイティブ賞（静止画部門）を受賞、2月15日に東京都庁第一本庁舎で表彰式が行われ、知事からトロフィー等を授与いただいた。

案内接客スタッフの接客力向上のため各種研修を実施した。コロナ禍で中断していた英会話講習については、令和4年度に再開した際は年1回実施だったが、令和5年度は頻度を高めて本格的に再開し、年7回実施した。また、ビジネスマナー&コミュニケーション研修と題し、接客業務における一般的なビジネスマナーを再確認するとともに、仕事上の意思疎通の円滑化等に資するアサーション（互いを尊重しながら適切に意見を主張するコミュニケーション方法）について学んだ。

ギフト&フードショップ「こもれび」とフードショップ「はな子カフェ」では、繁忙日のケータリングカー活用など、来園者状況に応じた柔軟で効率的な店舗運営を行った。夜間開園では正門周辺に販売拠点を集約するとともに、ツシマヤマネコ保全の取組と連携したクラフトビール「ヤマネコエール」の発売などにより、満足度と売上の向上に寄与した。このほか、オリジナル商品や季節に応じた限定メニューを展開した。

次年度の暑熱対策強化等のため、正門先広場及び芝生広場横に可動式オーニング（リパーロ）を2月26日から3月12日にかけて設置した。また、大型ミストファン装置（パワーブリーザー）2台が3月に納品された。

老朽化した施設の改修として、分園鳥舎で脱落した鋼材の補修を行い、飼育動物の脱柵を未然に防止した。また、鳥インフルエンザの一環として、分園サギ舎において外から小動物が入り込みづらいよう前面の網の交換等を行った。今後も、計画的に鳥舎の改修に取り組み老朽施設の長寿命化を図っていく。更に、文化園として心地よい空間づくりのため、老朽化した擬木柵に代え、リスの繁殖棟で発生した杉丸太を活用するなど天然木材を使ったロープ柵の改修を行った。

花木の植栽管理を重点的に取り組み、桜、藤、シャクナゲ、椿、山野草など、季節を彩る花の充実を図り、来園者に園を楽しんでいただけるように取り組んだ。更に、園内の植物の見どころを紹介する「花ごよみ」に加え、花の動画を合わせて配信し、文化園の魅力発信に努めた。

ハンギングバスケットや年末・年始の飾りつけなど、植物素材を用いて時節の飾りつけを行い、来園者に楽しんでいただいた。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

入園者及び園外周沿道の歩行者、通行車両の安全・安心確保のため、樹木点検により支障枝・腐朽等を早期に発見し処理に努めるほか、大径樹木については、高所作業車を入れた支障枝撤去作業を実施した。老朽化したベンチやテーブルを点検し、不具合のある箇所を補修するなど、来園者が安心して楽しめるよう工夫した。

Ⅱ．事業実績

〔１〕飼育・展示事業

１．展示動物の収集・管理

（１）動物収集業務

国内外の飼育動物の情報収集に努め、動物交換、贈与、共同繁殖のための動物貸借（BL：ブリーディングローン）等により動物の導入を積極的に行った。

【主な収集動物】

園 名	種 名	数量	区分	摘 要
上 野	ワタボウシタマリン	1	借受	日本モンキーセンター
	シロテテナガザル	1	借受	高知県立のいち動物公園
	スバルバルライチョウ	1	贈与	市立大町山岳博物館
	アフリカニシキヘビ	1	贈与	（一財）日本蛇族学術研究所
	チチジマカタマイマイ	30	預かり	環境省
多 摩	チーター	1	贈与	千葉市動物公園
	ヨーロッパオオカミ	1	交換	スイス・ベルン動物園
	タスマニアデビル	2	借受	タスマニア州政府
	ライオン	1	贈与	インドネシア・Batu secret zoo
	アミメキリン	1	交換	茶臼山動物園との交換 沖縄こどもの国より来園
葛 西	クロマグロ	30	購入	伊豆中央水産株式会社
	ナーサリーフィッシュ	25	その他	オーストラリアにて採集
	アークティック スタッグホーン スカルピン	3	贈与	バンクーバー水族館
	スジアラ	4	贈与	国立研究開発法人水産研究・教育機構
	アオウミガメ	2	借受	小笠原母島漁業協同組合
井の頭	ホンドテン	1	贈与	富山市ファミリーパーク
	コシジロヤマドリ	1	贈与	宮崎市フェニックス自然動物園
	ツミ	1	その他	東京都環境局
	ヤマガラ	2	その他	東京都環境局
	カタマイマイ	12	その他	葛西臨海水族園

（２）動物管理業務

動物台帳の管理を適正に行ったほか、国内外における希少種血統登録への参画や約100カ国で1,200以上の動物園水族館等が加盟するSpecies360（旧称：国際種情報システム機構）の会員として、動物情報管理システム（ZIMS）を用いて世界中の園館と動物情報を共有する等、適切な個体群管理に取り組んでいる。

【展示動物飼育数】（令和6年3月31日現在）

園名	類	目	科	種	点	備 考
上 野	哺 乳 類	18	56	91	1,072	
	鳥 類	20	46	94	511	
	は 虫 類	4	28	65	247	
	両 生 類	2	15	30	502	
	魚 類	7	7	7	136	
	無 脊 椎 動 物	4	6	6	307	
	計	55	158	293	2,775	
多 摩	哺 乳 類	10	28	55	525	
	鳥 類	16	24	80	899	
	は 虫 類	1	4	5	32	
	両 生 類	2	5	7	100	
	魚 類	1	1	5	14	
	無 脊 椎 動 物	22	52	111	15,946	シロアリ目及びアリ目の社会性昆虫2科3種6群含む
	計	52	114	263	17,516	
葛 西	哺 乳 類	0	0	0	0	
	鳥 類	2	2	6	242	
	は 虫 類	1	2	3	14	
	両 生 類	2	6	8	169	
	魚 類	24	119	449	13,998	
	無 脊 椎 動 物	70	174	467	27,132	
	計	99	303	933	41,555	
井 の 頭	哺 乳 類	7	17	31	364	
	鳥 類	12	21	57	267	
	は 虫 類	2	6	8	27	
	両 生 類	2	7	10	446	
	魚 類	7	11	38	1,772	
	無 脊 椎 動 物	6	13	17	468	
	計	36	75	161	3,344	
合 計					65,190	

2. 飼育展示・調査研究

(1) 日常飼育業務

動物の健康と飼育環境管理を適正に行い繁殖に努めるとともに、創意工夫により、動物の特性を引き出すための展示改善やエンリッチメントを積極的に行った。

① 主な繁殖動物

園名	動物名	出産・孵化数				備考
		オス	メス	不明	計	
上野	ミナミコアリクイ		1		1	
	アイアイ		1		1	
	スマトラトラ	2	2	1	4	性別不明 1頭死亡
	ゼニガタアザラシ	1			1	
	シロガシラウシハタオリ	1		5	6	性別不明 5羽死亡 初繁殖
多摩	ユキヒョウ	2		1	3	3頭死亡
	アミメキリン		2		2	
	ホンダタヌキ	1			1	
	ハイイロガン	2	2		4	28年ぶり 自然繁殖
	アズマモグラ			1	1	初繁殖
葛西	エトピリカ	1			1	
	ウミガラス	1	1		2	
	ミナミイワトビペンギン	1	3		4	
	フンボルトペンギン	2			2	
	フェアリーペンギン	2	1		3	
井の頭	アマミトゲネズミ		2	7	9	7頭死亡
	アムールヤマネコ	3	1		4	
	ニホンカモシカ		1		1	
	カイツブリ	2	2		4	
	ミゾゴイ	2	1		3	

② 主な展示改善

園 名	主な展示改善の件名	内 容
上 野 動 物 園 合計 8 件	アフリカタテガミヤマアラシ舎へのガラスフィルム設置	放飼場ガラス面に反射防止のガラスフィルムを設置したことでガラスへの映り込みを軽減し、より動物を観察しやすくなった（観覧環境の改善）。
	木製やぐら設置 （ジャイアントパンダ）	日除け、雨除けとなるやぐらを設置したことで、雨天時の屋外展示や、やぐら下での休息、上り下りなどの三次元的な行動を引き出し、天候に関わらず、来園者にいきいきとした動物の姿を見せられるようにした。
	コアリクイの解説パネルの新設	世界アリクイの日に合わせて、イラストを交えた解説パネルを展示舎に新設した。
多 摩 動 物 公 園 合計13件	土山の設置 （アフリカゾウ）	アフリカゾウの放飼場に赤土の土山を設置した。気温の高い日などは土に水を含ませることで、泥浴びを行うようになり、泥浴びの様子を見せられるようになった。
	モグラ塚の作成	「モグラのいえ」内の展示において、飼育ケースの通路に穴を開ける加工をしたことにより余分な土が外に出て、モグラ塚ができ、モグラが見えづらい状況でもモグラの身近な痕跡を展示することができた。
	スロープの設置 （レッサーパンダ）	レッサーパンダの中庭展示場にハンモックへ登るための木製のスロープを設置した。高齢個体でも来園者の目線より上部に設置したハンモックまで登りやすくなるよう改善したことで、ハンモックで休息する姿を展示できるようになった。
葛 西 臨 海 水 族 園 合計 3 件	イシサンゴに適したLED照明の設置	「サンゴ礁の海」水槽に、イシサンゴの飼育に適したLED照明を設置したことにより、より状態の良いイシサンゴを展示できるようにした。
	擬海藻の設置	「海鳥の生態」水槽内に、擬海藻を設置したことにより、魚類の隠れ場所をつくることができ、鳥類と魚類の同居展示ができるようになった。
	ペンギン仮設展示場の整備	ペンギン放飼場の大規模改修工事による展示休止期間中に、テントデッキ付近に仮設展示場を整備して、工事期間中でもペンギンを観察できるようにした。

園 名	主な展示改善の件名	内 容
井の頭自然文化園 合計6件	ユーラシアカワウソの巣箱改修と植栽整備	ユーラシアカワウソ展示場内に設置されている木製巣箱の側面をアクリル板に改修し、巣箱内の観察を可能にした。特に、日中の巣箱内での寝姿が観察できるようになり、本種の夜行性の生態の普及啓発に繋げた。アクリル板は取り外し式とし、クリアな状態を維持できるようにした。また、巣箱前の人止柵内の植栽も刈り込み、巣箱内がより見やすくなるように改善した。
	オニバスの展示	都内の自生地由来のオニバスを展示し、関東水系の自然環境を構成する水辺の希少種とその保全を来園者に普及啓発した。
	アカハライモリの環境展示	水生物館特設展示「いもり学にゆうもん」の開催にあわせて、アカハライモリの生息環境を模した水槽を展示し、上陸直後の幼体を含む生態展示により、本種を育む環境について普及啓発した。

③ 主なエンリッチメント

園 名	主なエンリッチメントの件名	内 容
上 野 動 物 園 合計124件	アジアゾウ放飼場での砂山造成	ミニショベルを導入し、放飼場の砂で砂山を造成することが可能になった。これにより、ゾウが山を崩して遊んだり、斜面を利用して横臥したりすることができるようになり、飼育環境の向上及びアジアゾウの様々な姿を展示できた。
	エミューへの枝葉の給餌	これまで採食エンリッチメントとして枝葉を柵の隙間に差し込んで与えていたが、竹筒を加工した枝差しを制作し、来園者側の柵に設置した。エミューが最後まで枝葉を採食できるようになり、来園者もより近くで採食行動が観察できるようになった。
	プラットフォームの設置(クロシロエリマキキツネザル)	クロシロエリマキキツネザルの放飼場に木枠と消防ホースの吊り型プラットフォームを設置した。これにより、動物がリラックスして休息し、日光浴ができる場所が増え、福祉向上に役立っている。
多 摩 動 物 公 園 合計101件	アジアゾウへのカシ枝給餌	園内に動物の餌用として職員が植えて育ててきたカシ枝を給餌し、カシ枝の給餌量を増やした。採食時間を増加させることができた。

園 名	主なエンリッチメントの 件名	内 容
	放飼場への日よけ設置 (ゴールデンターキン)	放飼場に日よけを設置して日陰を増やした。 日差しが強い日には日よけの下に入る選択ができるようになり、暑さ対策として有効であった。
	寝室入口へのゴム製カー テンの設置 (アフリカゾ ウ)	ゴム製のカーテンをアフリカゾウの寝室入り口に 設置し、冬季の夜間に使用する暖房機の台数を4 台に増やした。真冬の夜間でも、最低15℃以上の 室内温度を保てるようになり、屋内と屋外を出入 り自由にする事が可能になりました。ゾウ自身 に環境の選択肢を与えることで生活の質を向上さ せた。
葛 西 臨 海 水 族 園 合計7件	ミストの設置 (フンボルトペンギン)	暑さ対策として、フンボルトペンギンエリアにミ ストを追加設置した。
	冷暖房機能付きの小屋の 設置 (ペンギン放飼場)	ペンギン放飼場に、暑さ・寒さ対策として冷暖房 機能をつけた小屋を設置した。
	夏季のミナミイワトビペ ンギン運動量増加	ミナミイワトビペンギンの行動解析結果を基に、 夏季の屋内収容中でも一時的に放飼場に放飼し、 運動量の増加を図った。
井の頭自然文化園 合計16件	ネズミ類への青草給与	資料館の野ネズミ類に青草を給与して、休息行動 や巣作り行動を引き出した。
	落ち葉の山設置 (イノシシ)	イノシシ展示場に落ち葉の山を設置して、休息行 動や穴掘り行動を引き出した。利用促進のため、 不定期にペレットを混ぜる等の工夫を追加した。
	フィーダー設置 (アナグマ)	アナグマ展示場に竹筒製のパズルフィーダーを設 置。器用な採食行動を引き出し、採食時間を延長 した。

(2) 研究成果の発表

動物園で得られた野生生物や教育普及活動に関する情報や研究成果等について、研究会等で積極的に発信した。

① 上野動物園（合計 8 件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
Evaluation of hormonal treatment protocol for ovulation induction with oral gestagen pretreatment in smatran tiger	<u>1 Laboratory of Theriogenology, Faculty of Veterinary Medicine, Hokkaido University</u> <u>2 Yagiyama zoological park</u> 3 Ueno zoological gardens <u>4 Laboratory of Animal Reproduction, Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University</u>	第 16 回アジア保全医学会大会（口頭）
動物園で飼育されているリュウキュウヤマガメとセマルハコガメの遺伝的変異 Genetic variation of the Ryukyu black-breasted leaf turtle, <i>Geoemyda japonica</i> and the yellow-margined box turtle, <i>Cuora flavomarginata</i> , in zoos.	鈴木 大（東海大学）、藤根 誠道（沖縄こどもの国）、坂田 修一、本田 直也（野生生物生息域外保全センター）、谷口 真理（自然回復）	日本爬虫両棲類学会第 62 回船橋大会（ポスター）
フォッサの高齢個体に対する環境の改善とハズバンダリートレーニングの導入	木岡 真一、鈴木 潤也	第25回関東東北・北海道ブロック動物園水族館合同技術者研究会（口頭）
シロガシラウシハタオリの人工孵化、育雛	奥谷 秋華、古川 周、高橋 幸裕	第71回動物園技術者研究会、（口頭）
Obstetric ultrasonography of pregnant Aye-ayes	木岡 真一	Madagascar Fauna and Flora Group 2023 Annual Meeting（口頭）
霊長類のエンリッチメント	木岡 真一	SHAPE-Japan 第4回環境エンリッチメントワークショップ（口頭）
ニシゴリラの子の人工哺育 “スモモ” が群れに戻るまで	仲村 賢	どうぶつと動物園 2024年冬号（2024. 1）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
希少種オガサワラカワラヒワを飼わずに守る カワラヒワによる飼育技術確立の取り組み	高橋 幸裕	どうぶつと動物園 2024年冬号 (2024. 1)

② 多摩動物公園（合計30件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
幼児向けコンテンツ「Kids and Zoo」の取り組みについて	友岡 梨恵	第64回日本動物園水族館教育研究会（口頭）
卵から成虫まですべて見せます「カブトムシ教室」	鈴木 佐知子、岩淵 けい子、香坂 美和	第26回関東東北北海道ブロック動物園技術者研究会（口頭）
コロナ禍におけるホタル観察会	渡辺 良平	「昆虫園研究」24巻
園内のチョウ類調査について	角田 淳平	第34回全国昆虫施設連絡協議会（口頭）
雌雄ゴールデンターキンにおける糞中の性ステロイドホルモン濃度動態を指標とした繁殖生理の解明	<u>吉田 智紀、高木 さくら、楠田 哲士（岐阜大学）、下川 優紀、太田 真琴（横浜市立よこはま動物園）</u>	第6回野生動物保全繁殖研究会大会（ポスター）
Reproductive Seasonality, Estrous Cycle, Pregnancy, and the Recurrence of Postpartum Estrus Based on Long-Term Profiles of Fecal Sex Steroid Hormone Metabolites regarding Zoo-Housed Female Golden Takins (<i>Budorcas taxicolor bedfordi</i>)	<u>吉田 智紀（岐阜大学）、下川 優紀、太田 真琴（横浜市立よこはま動物園）、高柳 真世、楠田 哲士（岐阜大学）</u>	Animals 2024, 14(4), 571
地中掘削機構における小型化の検討	<u>高橋 俊哉、大郷 竜也（日本工業大学）、川上 壮太郎、中里 裕一（日本工業大学）</u>	2024年度精密工学会春季大会学術講演会（口頭）
モグラの地中動作を模した小型掘削機構の研究 -モグラの地中掘削動作の解析-	<u>高橋 俊哉、大郷 竜也（日本工業大学）、川上 壮太郎、中里 裕一（日本工業大学）</u>	ロボティクス・メカトロニクス講演会 2023 名古屋（ポスター）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
小型地中掘削ロボットの開発 – モグラの掘削動作の解析–	<u>大郷 竜也、高橋 俊哉</u> (日本工業大学)、川上 壮太郎、 <u>新倉 謙一、中里 裕一</u> (日本工業大学)	2023年度精密工学会秋季大会学術講演会(口頭)
Who gets to drink juice –an analysis of strategies chimpanzee exhibit at Tama Zoological Park vending machine	<u>柿沼 美紀、畠山 仁、土田 あさみ、野瀬 出</u> (日本獣医生命科学大学)、野田 瑞穂、佐藤 澄音、河本 彩花、牧野 智治	日本動物心理学会 第83回(創立90周年)大会(口頭)
飼育下チンパンジー(Pan troglodytes)の自動販売機を巡る駆け引き一目の前の利益の追求–	<u>柿沼 美紀、畠山 仁、土田 あさみ、野瀬 出</u> (日本獣医生命科学大学)、野田 瑞穂、佐藤 澄音、河本 彩花、牧野 智治	駒澤大学心理学論集(KARP), No. 26, 2024. pp. 63–66
都市動物園における外周柵内の野生動物の生息状況とマダニの季節消長との関係	<u>加藤 卓也、小谷 海斗、土井 寛大</u> (日本獣医生命科学大学)、荒井 寛、齋藤 麻里子、徳田 雪絵、 <u>羽山 伸一</u> (日本獣医生命科学大学)	第29回日本野生動物医学会大会(口頭)
ニホンザルの精巣組織を用いた体外精子形成手法確立の試み	<u>山本 ゆき</u> (東京農工大学)、太田 香織、戸田 光亮、吉本 悠人、宮嶋 海、佐藤 早織、 <u>永岡 謙太郎</u> (東京農工大学)	第29回日本野生動物医学会大会(口頭)
飼育下タヌキにおけるため糞場の人為的移動の検討	<u>加瀬 ちひろ、川村 百瑛</u> (麻布大学)、山本 達也、佐々木 真己、高村 里美、濱田 奈々、 <u>植竹 勝治</u> (麻布大学)	動物の行動と管理学会2023年度大会(ポスター)
トガリネズミの飼育 飼育の工夫と繁殖までの道のり	川上 壮太郎	しらぬか トウキョウトガリネズミ展(口頭)
合板を用いた新たなゾウ用フィーダー設置の試み	松本 干城	第25回関東東北・北海道ブロック動物園水族館合同技術者研究会(口頭)
ボルネオオランウータンの人工保育個体への同居を通じた学習機会提供とその効果について	山本 達也	第71回動物園技術者研究会(口頭)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
Successful Artificial Insemination of Chimpanzees under Anesthesia	佐藤 澄音	第31回東南アジア動物園水族館協会年次総会(口頭)
オオアシトガリネズミの繁殖事例	川上 壮太郎	第6回野生動物保全繁殖研究会大会(口頭)
飼育下アカカンガルーに認められた非結核性抗酸菌感染による後腹膜及び骨盤腫瘍の一例	佐藤 早織	第29回日本野生動物医学会大会(口頭)
チンパンジーにおける犬歯の齧蝕に対する根幹治療の一例	戸田 光亮	第29回日本野生動物医学会大会(口頭)
1年間のM99使用報告	戸田 光亮	第35回大型動物麻酔研究会プログラム(口頭)
環境物質の評価を目的とした動物園動物の線維芽細胞に対するナノ粒子の影響	<u>鹿江 恭子、堀田 美玲、目下 多恵(東京農業大学大学院)、阪口 優衣、竹田 正裕、中村 智昭(伊豆シャボテン動物公園)、豊田 英人(埼玉県こども動物自然公園)、太田 香織、戸田 光亮、吉本 悠人、宮嶋 海、佐藤 早織、白砂 孔明(東京農業大学)</u>	日本哺乳類学会2023年度大会(口頭)
死亡した動物の線維芽細胞から褐色脂肪細胞への低分子化合物を用いた直接誘導及びスフェロイド作製の検討	<u>堀田 美玲、鹿江 恭子(東京農業大学大学院)、阪口 優衣、竹田 正裕、中村 智昭(伊豆シャボテン動物公園)、太田 香織、戸田 光亮、吉本 悠人、宮嶋 海、佐藤 早織、白砂 孔明(東京農業大学)</u>	日本哺乳類学会2023年度大会(ポスター)
Injuries and Cause of Death in Black storks and Oriental storks Cases at Tama Zoological Park	太田 香織	2023 Korea-Japan Webinar Plan「Health management for exchange of oriental storks and black storks between Korea and Japan」(口頭)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
Pituitary pars intermedia dysfunction with pituitary gland melanotroph adenoma in a Grevy's zebra	高橋 尚大、 <u>チェンバーズ ジェームズ</u> (東京大学大学院)、太田 香織、戸田 光亮、吉本 悠人、宮嶋 海、 <u>内田 和幸</u> (東京大学大学院)	The Journal of Veterinary Medical Science 86(1): 71-76, 2024
A new feather mite of the genus <i>Pelargolichus</i> (Acariformes:Pterolichidae) from the Oriental White Stork <i>Ciconia boyciana</i> in Japan	<u>脇 司</u> (東邦大学)、 <u>SERGEY V. MIRONOV</u> (Zoological Institute, Russian Academy of Sciences)、中島 亜美、 <u>島野 智之</u> (法政大学)	Systematic and Applied Acarology. 28 (3), 471-482. 2023
コアラの飼育に欠かせないユーカリを調達する	徳田 雪絵	どうぶつと動物園 2023年春号 (2023. 4)
チンパンジーの未来に向けて人工授精成功への道のり	野田 瑞穂	どうぶつと動物園 2023年夏号 (2023. 7)
園内のチョウ類調査 継続調査から見えてきたこと	角田 淳平	どうぶつと動物園 2023年夏号 (2023. 10)

③ 葛西臨海水族園 (合計16件)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
オンラインでも楽しい学びを～動物園・水族園のオンラインプログラムの可能性	雨宮 健太郎、天野 未知、大河原 陽子、堀田 桃子	令和5年度スキルアップセミナー関東(国土交通省関東地方整備局)(口頭)
What I feel when I work in Japanese zoos and aquariums	吉本 悠人	アジア保全医学会(ASCM)に繰り出そう! 日韓交流イベント
A case of medial patellar dislocation in a juvenile swan goose (<i>Anser cygnoides</i>) treated with wedge recession sulcoplasty	吉本 悠人、太田 香織、戸田 光亮、山口 歩	第16回アジア保全医学会大会
イソギンポ科カチュディート(<i>Hypsoblennius sordidus</i>)の水槽内繁殖と育成について	関 啓汰、小味 亮介、太田 智優、中村 司	第10回水族館シンポジウム(ポスター)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
「アマモ場」展示水槽改修に伴うアマモの再導入とその後の飼育経過について	三森 亮介、宮崎 寧子、古橋 保志、遠藤 周太	第10回水族館シンポジウム(ポスター)
葛西臨海水族園におけるゼニタナゴの保全に向けた取り組み	中村 浩司、橋本 浩史、池田 正人	第10回全国タナゴサミット(ポスター)
葛西臨海水族園「しおだまり」水槽について	中村 浩司	第4回「ふれあいシンポジウムー水生生物を介した学びを考える」(口頭)
海鳥の保全を目指した刺し網漁による混獲回避策の開発	野島 大貴	第23回種保存会議(ポスター)
羽ばたき遊泳するフンボルトペンギンの翼の曲げ変形とねじれ変形および推進効率	高倉 一之進(東京工業大学)、野島 大貴、内山 幸、田中 博人(東京工業大学)	第48回エアロ・アクアバイオメカニズム学会講演会(口頭)
水かき足の舵仮説の検証:キングペンギンの水かきは舵の性能を高める	海野 怜司(東京農業大学)、田中 博人(東京工業大学)、野島 大貴、内山 幸、菊地 デイル万次郎(東京農業大学)	2023年度日本動物行動学会(口頭)
ウミスズメ類の水中旋回は翼を打ち上げながら腹を旋回方向に向ける	濱端 一苑、関 日向(東京農業大学)、野島 大貴、内山 幸、菊地 デイル万次郎(東京農業大学)	2023年度日本動物行動学会(口頭)
Genetic characteristics of a captive population of Little Penguin (Eudyptula minor) in Japan	大久保 倫子(東京農業大学)、野島 大貴、内山 幸、樋口 綾、平山 博樹、相馬 幸作(東京農業大学)	第11回国際ペンギン会議(ポスター)
海中飛翔を可能にしたフリッパーの形成:ペンギンの進化発生学	土岐田 昌和、山口 秀真、佐藤 大夢(東邦大学)、内山 幸、野島 大貴	日本進化学会2023(ポスター)
他施設から搬入したフンボルトペンギンにおける鳥マラリア発生とその対応について	内山 幸、野島 大貴、杉本 悠真、吉本 悠人、内藤 美羽(日本大学)、佐藤 雪太(岩手大学)	第21回ペンギン飼育技術研究会(口頭)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
オンラインでつながる学びの場 コロナ禍での新たな取り組み	天野 未知、古坂 志 乃、木下 哲、市川 啓 介、山崎 彩夏	どうぶつと動物園 2023年春号 (2023. 4)
水族園で「生きた餌」を飼う	小味 亮介、古橋 保志	どうぶつと動物園 2023年秋号 (2023. 10)

④ 井の頭自然文化園（合計12件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
井の頭池の変遷とともに歩む井 の頭自然文化園水生生物館	田辺 信吾	第10回全国タナゴサミットin手賀沼 (ポスター)
井の頭自然文化園におけるア ムールヤマネコの繁殖 ～日常 の飼育管理の中で繁殖のために できる小さな取り組み～	唐沢 瑞樹	第6回野生動物保全繁殖研究会大会 (口頭)
飼育下の雌雄アムールヤマネコに おける糞中の性ステロイドホルモ ン代謝物濃度動態と行動を指標 とした発情期および妊娠期の非 侵襲的モニタリング	<u>井戸 優海 (岐阜大学)</u> 、 唐沢 瑞樹、 <u>楠田 哲士</u> (岐阜大学)	第6回野生動物保全繁殖研究会大会 (ポスター)
ニホンカモシカの妊娠から出産と 幼獣の育成について	伊藤 達也	第71回動物園技術者研究会 (口頭)
飼育下アムールヤマネコにおける 糞中の性ホルモン代謝物動態と 行動からみた発情期と妊娠期の 非侵襲的モニタリング	<u>井戸 優海 (岐阜大学)</u> 、 唐沢 瑞樹、田島 日出 男、吉沢 円、地挽 良 典、 <u>楠田 哲士 (岐阜大 学)</u>	第5回動物園水族館大学シンポジウ ム (ポスター)
幼児と生き物の出会いを支援す る教育プログラムの検討 「こんにちはモルモット」	山崎 彩夏、北村 直子、 田中 愛、山口 真理子	第64回日本動物園水族館教育研究会 (口頭)
武蔵野市野外彫刻ツアー②での 実践	土方 浦歌、 <u>滋野 佳美</u> (武蔵野市立吉祥寺美術 館)	武蔵野市立吉祥寺美術館発行『武蔵 野市の＜公共彫刻＞を考える②』(共 著)
北村西望の石膏原型の保存の取 り組み	土方 浦歌	彫刻園シンポジウム「近代彫刻の石 膏原型の保存修復を考える」(口頭)
井の頭自然文化園ボトルウォッチ ングについて	兒玉 雅章	第4回「ふれあいシンポジウムー水生 生物を介した学びを考える」
ニホンカモシカの繁殖への 取り組み	伊藤 達也	どうぶつと動物園 2023年春号 (2023. 4)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
東京のイモリがつなぐ、人と森と地域と未来 東京産アカハライモリの生息域内における教育普及活動	金原 功	どうぶつと動物園 2023年春号 (2023. 4)
60年ぶりに復活した幻の水草 イノカシラフラスコモ 井の頭自然文化園の取り組み	田辺 信吾	どうぶつと動物園 2023年夏号 (2023. 7)

⑤ 総務部（合計9件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
水族館における学校と連携した教育普及活動の実践と課題	天野 未知	日本学術会議主催学術フォーラム「SDGsの達成に資するESDカリキュラムの開発」（口頭）
東京都立動物園でのモルモット介在プログラムの今とこれから	高松 美香子	第25回全国学校飼育動物研究大会（口頭）
コロナ禍は小学校の東京都立動物園水族園の利用をかえたか	瀬川 夏代	第64回日本動物園水族館教育研究会室戸大会（ポスター）
死亡個体からの精液回収における課題—過去の事例まとめとインドサイの一例	高柳 真世、 伊藤 香緒里	第6回野生動物保全繁殖研究会大会（ポスター）
絶滅危惧種アカガシラカラスバトの個体数増加を可能にした遺伝的背景	<u>辻本 大地（京都大学）、高柳 真世、堀越 和夫（小笠原自然文化研究所）、井鷲 裕司（京都大学）</u>	日本鳥学会2023年度大会（ポスター）
Advancing animal nutrition management at zoos and aquariums of JAZA with a newly developed animal feed database	伊藤 香緒里	第31回東南アジア動物園水族館協会年次総会（口頭）
アジアにおける飼育下マレーバクの栄養に関する調査	伊藤 香緒里、 <u>Po Han Chou（マンダイ・ワイルドライフ・グループ）、王 建博（台北市立動物園）</u>	飼育野生動物栄養研究会2023年度大会（口頭）
精液を保存し、人工授精に備えるチンパンジー繁殖に向けた野生生物保全センターの取り組み	高柳 真世	どうぶつと動物園 2023年夏号 (2023. 7)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
日本の空に羽ばたくトキを育てる 自然孵化と自然育雛への挑戦	石井 淳子	どうぶつと動物園 2023年秋号 (2023. 10)

※下線は外部研究者

(3) 共同研究

大学や研究機関と協力し、動物学、獣医学等の学術的な見地から共同研究を進めた。

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
東京大学博物館	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京大学大学院農学生命 科学研究科	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京都立大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
日本医科大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京農工大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
森林研究・整備機構 森林 総合研究所	東京動物園協会	イモリの保全及びその生態学的研究
国立科学博物館	東京動物園協会	動物等の研究
情報・システム研究機構 国立極地研究所	東京動物園協会	連携・協力に関する協定
岐阜大学応用生物科学部	東京動物園協会	動物園水族館動物に係る研究及び教育
水産研究・教育機構	東京動物園協会	包括連携協定
ウナギ種苗研究グループ	東京動物園協会	ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システム実 証事業研究
名古屋市東山総合公園	東京動物園協会	動物園事業の発展及び野生動物保全にかかる連携 と協力に関する協定
北海道大学大学院獣医学 研究院繁殖学教室	東京動物園協会	希少野生動物の保全繁殖に関する研究
東京大学大学院農学生命 科学研究科獣医病理学研究 室	東京動物園協会	病理組織学検査に関する研究

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
東京農工大学	東京動物園協会	飼育動物及び検疫動物のクラミジア保有状況のPCRによる調査
北里大学獣医学部動物資源科学科動物行動学研究室	東京動物園協会	モルモットにおけるふれあいストレスの眼球温度を用いた評価方法の確立
国立大学法人岐阜大学応用生物科学部	東京動物園協会 野生生物保全センター	希少動物の保全繁殖に係る研究及び教育
日本獣医生命科学大学 動物生産化学教室	東京動物園協会 野生生物保全センター	飼育下チンパンジーの栄養管理に関する研究
日本医科大学 動物生産化学教室	上野動物園	ライチョウの域外飼養技術の開発に関する研究－飼育飼料の検討－
日本医科大学 動物生産化学教室	上野動物園	アカガシラカラスバトの域外飼養技術に関する研究－飼育飼料の検討－
岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖学研究室	上野動物園	希少動物の保全繁殖
明治大学	上野動物園	動物装着型データロガーを用いた定量的行動観察（オオカワラヒワ）
麻布大学	上野動物園	動物装着型データロガーを用いた定量的行動観察
東京農工大学	上野動物園	動物園におけるサンバエの吸血生態に及ぼす動物の影響
立命館大学	上野動物園	動物園における夜行性動物の展示照明に関する研究
株式会社東芝ライテック	上野動物園	両生爬虫類館ガラスドームにおける日中の照明設備のあり方における研究
岐阜大学応用生物科学部	多摩動物公園	多摩動物公園における希少動物の保全繁殖に関わる研究及び教育
東京都健康安全研究センター	多摩動物公園	サル類の腸管寄生原虫に関する研究（検査・駆除対策）
日本工業大学	多摩動物公園	モグラの地中掘削行動の機構学的解析
横浜市環境創造局繁殖センター	多摩動物公園	希少動物の保全に関わる試験研究
河原 淳	多摩動物公園	トウキョウトガリネズミ繁殖生態研究

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
日本医科大学 動物生産化学教室	多摩動物公園	飼育下チンパンジーの栄養管理に関する研究
東京農工大学農学部	多摩動物公園	カンガルーの口腔内及び腸内細菌叢と疾病の関連性に関する共同研究
東京農工大学農学部	多摩動物公園	昆虫等の調査・診断に関わる共同研究（オガサワラシジミ）
帯広畜産大学、東洋大学、大阪産業技術研究所	多摩動物公園	飼育下哺乳類の乳汁成分について研究
日本医科大学	多摩動物公園	動物園における野生動物の侵入とマダニ寄生リスクの調査
日本医科大学	多摩動物公園	飼育下ネコ科動物の腎疾患罹患状況及び死因調査、腎疾患予防を目的とした栄養学的研究
公益財団法人横浜市緑の協会よこはま動物園ズーラシア	多摩動物公園	北米からのチーター導入による国内飼育個体群の遺伝的多様性の保全、個体群動態等への影響調査
京都大学、小笠原自然文化研究所	多摩動物公園 上野動物園	アカガシラカラスバト保全のためのゲノム解析
東京農工大学農学部	多摩動物公園	哺乳動物の精子形成メカニズム解明と体外精子生産技術の開発
ウォルター動物園（スイス）	多摩動物公園	グローワームの飼育繁殖におけるパートナーシップ
東北大学大学院生命科学研究科	葛西臨海水族園	フンボルトペンギン胚における特徴的四肢形態の発生操作
東邦大学	葛西臨海水族園	ペンギン類における海生適応形質形成機構の解明
電力中央研究所 株式会社イワキ	葛西臨海水族園	大規模水槽向け脱窒装置及び小型水槽用脱窒モジュールに関する共同研究
株式会社海遊館	葛西臨海水族園	ペンギン類人工繁殖に関する共同研究
日本大学生物資源科学部 海洋生物資源科学科水圏生物病理学研究室	葛西臨海水族園	葛西臨海水族園の飼育する水生生物疾病研究に関する協定
東京農業大学、東京工業大学、東北大学	葛西臨海水族園	ペンギン科およびウミスズメ科の流体力学に関する研究
東京農業大学	葛西臨海水族園	DNA 解析によるペンギン科およびウミスズメ科の遺伝的多様性に関する研究
自然科学研究機構基礎生物学研究所	葛西臨海水族園	動物行動学（マトウダイ）に関する研究

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
東京大学及び北里研究所	葛西臨海水族園	水族館飼育魚および飼育水の環境 DNA モニタリング技術の開発
北海道大学・バードライフ・インターナショナル	葛西臨海水族園	刺し網による海鳥混獲の削減を目指した研究
新潟薬科大学	葛西臨海水族園	飼育下動物における適正な薬物治療に関する研究
日本医科大学	葛西臨海水族園	飼育動物が感染した非結核性抗酸菌（NTM）の同定と発生環境の調査
東京学芸大学	葛西臨海水族園	葛西臨海水族園における教員研修における実践と評価
北海道大学	葛西臨海水族園	高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染した飼養鳥をヒト用の抗インフルエンザ薬で治療するための用量・用法の策定とその普及
岐阜大学	井の頭自然文化園	希少動物の保全繁殖
株式会社共立電照及び株式会社共ショウ	井の頭自然文化園	水槽用 LED 照明の開発

（４）飼育展示・教育普及研究会の開催

園内及び４園相互での情報交換と共有化を積極的に進めるとともに、研究発表等に積極的に参加することによる職員の能力向上を図るため、各園で飼育展示・教育普及担当者による研究会を定期的に開催した。

３．動物病院業務

飼育職員と連携して病気等の予防策を講じるとともに、異常の早期発見に努め、適切な治療を行った。また、検疫業務、病理解剖、検体の保存等を行った。

（診療件数及び検疫件数）

園 別	年間診療件数		年間検疫件数	
	治療	死亡	種数	頭数
上野動物園	28,326	82	29	85
多摩動物公園	11,627	66	27	68
葛西臨海水族園	666	44	2	3
井の頭自然文化園	2,754	63	15	32

〔２〕野生生物保全事業

「野生生物保全センター」を都立動物園・水族園の野生生物保全活動の中心に位置付け、保全活動、情報収集、調査研究及び普及啓発活動を実施した。

項 目	内 容
動物園内における 保全活動 (域外保全)	① ニホンコウノトリ、トキは高度な飼育繁殖技術を活かした継続的な繁殖と個体や卵の移動などにより、野生復帰事業に貢献している。 ② アカガシラカラスバトは、毎年順調に繁殖しており、緊急保護個体を繁殖個体群に取り込むとともに、飼育繁殖技術の向上により自然繁殖も進み、飼育下個体群形成が順調に進んでいる。 ③ オガサワラシジミは、多摩動物公園で累代繁殖及び周年飼育に成功したが、令和２年８月に飼育下個体群が途絶えた。環境省の科学的な検証（令和３年）により、近交弱性（遺伝的多様性の損失）が原因と判明した。新たな保護個体の収容に備えた体制を整えている。 ④ オガサワラカワラヒワは減少が著しく、令和３年度より環境省及び東京都による保全の取組が始まった。上野動物園では現地施設での飼育環境整備や飼育繁殖に協力するとともに園内で近縁亜種を飼育し調査研究を行っている。 ⑤ 環境省からの分散飼育の協力要請を受け、平成29年度に小笠原諸島の陸産貝類（カタマイマイ、アナカタマイマイ）の飼育を４園で開始した。令和５年度は、あらたにチチジマカタマイマイ、キノボリカタマイマイの飼育を開始し、関係機関との情報共有を図るとともに、飼育繁殖に取り組んでいる。 ⑥ ライチョウは、上野動物園や富山市ファミリーパークなどで平成27～28年に野生卵を入手し、それらを基に飼育繁殖に着手し、山岳地帯への適応に伴う特殊な生理生態について、連携する関係者とともに解明に取り組んでいる。令和３年度には、上野で日本初の人工授精による繁殖に成功し、現在は凍結精液を用いた人工授精技術の確立に向けて取り組んでいる。 ⑦ 東京産両生類では、希少種も含め、繁殖に継続して成功している。遺伝的多様性に配慮し、繁殖個体の園間交換を進め、４園で分担・連携して取り組んでいる。
フィールドにおける 保全活動 (域内保全)	① 多摩市のアカハライモリ生息地において、生息状況調査や生態調査を継続して実施し、生息個体数を増加させることに成功するとともに、地域との連携・環境教育活動を推進している。 ② 多摩動物公園内に生息するアズマヒキガエルは、目撃例が減少傾向にある。事前に４園の飼育下に確保していた個体群で繁殖を推進している。また、令和４年度には西日本からの移入であるニホンヒキガエル型の遺伝子が検出され、交雑の拡大も懸念されている。減少要因を探るため、多摩動物公園内の放飼場を活用し、育成実験を継続している。 ③ アカガシラカラスバト野生個体群の遺伝的多様性を解明するため、小笠原自然文化研究所と連携しミトコンドリアDNAの解析を実施している。

項 目	内 容
生物工学技術を応用した保全活動	① DNAによる性判別（鳥類・哺乳類）を多数行い、繁殖計画の推進に寄与した。また、飼育希少鳥類の遺伝的多様性の解析、メダカの地域個体群解析、アズマヒキガエルの野外での交雑状況の調査を継続して行っている。 ② 自然交配ができないチンパンジーから採取した精子を用いた人工授精に活用するため、精子の凍結保存を継続している。 ③ 性ホルモンを測定し、インドサイ、アジアゾウ等の繁殖周期の把握、生理解明に役立てている。
調査研究・情報収集	例年海外で開催される会議などにも積極的に参加し、研究発表や情報収集、交流に取り組んでいる。令和5年度は世界動物園水族館協会年次大会、保全計画専門家グループ（CPSG）年次大会、東南アジア動物園協会（SEAZA）会議に参加した。
普及啓発活動	① 当協会が取り組む保全活動を、入園者にも広く伝えるため、多摩動物公園で「すすめ！地球生命隊-ともに生きる未来へ-」を常設展示している。 ② ツシマヤマネコの保全に関する普及啓発として井の頭自然文化園で「ヤマネコの日」にちなむ活動を継続して実施している。 ③ 多摩動物公園とコウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル（IPPM-OWS）の共催により、「コウノトリまつり2024」を多摩動物公園で初開催した。コウノトリ飼育施設や自治体がブース出展し、それぞれが取り組んでいる生息域内外の保全活動を広く紹介した。
保全への協力	コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル（IPPM-OWS）の構成員として、また事務局の一員として他の加盟機関と連携し、保全活動を推進した。有精卵の提供などにより、兵庫県立コウノトリの郷公園や千葉県野田市でのコウノトリの放鳥事業に協力している他、野生で生まれた雛への足環装着などの技術協力を行っている。

〔3〕教育普及事業

教育普及センターを中心に、4園の連携を一層強化し、大人から子どもまで幅広い来園者を対象に、動物の魅力や地球環境保全の重要性を伝える多様な教育普及プログラムを展開した。それぞれの教育普及活動においては、その目的を明確にし、アンケート調査や事例研究による評価検証、専門家（ソーシャルインクルージョン等）による評価等にも取り組むことで、社会教育施設としての機能をより一層、強化することができた。

1. 4園連携による幅広い教育普及活動の展開

教育普及センターが中心となり、4園の教育普及担当者との情報共有や課題の抽出・解決策の検討を、定期的な会議や教育普及ワーキンググループにより行った。今年度は特に教員ヒアリングや教員と連携したプログラム・教材の開発と実践、動物福祉に配慮したふれあいプログラム（動物介在教育）の企画と実践、障がいのある方を対象にした各種プログラムのソーシャルインクルージョン専門家による評価と改善に取り組んだ。連携して行った主な教育普及活動は以下のとおりである。

（1）教育機関との連携体制の充実、強化

① 小学校向け教育普及活動の周知

夏季開催の教員向け「授業に活かせる動物園・水族園講座」の告知とともに、4園の小学校向け遠隔授業やデジタル教材等を紹介するパンフレットを都内（1,395校）及び近県（117校）の小学校に郵送し、小学校の利用促進につなげた。

② 中学校・高校との連携強化

中学校・高校との連携強化のため、「中学生・高校生のための動物園・水族園活用ガイド」「動物園・水族園レポートチャレンジ」の募集チラシを都内中学校の理科教員宛（799校）に郵送した。また、レポートの相談窓口を設け、動物園・水族園での調べ学習をサポートする授業を実施した（中学校2件4回）。更に中学校教員と連携し新たなプログラムを開発・実践した（1件）。

③ 学校教員ヒアリング

小学校・中学校に出向き、4園の教育普及活動を紹介するとともに学校での動物園・水族館の利用状況や要望をヒアリング（合計5件、中学校1件・小学校4件）し、その結果を4園で共有した。また東京都獣医師会の獣医師に学校での動物飼育についてのヒアリングも実施した。

（2）生物保全や生物多様性をテーマにした関連情報の発信、講演会、企画展等

① SDGs Week EXPO（エコプロダクツ展 2023）出展

環境配慮型製品（エコプロダクツ）・サービス（エコサービス）を紹介するエコプロにおいては「見つめよう日本の動物たち」というテーマで、各園で飼育展示している日本産希少野生生物の普及啓発を行った。教育普及センターを中心に子どもにも楽しく学んでもらうためのインタラクティブ教材の制作や、種ごとにその危機的な現状や保全の取組を伝えるカードを制作・配布した。

実施日：12月6～8日 総ブース来訪者：2,970名

② 4園合同企画 都立動物園・水族園 冬の周遊キャンペーン「守ろう！東京の生きものたち」

4園合同企画 都立動物園・水族園 冬の周遊キャンペーンの一つとして、島嶼を含む東京の生きものにフォーカスした企画を以下のとおり実施した。

I. 見どころデジタルマップで東京の生きものスポット紹介

東京の生きものスポット閲覧数 2,942回 / 全体閲覧数 28,885 回

(集計期間：1/13～2/29)

II. 大島公園動物園からのLive配信

実施日 2/3 12時～13時

ライブ閲覧者数 最大200人以上 (アーカイブ視聴数 1,728回 2/29時点)

III. 保全種担当者のリレートーク

期間 2/4 より 1日1本、計9本の動画を公開 (YouTube)

閲覧数 5,599回 (9本合計、2/29時点)

③ 教育普及ふれあいシンポジウム～水生生物を介した学びを考える～

4回目の開催となり、今回は扱う分類群を水生生物とし、磯の生物にさわるタッチプール活動や釣りを利用した体験プログラムなど、水生生物に直にふれる、間近に観察するといった教育普及活動について、その意義やあり方について考えた。

実施日：11月22日 Zoomによるオンライン開催 参加者：56園館87名

内容

I. 実践報告：アクアマリンふくしま・かごしま水族館・井の頭自然文化園・葛西臨海水族園

II. 葛西臨海水族園の「しおだまり」と「イキモノマデカ」からの中継

III. 13ルームに分かれてのディスカッション (前半と後半でグループ替えを実施)

IV. ファシリテーターによる各ルームのまとめと総括

④ 4園連携企画「身近な湿地に目を向け、湿地の今を知ろう！」

2月2日の世界湿地の日に伴い、4園が連携し、各園の特徴を活かして湿地環境の重要性やそこにくらす生きものたちの魅力を伝えるプログラムを実施した。

上野：いろんな水辺、いろんな生き物

1. 「ライチョウ王国とやま」による取組紹介「ライチョウを守る・生息地を守る」

実施日：2月3・4日 総参加者：225名

2. 不忍池の水鳥観察「はじめよう！バードウォッチング」

実施日：2月3・4日 総参加者：544名

3. 動物解説員による動物ガイド「ツルのおはなし」

実施日：2月2・3日 総参加者：186名

4. ライチョウ基金の取組紹介と募金箱設置

設置期間：1月30日～3月3日

多摩：コウノトリまつり2024

1. 紹介ブース

実施日：3月9・10日

2. コウノトリススペシャルトーク「コウノトリとともに歩んだ32年」

実施日：3月9・10日 総参加者：52名

3. コウノトリキーパーズトーク

実施日：3月9・10日 総参加者：50名

井の頭：身近な水辺保全講演&観察会「冬のトンボはどうしてる？都心の水辺でだいそうさく！」

実施日：2月3日 参加者：38名

I. トンボってどんないきもの？ ふしぎがいっぱいトンボのひみつ

II. 都心の水辺でトンボをさがそう

III. こんなにすごいぞヤゴたち

IV. トンボがすみやすいのはどんなところ？

葛西：身近な水辺保全講演会「知ればきっと行きたくなる 東京湾の干潟ってどんなところ？」

実施日：2月10日 ※対面とオンラインのハイブリッド形式 対面の参加者：78名

講演1「干潟でみられる生き物たちー葛西臨海水族園の調査で分かってきたこと」

講演2「豊かな東京湾を取り戻そうー干潟の科学と遊びかた」

⑤ 職員向け研修動画「都立動物園水族園の保全とは？」

教育普及センターと野生生物保全センターが協働で、動物園・水族館での保全をどのような考え方で進めていけばよいのかについて考える動画を制作し、月9日から配信した。

第1回 レストランに例えて考える

第2回 ふたつの保全

第3回 展示と保全

第4回 教育と保全

第5回 保全に関する疑問、困っていること

(3) 幅広い来園者を対象とした教育普及活動の実施

① ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウムin Tokyo

障がいをもつ子ども達とその家族を対象とした教育普及活動であるドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウムin Tokyoを4園で開催した。開催をお知らせするチラシを東京都内とその周辺の障がい者施設・特別支援学校等に郵送し、広く周知した。

上野：12月25日、休園日の昼間に開催、事前募集で1,496名の参加があった。

多摩：6月3日、閉園後に開催、事前募集なしで2,235名の参加があった。

井の頭：6月3日、閉園後に開催、事前募集なしで607名の参加があった。

葛西：7月1日、閉園後に開催、事前募集で546名の参加があった。

② ソーシャルインクルージョン専門家による評価アドバイス

ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウムin Tokyoの実施内容について、専門家によるアドバイスや評価を受けた。

葛西：7月1日、ドリームナイトの視察を実施。9月15日、ドリームナイトの評価を実施。

上野：12月12日、ドリームデイの事前講習を実施。対面とオンラインのハイブリッド開催、アーカイブ配信も行った。

(4)「国際生物多様性の日」等の特別な日に、4園で共通のテーマで催し物を実施した。

〇〇の日	実施日	内 容
飼育の日	4/19	4園が4月19日前後に、飼育係の仕事に関連した企画展や体験イベント、飼育スタッフによるスペシャルトークなど、様々な視点から飼育の仕事を紹介する教育プログラムを実施した。
国際生物多様性の日	5/22	各園のさまざまな職種のスタッフが、野生生物やその生き物がくらす環境を守るために自分たちができることをX(旧Twitter)で宣言した。
文化財ウィーク	10/28～11/5	東京文化財ウィーク期間中に各園で飼育展示している天然記念指定動物を紹介する解説カードの配布や、特別ガイドを行った。
ふれあい動物の日	11/20	教育普及ふれあいシンポジウム～水生生物を介した学びを考える～を11月22日に開催した。
世界湿地の日	2/2	各園が2月2日の前後に飼育展示種や園内の自然環境を生かし、湿地環境の重要性やそこにくらす生き物たちの魅力を伝える観察会や講演会等を開催した。

(5) オンラインでの学習コンテンツの充実

小学校国語の教科書に載っている読み物「スイミー」のためのオンライン教材を「授業が楽しくなる教材集」として公開した。

(6) オンラインでの各種プログラムの開催

4園のオンラインプログラムの質の向上のために、教育普及センターが中心となり各園へのサポートや情報共有を行った。9月には上野動物園で実施したコウモリの観察会で大島のコウモリ生息地をオンラインでつなぎ、野生のコウモリの様子をライブ中継した。2月には、大島公園動物園の飼育担当によるライブトークをサポートした。

(7) 都市公園制度制定150周年記念事業への協力

2023年に開園150年を迎える都立公園の魅力を発信するために「東京都都市公園制度制定150周年記念事業」に協力し、年間を通じてさまざまなイベントを実施した。

イベント名	参加園	内 容
都立公園開園150周年ライトアップ	4園	「緑あふれる東京」をイメージしたグリーンの照明によるライトアップを行った。 上野：正門、多摩：正門のゾウの石像、葛西：ガラスドーム、井の頭：本園正門(2023/1/15～22)
公園めぐりデジタルスタンプラリー	4園	都立動物園・水族園の他、都立公園・都立庭園、計87箇所のラリーポイントをめぐるスタンプラリー。(2023/1/15～2024/3/31)

国際博物館の日記念「上野の山で動物めぐりー動物の『尾・しっぽ』」	上野	国立科学博物館、東京国立博物館、上野動物園の3施設の専門家が動物の「尾・しっぽ」にフォーカスした解説をして、ひとつのテーマを異なる視点から見るおもしろさを体験してもらった。(5/14)
巨樹・巨木ツアー	上野	園内の樹木管理を担当する職員による巨樹・巨木のガイドツアーを行った。(4/15、4/29、5/11、5/20、6/10、6/17、10/12、10/21)
募集企画「都立公園で、あなたのやりたいことかなえます」	多摩・井の頭	最優秀企画のひとつ、「パークピアノ」。誰でも自由に演奏できるピアノの設置を行った。多摩動物公園(8/11～13)、井の頭自然文化園(10/7～8)
上野恩賜公園開園150周年総合文化祭	4園	ブース出展。都立動物園・水族園で飼育する生きものを紹介するハンズオン展示や保全の取組の紹介、グッズ販売など(10/19～22)
It's My Park Day! みんなで公園日和	4園	「みんなで公園お手入れ日和」 園内などのお手入れ(清掃や雪吊り、樹木管理など)についてX(旧Twitter)で発信。(4園・1/15～22) 「みんなで公園バードウォッチング日和」 園内で観察できる鳥類についてX(旧Twitter)で発信。(多摩・葛西・井の頭・2/1～28)、不忍池に飛来するカモ類の観察・レクチャー、バードウォッチング(上野・2/5、23) 「みんなで公園お花見日和」 園内の樹木紹介をInstagramで発信。(上野・3/20) 「公園で読んで聞いて朗読デー」 動物が登場する絵本の読み聞かせ。(井の頭・6/3) 「みんなで公園夏休み日和」 夏期の開園時間延長『真夏の夜の動物園』(上野・8/11～16)、『サマーナイト@Tama Zoo 2023』(多摩・8/5、6、11～13、19)、『Night of Wonder～夜の不思議の水族園～』(葛西・8/11～14)、身近ないきもの探検『夜の文化園ではっけん!セミの羽化のひみつ』(井の頭・8/5、12) など 「みんなで公園マルシェ日和」 上野恩賜公園にて、上野動物園のパンダに関係したグッズの来店販売(上野・11/28、29) 「これまでもこれからも公園日和」 施設系のサクラガイド(上野・3/23、28)。モザイクアートパネルの掲示 来園者が公園の思い出を書いた桜の付箋を貼り付け、満開の桜の木を制作。(多摩・3/14～26、葛西・3/23～31、井の頭・3/12～24)

2. 定例プログラム

(1) 園内プログラム

園内プログラムについては、来園者が安心して参加できる方法を模索しながら再開した。モルモットふれあいプログラムについては、動物園3園の担当者がふれあいワーキンググループをつくり、プログラムの試行やモルモットのストレス評価、利用者評価を行いながら新たな形で実施した。上野の特別支援学級向けモルモットプログラムについてはソーシャルインクルージョンの専門家による評価を受け、改善へつなげた。

園 名	内 容（実施回数・対応人数）
上 野	・動物解説員による動物ガイド（151回 3,587名） ・飼育係のおはなし（1,231回 15,687名） ・モルモットとなかよし（499回 6,169名） ・東京動物園ボランティアーズ（DG）によるスポットガイド（197回 43,015名）
多 摩	・動物解説員によるガイドツアー（192回 2,442名） ・キーパーズトーク（244回 7,275名） ・おしえて！モルモット博士！（745回 10,904名） ・東京動物園ボランティアーズ（DG）によるスポットガイド（250回 40,465名） ・東京動物園ボランティアーズ（SG）によるスポットガイド（122回 4,190名） ・東京動物園ボランティアーズ（DG）による工作教室（134回 2,582名） ・大学生による昆虫プログラム「Zoo 研」（10回 640名）
葛 西	・スポットガイド「ペンギン・海鳥・マグロ・サメ」（2,566回 93,987名） ・イキモノマヂカ（569回 5,136名） ・ウミホタル発光実験（236回 4,086名） ・裏側ガイドツアー（208回 2,292名） ・しおだまり（905回 17,125名） ・東京シーライフボランティアーズによるスポットガイド（300回 1,152名）
井の頭	・動物解説員によるガイドツアー（72回 1,926名） ・学芸員による彫刻園ギャラリートーク（47回 410名） ・飼育係のいきものガイド（53回 2,140名） ・みてみてエサの時間だよ（477回 8,300名） ・モルモットふれあいコーナー：試行（514回 6,379名） ・こんにちはモルモット（286回 3,245名） ・いきもの広場であそぼう（24回 1,877名） ・東京動物園ボランティアーズ（DG）によるスポットガイド（42回 6,151名） ・東京動物園ボランティアーズ（SG）による紙芝居（8回 252名） ・「あずきの会」との共同企画によるおはなし会（9回 262名）

（２）動物相談室・情報資料室の運営

上野動物園と多摩動物公園内の動物相談所、葛西臨海水族園の情報資料室において、入園者及び電話・書簡による相談に応じた。

園 名	来 園	電 話	書 簡	計
上 野	957件	1,576件	10件	2,543件
多 摩	383件	316件	0件	699件
葛 西	6,758件	573件	—	7,331件

3. 特別プログラム

自然科学への探求心、野生生物に関する理解を深めるとともに、地球環境保全意識の向上を図ることを目的とした多様なプログラムを実施した。大人から子どもまで、障がいのある方も含めて全ての人が楽しく学べる場をめざすとともに、気軽に参加できるクイズラリーや専門性の高い講演会など、一人でも多くの方に参加してもらえるように幅広いプログラムを企画・実践した。

(1) 実施した主な参加型プログラム

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・うへのZOOスクール小学1・2年 (7/9) ・うへのZOOスクール小学3・4年、5・6年「自分だけの『おもしろ動物図鑑』をつくろう」(作成講習会 7/29、30、8/5 完成報告会 8/19、20) ・うへのZOOスクール視覚障がい児クラス(盲児 10/1、弱視 12/3) ・うへのZOOスクール中学生向けコース「ジャイアントパンダを徹底究明！～タケの食べ方に注目して～」(1/20、21)
多 摩	・体験プログラム「カブトムシ教室」(8/15、16、19、20) ・オータムスクール1～3年「みんなでめざそう！モルモット博士」(10/21) ・オータムスクール4～6年「Zoo探偵スクール～キリンとライオンのふしぎにせまれ！」(10/15) ・昆虫園飼育体験 (1/27) ・中高生対象オンラインプログラム「サイエンズカフェー話そう！聞こう！動物園の仕事」(3/17) オンライン
葛 西	・幼児向けプログラム 進め！海のいきものたち「うみにいこう！」(6/17)、「くらべてみようアジとわたし」(3/16) ・小学1・2年向けプログラム いきものはじめ「海でくらすカニたち」(6/18)、「くらべて感じる魚のくらし」(3/16) ・小学3・4年向けプログラム 海のあそびや「生き物のすみかを探検！」(9/16)、「くらべてみつける魚のヒミツ」(3/17) ・小学5・6年向けプログラム 集まれ！汐こたち「西なぎさで生き物探索！」(9/17)、「くらべて探る魚の工夫」(3/17) ・親子向けプログラム「おいしい魚 サケとマグロのひみつをさがれ」(11/5) 対面とオンライン ・高校生・大学生向け講座 海の学び舎2023 「ウミホテルから光を盗むキンメドキ 新しい進化の戦略——盗タンパク質」(7/23)、「魚類の社会と性転換の進化～行動生態学的アプローチと野外研究～」(12/10)、対面とオンライン
井の頭	・文化園いきものクラブ「動物たちの食べものしらべ」(6/18)、「井の頭池いきもの探検」(7/16)、プレミアム「ニホンリスの巣箱を作ろう」(1/20、28)「動物のくらしを考えよう」(3/10) ・大学生のためのズーカレッジ (9/7～10) ・彫刻園ワークショップ「彫刻を洗おう！」(9/10) ・資料館特設展 Art and the Zoo vol.8武藤亜希子氏「思い出いきもの園」関連イベント「きのみワークショップ」(10/15)

(2) 実施した主なクイズラリー、スタンプラリー等

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・クイズで発見! 「角のいろいろ」(9/30、10/7、8)、「ニホンザル」(11/25、12/2、3)「しっぽのいろいろ」(1/13、14、2/18) ・シャオシャオ・レイレイ2歳誕生日記念企画 行動観察ビンゴ「なにしてるかな? シャオシャオとレイレイ」 ・セルフガイドシート「龍を観察!? ～龍に九似あり!～」(1/2～21) ・世界野生生物の日イベント「クイズ サルを探して、見くらべよう」(2/27～4/7)
多 摩	・世界カワウソの日「カワウソクイズにチャレンジ!」(5/25～6/20)、「コツメカワウソの観察シート」(5/25～6/20) ・多摩動物公園の世界ゾウの日「アジアゾウ〇×クイズ大会」(8/12) ・タスマニアデビル来園記念イベント 葛西臨海水族園・多摩動物公園コラボ企画スタンプラリー「デビルズ・アドベンチャー! 陸と海のデビルたちを探し出せ!」(2/29～3/20)
葛 西	・開園記念イベント ALL ABOUT MAGURO「くらべるマグロシート」(10/7～10)、マグロウルトラクイズ(10/8～9) ・水族園のお正月2024「辰年ウルトラクイズ!」(1/2～3)
井の頭	・開園記念イベント セルフガイドシート「今も昔も文化園めぐり」(5/1～8/31) ・怪談スタンプラリー「動物園怪談画劇一井之頭百物語・捌(はち)」(7/17～8/31) ・お正月イベント 文化園干支スタンプラリー「帰ってきた! ぶんかえん龍伝説」(1/2～2/4)

(3) 特定の日や期間に実施した主なプログラム

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・「飼育の日」イベント 「飼育係のおはなし—知られざる飼育係の日常」(4/18～23)「う～んと楽しいフォトスポット」(4/18～6/18) ・国際マヌルネコの日 X(旧Twitter)によるクイズ企画(4/22～23) オンライン ・シャオシャオ・レイレイ2歳誕生日記念企画 ワークショップ「シャオシャオとレイレイにお祝いメッセージを送ろう!」(6/23～25) ・真夏の夜の動物園—ビ・ビ・ビ(鼻先から・尾先まで・美しさ満載)(8/11～16)、「ビ・ビ・ビ★動物標本!」(8/11～16)、『美』を語る、真夏の夜(8/11、12、14)、「世界ゾウの日特別イベント スポットガイド『きみもゾウ博士』」(8/11～13) ・終戦記念日特別企画「おはなし会『かわいそうなぞう』」(8/15) ・世界ゴリラの日のイベント「飼育係のおはなし『あなたが握るゴリラの未来』」(9/24、26)、「使用済み携帯電話・スマートフォン回収ボックスの設置」(9/24～10/22) ・パンダの日記念企画「竹あかり制作ワークショップ」(10/21)、「学生向けセミナー『飼育係だけ!? 動物園でパンダと働くシゴト案内』」(10/29) ・東京文化財ウィーク「特別ガイドツアー『天然記念物の動物たち』」(10/31～11/2)、「特別“英語”ガイドツアー「10 minutes guide of protected animals and cultural property(日本の動物と文化財の10分ガイド)」(10/31、11/1、5、10、11)

園 名	内 容 (実施日)
	・世界アライグマの日インスタライブ (11/29) 対面とオンライン ・ホッキョクグマの日 「飼育係のおはなし」、ズーネット記事やInstagramの発信 (2/27) 対面とオンライン
多 摩	・飼育の日 企画展示「輸送箱の展示—安心・安全な引っ越しの実現のために」(4/13～4/25)、体験コーナー「豆ふん掃除をしてみよう！エサをみてみよう！」(4/15、16)、飼育の日ドリンク「夜を駆けるフクロモモンガ 星空のバタフライパーティー」や飼育係愛用メモ帳「多摩動物公園オリジナルフィールドノート」の販売 ・世界カワウソの日「カワウソを守るためにできること—みんなのメッセージ」(5/28～6/20)、「キーパーズトーク」(5/28) など ・多摩動物公園の世界キリンの日「キリン観察 Before・After」(6/2～30)、キリンの「かんさつシート」の配布 (6/17～25) ・世界チンパンジーの日「飼育係のスペシャルトーク」(7/9、14、15、16、24)、「チンパンジーのかんさつビンゴ！」の配布 (7/9、16)、「使用済み携帯電話・スマートフォンの回収」(7/6～9/26) ・サマーナイト@Tama Zoo 2023 「夜のキーパーズトーク」、「コウモリウォッチング」(8/5、6、11～13、19)、「夜も虫となかよし」(8/11～13) など ・長寿お祝いイベント「長寿トーク」(9/16、17) など ・コアラの日SNS連携企画X (旧Twitter) 発信 (10/18～25)、輸送箱展示 (10/24～11/28) ・世界ユキヒョウの日 SNS連携企画X (旧Twitter) 発信 (10/22～23) ・東京文化財ウィーク 特別ガイドツアー「天然記念物の動物たち」(11/3、4) ・「こども写生画コンクール」表彰式(11/5)、多摩動物公園での展示(10/26～11/21)、多摩モノレール高幡不動駅での展示 (11/24～12/11) ・第9回都立動物園アフリカフェア 「アフリカトーク『ケニアにおける野生動物の現状～ガリガリにやせてしまったライオン～』」(11/11)、「アフリカ音楽&ダンスの公演」(11/12)、「ワークショップ『アフリカ布を使って、アクセサリを作ろう！』」(11/12)、「いっしょに動物かんさつ」(11/12) など ・新年特別ガイド「伝説の生き物と実在する動物」(1/2、3、6～8) ・タスマニアデビル来園記念イベント「スペシャルトーク」(3/20)
葛 西	・飼育の日「スペシャルガイド」(4/16) ・世界ペンギンの日「特別ガイド」(4/22、25) ・開園記念イベントALL ABOUT MAGURO「マグロ飼育係のスペシャルスタッフトーク」(10/8、9)、 ・Night of Wonder (8/11～8/14)「どうなる？夜」、「夜のスペシャルガイド」、「夜の水辺探検」、「ナイトシアター」 ・開園記念イベントALL ABOUT MAGURO「マグロ飼育係のスペシャルスタッフトーク」(10/8、9)、「ボランティアによるスペシャルガイド」(10/7)、「情報資料室『マグロのぞき』」(10/7～10)、「スペシャルガイドツアー『マグロ裏側探検』」(10/7～9) など ・海鳥イベント「つどえ オロロ～ン！」(12/16～12/17) 「オロロ～ン！ブース」、「北海道羽幌町物産展」など

園 名	内 容（実施日）
	・水族園のお正月2024（1/2、3）「開運・かさりんみくじ」配布、「オーちゃん フーちゃんがお出迎え」など ・Deep of Wonder-不思議な深海の生き物たち 「深海スタッフトーク」（2/11）、「深海ラボ」（2/23～25）、情報資料室でのシンカイカード配布（2/1～29）
井の頭	・飼育の日 「スペシャルツイト」（4/19）オンライン、「スペシャルキーパーズトーク」（4/22～23） ・ヤマネコ祭2023 「野生動物を守る取組みを知る一団体の活動紹介展」「ミニマルシェ」「ヤマネコにだいへんしん！」（10/28～10/29）、「野生動物画家 岡田宗徳さんとヤマネコを描こう！お絵描教室」（10/28）、「飼育係のいきものガイド」など ・ちょっとおでかけ 秋の夜長自然文化園 「飼育係の生きものガイドー夜編」（10/7、8）、「園長の秋の夜長のよもやま話」（10/7）、「秋の夜空のオーロラコンサート～北欧から幸せを運ぶハルダングルヴァイオリンの調べ」「樹木ガイド『文化園の樹木と歴史』カキノキと渋沢栄一」（10/8）など ・お正月イベント 「新春・どうぶつおみくじ」「辰年ガイド『いろいろな動物の中の龍を探そう』『麒麟と平和の彫刻』（1/2、3）、「浅草雑芸団の大道芸」（1/2）、「琉神による琉球獅子舞」（1/7）など

（４）実施した主なフィールドプログラム

園 名	内 容（実施日）
上 野	・セミとコウモリの観察会（8/5） ・真夏の夜の動物園特別イベント 野生のコウモリ観察会（8/15、16） ・トワイライト観察会「コウモリ探検家たちと楽しむ、音でみるコウモリの世界 at 上野動物園ー伊豆大島からもライブ中継！」（9/23）
多 摩	・ホタル観察会 オンライン教室（6/10）園内観察会（6/16、17、18） ・ムササビの棲む森を見よう！（9/3）
葛 西	・東京の海を知る第1回「ラムサール条約登録湿地の人工干潟を訪ねる」（6/4）、東京の海の幸を釣る・食べる（9/23） ・親子向け観察会「トビハゼの調査地をたずねる」（9/2） ・水辺の生き物 わくわく調査隊（9/24）
井の頭	・身近ないきもの探検「夜の文化園でさがせ！セミの羽化のひみつ」（8/5、12）、「植物の実やタネ、どうやって どこへいくの？」（11/12）

（５）実施した主な講演会・シンポジウム

園 名	内 容（実施日）
上 野	・世界カワウソの日講演会「東南アジアの野生動物を知る～特にカワウソ・トラ・テナガザルについて～」（5/31） ・第6回野生動物保全繁殖研究会大会開催記念 保全繁殖研究シンポジウム「ネコ科絶滅危惧種をまもる動物園での繁殖の取組」（8/29）

園 名	内 容（実施日）
	・上野の山文化ゾーンフェスティバル 講演会「ゴリラと働く―飼育係と研究者からのメッセージ」(11/4)
多 摩	・ムササビ講演会（7/2） ・第9回都立動物園アフリカフェア 記念講演会「村を襲うアフリカゾウといかに共生できるのか？」(11/11) ・干支の講演会「世界のモグラに会いに行く」（1/8）
葛 西	・開園記念トークイベント「マグロの未来を語ろう！」(10/7) 対面とオンライン ・海鳥イベント「つどえ オロロヘン！」海鳥講演会「つどえ オロロヘン」(12/16) 対面とオンライン ・深海サイエンストーク「深海熱水にすむ生き物の特異な生き方」（2/4）対面とオンライン
井の頭	・ツシマヤマネコ保全講演会「動物園・水族館ができることーアジアに生息するヤマネコを守る」(10/14) 対面とオンライン ・彫刻園シンポジウム「近代彫刻の石膏原型の保存修復を考える」（2/23）

4. 園内での情報発信

動物展示前での情報提供の基本である種ラベルについては、各種の絶滅危機度やズースtock種情報を記載した種ラベルへの更新を多摩より開始した。その他、各園で常設の解説サインの一部を更新し、印刷物や特設展等でより詳しい情報提供を行った。

（1）展示解説サイン・種ラベルの充実

園 名	内 容
上 野	・フラミンゴの解説サイン新設（6/20～） ・ミナミコアリクイの解説サイン新設（11/28～） ・キリン・サイ・カバ・コビトカバの解説サイン新設（12/24～）
多 摩	・アジアゾウ「アヌーラ 70 歳お祝いパネル」新設（8/11～） ・オジロワシの解説サイン新設（10/20～）
葛 西	・「暗闇で出会う生き物たち Encounters in the dark」解説サインの更新（12/14～）
井の頭	・「鳥の声を聴いてみよう」和鳥舎の解説サイン新設（8/20～）

（2）ニュースレターや解説パンフレット等の発行

園 名	内 容
上 野	・ZOO TODAY（4月～3月号） ・うえのどうぶつえん お花見マップ
多 摩	・動物新聞（3月号増刷） ・TAMA NEWS（再刊準備号、1月号～3月号） ・タスマニアデビル公開関連企画 お面型 普及啓発パンフレット
葛 西	・SEA LIFE NEWS（第109号～第114号）

園 名	内 容
井の頭	・花ごよみ（第 241 号～第 253 号）

（３）実施した主な特設展、特設掲示

園 名	内 容（実施日）
上 野	・園内パネル展示「シャオ&レイ成長日記ー上野初のふたごの２年ー」（６/23～10/29） ・しのばずラボ 夏の昆虫展（８/11～９/10） ・両生爬虫類館特設展示「カルルくんの自由研究ーあしの違いをくらべてみようー」（３/５～2024/12/28） ・パネル展「上野動物園に文化遺産!? ～上野動物園の歴史を巡ってみよう！見てみよう！～」（３/20～2024/５/31）
多 摩	・飼育の日企画展示「輸送箱の展示ー安心・安全な引っ越しの実現のために」（４/13～25）、パネル展「飼育係の実態調査」（４/13～25）、電車内展示「京王動物園線車内で動物園のお仕事紹介」（４/13～25）など ・世界バクの日パネル展示（４/27～５/31） ・多摩動物公園開園65周年企画 ミニ写真展「あるアルバムの記録」（５/３～31） ・カブトムシ展「カブトムシの春・夏・秋・冬」（７/20～８/29） ・世界ゾウの日企画 パネル展「飼育係がみた野生のゾウたち」（７/27～８/29）、アジアゾウ舎「世界ゾウの日」特別パネルの掲示（７/27～８/29） ・長寿お祝いイベント 長寿個体の紹介パネル（９/14～26） ・干支の企画展「ようこそ 土竜世界（モグランド）へ」（12/21～４/２） ・パネル展「海を越え、タスマニアからきた動物大使（アンバサダー）」（２/22～５/28）
葛 西	・干支にちなんだ生物の「トピック展示」ビッグベリードシーホース（12/７～１/９） ・海鳥イベント「つどえ オロロヘン！」パネル展（12/１～28）
井の頭	・資料館特設展示「飼育係のおしごと展」（４/18～６/25）、 「日本物怪観光とめぐる井の頭怪談画劇の世界」（７/17～８/31） ・Art and the Zoo vol.8武藤亜希子氏「思い出いきもの園」（９/12～１/14） ・４園連携特設展示「ようこそデザニャーレー東京どうぶつえん すいぞくえんデザイン室ー」（３/31～９/１） ・水生物館特設展示「いもり学にゆうもん」（７/15～10/29）、「おしえて！コウノトリ」（11/14～４/７） ・ウェルカム展示「ヒキガエル」（６/９～、３/25～）、「樹液にあつまる虫たち」（８/１～）、「コバネイナゴ」（９/14～）、「ジョロウグモ」（11/18～）、「春をまつカマキリの卵」（12/26～） ・彫刻園企画展「大正時代の写実主義ー北村西望の彫塑と日本画」（５/１～７/30）、「北村西望の浮き彫り」（８/４～11/19）、「彫刻を設置しに行く。北村西望の旅」（11/28～１/31）、「写真と彫刻」（３/26～）

5. 学校教育との連携

学校教育との連携を深め、教員を対象とした実践的な研修会や児童、生徒等を対象とした学習プログラム、学習補助教材の貸出しや提供等を行なった。オンラインの学習教材や研修教材の開発、オンライン授業や出張授業、オンラインによる教員向け研修会なども引き続き継続した。

(1) 教員を対象としたプログラム

① 授業に活かせる「動物園・水族園」講座

教員が授業を行う上で参考となる生物学的な知識やそれに関連したスキルを提供する研修講座を実施した。オンライン開催の講座と対面開催の講座の両方を実施した。

実施園	講座名	実施日	参加者
上野	動物の赤ちゃんの生まれかた・育ちかた オンライン開催：講演会スタイル	7月24日	54名
		7月26日	28名
	動物の観察のしかた～鳥のくちばしと足を例に～ オンライン開催：講演会スタイル	7月24日	34名
		7月26日	36名
	動物園獣医師の1日 オンライン開催：講演会スタイル	7月24日	52名
		7月26日	49名
	動物の食べ方と消化	8月2日	19名
		8月3日	18名
多摩	骨からわかる動物の体とくらし	8月8日	17名
		8月10日	18名
	3年理科 昆虫に親しむ・昆虫を知る	8月17日	18名
		8月18日	21名
葛西	はじめての動物飼育―水の生きもの	7月27日	30名
	干潟で体験！生きものと環境を知る	7月31日	28名
	水族園でみつける「うみのかくれんぼ」	8月7日AM	15名
		8月7日PM	15名
	生きもの観察が楽しくなる！魚で学ぶ生きものの見方 オンライン開催：ワークショップスタイル	8月9日AM	12名
		8月9日PM	8名
井の頭	井の頭池で調べる水辺の生きもの	7月25日	20名
		7月28日	17名
	身近なムシの調べ方・よび寄せ方	8月1日	17名
		8月4日	19名
計			545名

② 授業に活かせる動画集

学校の授業中に活用できる単元に即した動画のYouTubeでの公開を継続した。一部の動画は内容を修正した。

対象教科	タイトル	制作園
小学校 国語	たまどうぶつこうえんのキリンの赤ちゃん	多 摩
	とりのくちばし（うえのどうぶつえん）	上 野
	とりのくちばし（たまどうぶつこうえん）	多 摩
	どうぶつをのみのまもりかた**	上 野
	うみのかくれんぼ～オニダルマオコゼ～	葛 西
	うみのかくれんぼ～オクヨウジ～	葛 西
	うみのかくれんぼ～カレイのなかまプレイス～	葛 西
	スイミーのくらし	葛 西
	たまどうぶつこうえんのじゅういのいちにち	多 摩
小学校～中学校 理科	きせつと生物（ニホンジカの一年①毛のへん化）	上 野
	きせつと生物（ニホンジカの一年②角のへん化）	上 野
	きせつと生物（ニホンザルの一年）	上 野
	動物たちの食べかた ①アジアゾウ	上 野
	動物たちの食べかた ②キリン	上 野
	動物たちの食べかた ③ホッキョクグマ	上 野
	動物たちの食べかた ④カリフォルニアアシカ	上 野
	動物たちの食べかた ⑤ジャイアントパンダ	上 野
	動物たちの食べかた ⑥ふんをくらべてみよう	上 野
	動物たちの食べかた ⑦ウマ	上 野
	みちかな虫をさがそう	多 摩
	いろいろな虫をよびよせよう！バナナトラップ編	井の頭
	カブトムシの一生を知ろう！	多 摩

**内容を修正した動画

③ 生き物飼育についての先生向け研修動画

生き物の飼い方をテーマにした教員向けの研修動画のYouTubeでの公開を継続した。

タイトル	制作園
モンシロチョウの飼い方	多 摩
学校で飼育してみよう！——メダカ編	葛 西
学校で飼育してみよう！——ザリガニ編	葛 西
学校で飼育してみよう！——ヤゴ編	葛 西

④ 授業が楽しくなる教材集

教員へのヒアリングで要望が多かった、単元に即したさまざまな動画資料や実物大画像などをセットにしたパッケージ教材の開発をはじめ、国語の読み物をテーマにしたものを特設コンテンツとして東京ブーネット内に公開した。

タイトル	制作園
スイミー	葛 西

⑤ 国立科学博物館が主催する「教員のための博物館の日2023」への参加

「教員のための博物館の日」は、学校での博物館利用を進めるために、教員自身に博物館の楽しさや学習資源を知ってもらう日として全国で開かれている催しである。国立科学博物館会場に設けられたブースにて、都立動物園・水族園4園が作成している教員向けの各種冊子や都立動物園・水族園を学校で活用してもらうための資料の配布、授業に役立てられる動画の紹介やスタッフによる口頭説明等を行った。また、参加者は期間中、上野動物園を無料で見学できるようにした。

実施日：7月25～28日 参加者1,027名のうち、上野動物園入園者276名

⑥ その他の教員向け研修・セミナー

実施園	講座名（実施日・対応人数）
多摩	・東京都公立学校中堅教諭等資質向上研修Ⅰ選択研修（8/24・3名） ・東京都小学校理科研究会「カブトムシの観察と飼育」（9/7・11名） ・日野市教育センター（9/15・28名）
葛西	・杉並区教育研究会環境教育部「水族園の学習利用」（7/28・5名）
井の頭	・東京都公立学校中堅教諭等資質向上研修Ⅰ選択研修（8/15-17・1名、8/15-16・1名） ・東京都教職員研修センター専門性向上研修「やってみよう生き物の飼育ー水辺の生き物編ー」（8/22・30名）

（2）児童、生徒、学生などを対象としたプログラム（大学・専門学校含む）

園名	内 容	件数・対応人数
上野	団体見学指導	53件・1,427名
	団体ふれあい体験指導（子ども動物園）	30件・361名
	出張授業・講師派遣	3件・245名
	オンライン授業	41件・3,239名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	691件
多摩	団体見学指導	114件・8,069名
	団体ふれあい体験指導（モルモット教室）	受入れ休止
	出張授業・講師派遣	3件・154名
	オンライン授業	6件・546名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	624件
	職場体験	8件・32名
葛西	団体見学指導	252件・15,345名
	出張授業・講師派遣	3件・295名
	オンライン授業	7件・367名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	850件
	職場体験	9件・25名
井の頭	団体見学指導	107件・5,483名
	団体ふれあい体験指導（モルモットふれあいコーナー）	受入れ休止
	出張授業・講師派遣	14件・1,569名

園 名	内 容	件数・対応人数
	オンライン授業	16件・1,009名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	278件
	職場体験	10件・26名

(3) 教材の貸出・提供、教育プログラムの開発

① 学校団体向け教材の配布と提供

事前学習や当日の見学時に活用するための教材の開発と提供を行った。また、生きものを見るポイントや園の見どころ、プログラム・教材を紹介した教育活用ガイドブックなどの参考資料を配布した。

園 名	内 容 (件数・対応人数)
上 野	貸出教材 ・わくわく観察バッグ (38件 2,243名) ・クイズdeスタンプ (96件 10,466名) ・テーマ別見学ワークシート (27件 2,105名)
	提供教材 ・観察ガイドブックレット (2件 314名)・ダウンロードも可能
多 摩	貸出教材 ・動物ふしぎ発見ポケット (174件 12,190名) ・紙芝居セット (124件 7,963名) ・事前学習用DVD (9件 785名) ・スタンプ (16件 1,586名) ・その他 (4件 379名)
	提供教材 ・動物クイズ (161件 13,560名) ・昆虫ポケット (51件 4,313名) ・観察シート (9件 904名) ・セルフガイドブックレット (6件 108名) ・その他 (6件 108名)
葛 西	提供教材 ・事前学習用DVD (629件) ・水族園魚タッチングシート (ダウンロード教材)
井の頭	貸出教材 ・事前パネルセット (61件 2,351名) ・頭骨等標本 (1件 96名)
	提供教材 ・事前教材セット (467件 29,966名) ・個別教材 (11件 1,059名)

② 中高生向けの冊子の配布、「動物園・水族園レポートチャレンジ」の募集

「中学生・高校生のための動物園・水族園活用ガイド」は、引き続き東京ゾーネットからダウンロードできるようにした。「動物園・水族園レポートチャレンジ」の募集チラシを印刷し、「活用ガイド」とともに都内の中学校（799校）の理科教員宛に郵送した。

「動物園・水族園レポートチャレンジ」には、12月までに中学生425組、高校生2組からの応募があり、最優秀作品賞を2組（中学生2組）に、奨励賞を4組（中学生4組）に授与した。

（４）大学教育の実践

連携協定を締結した大学等、大学・専門学校の学生に向けた講義、実習プログラム等を実施した。

① 実習

内 容	上野	多摩	葛西	井の頭	計
飼育実習	12名	17名	12名	2名	43名
獣医臨床実習	2名	3名	—	—	5名
博物館実習	8名	9名	12名	4名	33名
特別実習（研究・卒論）	2名	8名	—	—	10名
インターンシップ（都立大）	—	—	1名	—	1名

② 講義・見学指導（オンライン・出張授業を含む）

園 名	内 容（実施日・対応人数）
上 野	・東京こども専門学校：見学指導（5/12・11名）、オンラインレクチャー（5/26・11名） ・東京芸術大学大学院「見学指導・レクチャー：動物園の社会的役割」（6/14・13名） ・東京大学「出張レクチャー：恩賜上野動物園の展示における環境と景観について」（11/27・56名）
多 摩	・帝京科学大学「レクチャー：希少種保全の取り組みについて」（4/20・45名） ・玉川大学リベラルアーツ学部「見学指導：キリン」（4/24・10名） ・東京農業大学農学部動物生殖学研究室「レクチャー：動物園動物の繁殖に関する取り組みや研究の意義」（5/18・48名） ・日本獣医生命科学大学獣医学科「見学指導：キリン」（5/26・83名） ・帝京科学大学アニマルサイエンス学科「出張レクチャー：動物福祉と動物園動物」（5/29-30・46名） ・日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科「見学指導：チンパンジー」（6/1, 15・52名） ・日本獣医生命科学大学獣医学科「見学指導：オランウータン」（6/9・83名） ・東京農工大学獣医生理学研究室「動物園の動物病院業務」（6/20・5名） ・日本獣医生命科学大学獣医学科「見学指導：チンパンジー」（6/23, 30・83名） ・日本獣医生命科学大学「レクチャー：動物園の仕事とその役割」（7/1・26名） ・TCA東京ECO動物海洋専門学校「見学指導」（7/8・81名） ・帝京短期大学こども教育学科「見学指導：昆虫」（10/13・52名） ・東京都立大学「博物館実習Ⅰ：見学指導」（10/21・12名） ・白百合女子大学・駒澤大学「見学指導：チンパンジー」（12/1・10名、12/8・32名） ・東京農工大学農学部共同獣医学科「レクチャー：野生動物および展示動物に関する獣医

園 名	内 容 (実施日・対応人数)
	倫理」(12/4・39名) ・日本獣医生命科学大学(学生相談室)「見学指導：アジアゾウ」(1/5・35名) ・東洋大学応用生物化学科「レクチャー：動物園の役割及び業務内容」(1/18・111名)
葛 西	・帝京科学大学博物館実習「レクチャー：水族館の特性・科学的な観察」(9/4・29名) ・大宮国際動物専門学校「レクチャー：マグロ」(9/12・46名) ・埼玉動物海洋専門学校「レクチャー：教育普及係について」(10/13・8名) ・大正大学地域創成学部「レクチャー：東京湾の干潟」(10/30・15名) ・ECO動物海洋専門学校「レクチャー：教育普及活動」(大阪・仙台校)「(11/10・21名) ・ECO動物海洋専門学校「レクチャー：教育普及活動」(名古屋・福岡校)「(11/11・23名) ・福岡ECO動物海洋生物専門学校「レクチャー：水族園について」(12/15・33名) ・法政大学KYOPRO「レクチャー：魚類観察・見学指導」(12/26・24名)
井の頭	・和光大学経済学部「見学指導：行動観察」(5/21・5名) ・明治大学「見学指導：博移館学」(6/25・12名) ・武蔵野大学教育学科「見学指導：教材利用見学」(7/8・170名) ・武蔵野大学幼児教育学科「見学指導：教材利用見学」(7/15・100名) ・武蔵野大学教育学科「見学指導：教材利用見学」(12/1・35名) ・武蔵野美術大学建築学科「質問対応：動物園の展示」(12/4・1名) ・武蔵野大学教育学科「見学指導：教材利用見学」(12/15・55名) ・日本ペット&アニマル専門学校「動物園の役割」(12/21・20名) ・アジア・アフリカ語学院「見学指導」(2/27・11名、2/29・13名)

6. 他団体と連携した教育プログラム

専門的な視点や地域に根差した教育普及事業団体等の他団体と連携して行う、生きものの解説や観察会、展示などの教育プログラム。一部のプログラムはオンラインにより実施した。

(1) 野生動物保全関連団体と連携したプログラム

園 名	内 容 (実施日・対応人数)
上 野	・(公財)世界自然保護基金ジャパン(WWF)世界カワウソの日「“ウラのカオしおり”で知る、飼育員さんだけが知ってるコツメカワウソのウラのカオ」(5/25～31) ・(公財)世界自然保護基金ジャパン(WWF)世界トラの日企画“トラを折って考えよう！「ARでうごく！熱帯林の野生動物オリガミ」夏休み親子体験特別イベント”(7/27)、みんなで折ろう！【ARでうごく！熱帯林の野生動物オリガミ】体験ブース(7/28～8/4) ・認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金(JTEF)世界トラの日企画「もっと知りたい？ Think About Wild Tigers！」(7/28～30) ・対馬市対州馬保存会 パネル展示「対州馬展」(8/8～9/18) など ・関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会連携イベント パネル展示「おしえて！コウノトリ」、スタンプラリー「ニホンコウノトリの食べ物になる生き物を探そう！」(10/3～29) など
多 摩	・環境省コラボ企画パネル展示「タガメとゲンゴロウが危ない!？」(7/27～9/12)

園 名	内 容（実施日・対応人数）
	・関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会連携イベント パネル展示「おしえて！コウノトリ」（11/2～11/30）、トークイベント「動物園でもコウノトリを守っている。」（11/3、12、23、26）
葛 西	・海鳥フェスティバル（北海道羽幌町） 「海鳥のエサの時間」Live配信、海鳥の生態エリア観察会、海鳥の卵ペイントワークショップ（7/15）
井の頭	・ヤマネコ祭2023 「野生動物を守る取り組みを知る一団体の活動紹介展」対馬市／（一社）対馬観光物産協会、NPO法人ツシマヤマネコを守る会、NPO法人どうぶつたちの病院、認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金、岐阜大学 動物繁殖学研究室、日本獣医生命科学大学ツシマヤマネコ域外保全栄養チーム、大正大学 公共政策学科（10/28～29） ・関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会連携イベント 水生物館パネル展示「おしえて！コウノトリ」（11/14～2024/4/7）、飼育係によるいきものガイド「コウノトリってこんな鳥」（11/25、12/23、2024/1/27）など

（２）地域の博物館・公園・商業施設等と連携したプログラム

園 名	内 容（実施日・対応人数）
上 野	・東京都歯科医師会 歯と口の健康週間イベント「いい歯いきいき」上野動物園（6/4） ・中国駐東京観光代表処イベント「シャンシャン誕生日会」（6/12）、「シャオシャオとレイレイ（2歳）お誕生日会」（6/23）、「ジャイアントパンダ保全とシンシン誕生日記念イベント」（7/3）、「ジャイアントパンダ保全とリーリー誕生記念イベント～家族でパンダの色塗りワークショップ～」（8/16） ・国際子ども図書館連携企画「子どものための秋のおたのしみ会 ウサギの絵本の読み聞かせとウサギの飼育員さんのおはなし」（11/12・73名）
多 摩	・日野市市制施行60周年記念イベント ウォーターサーバー設置式典及び日野の自然講演会（5/27）、日野市PRブースとパネル展示、たまたま発見ガイドツアー、日野市産食材を使用したデザートの販売（5/27、28） ・多摩都市モノレール「タマオがお手伝い！夏休み自由研究ラリー」（7/15～9/30） ・水と緑の日野・市民ネットワーク第19回シンポジウム「日野にもくるかな、コウノトリ」基調講演『ニホンコウノトリの野生復帰と動物園での取り組み』（9/23）対面とオンライン ・日野市環境フェアにおけるブース出展（2/10）
井の頭	・ユニクロ吉祥寺店との共同企画「おえかきZOO—どうぶつたちを描いてみよう」（7/22～8/27の土日祝） ・むさしのエコreゾート ワークショップ（夏版）「ツシマヤマネコってどんないきもの？お話を聞いてヤマネコ・マグネットをつくろう」（8/9）、「よく知ろう！身近な外来生物 ザリガニとカメ」（8/16） ・「第32回三鷹国際交流フェスティバル」参加（9/24） ・ヤマネコ祭2023「ミニマルシェ」武蔵野市観光機構、Miジャム、吉祥寺MATSUHIRO、雨の木なコーヒー、BellaDonna（ベラドンナ）、三鷹の森ジブリ美術館、26Kブルワリー（10/28～29）

園 名	内 容（実施日・対応人数）
	・三鷹ネットワーク大学「画竜点睛！辰のはなし」参加（1/6） ・大吉祥抽選会スペシャルガイドツアー（2/11）
葛西	・多摩六都科学館 夏の特別企画展「魚の口～食べるは生きる～」（7/22～9/3） ・葛西海浜公園ラムサール条約湿地登録5周年記念イベント 西なぎさ生き物調査のパネル展示、西なぎさで見られる生物の標本展示と解説（10/22、23） ・葛西海浜公園パートナーズ 葛西海浜公園 海のごみ拾いと生物観察会（11/26） ・国境離島PRイベント「ホエールくんと大冒険！ サンゴが育むみんなの島 東京都 沖ノ鳥島・南鳥島」デジタルクイズラリー、プロジェクションマッピング上映（12/14～26） ・江戸川区郷土資料室企画展「江戸川区の漁―海と川と魚と貝と―」関連イベント講演会「その後の東京湾」（2/18）

7. 移動水族館

葛西臨海水族園では、普段、水族園に足を運ぶことができない人にも、海の生物に親しむ機会を提供し、海と海洋生物への興味、理解を深めてもらうため、大型水槽車両を活用し、水族園外においても普及啓発活動を実施した。ソーシャルインクルージョンの専門家に活動の様子を見学、評価してもらい（2件）、プログラムの改善を行った。

実施プログラム	実施件数	延べ参加者数
（1）大型水槽車両による海洋生物の展示解説プログラム	22件	6,631名
（2）磯の生物とのふれあいと解説プログラム	27件	3,250名
計	49件	9,881名

*他、3件が都合により中止

8. 友の会運営

動物園・水族園への関心を高めるとともに、広く自然科学への興味を育ててもらうために組織している「東京動物園友の会」の運営を行った。

名 称	東京動物園友の会
会 員 数	一般：4,063名 ジュニア：212名（令和6年3月31日現在）
実 施 事 項	① 新規入会、継続手続等、受付・管理事務 ② 季刊雑誌「どうぶつと動物園」及びジュニア向け会誌「Z00! どーぶつえんしんぶん」の送付 ③ 各種普及活動案内送付（ダイレクトメール） ④ 新規入会案内パンフレットの配布

(1) 友の会会員対象催物

行 事 名	実施月日	内容・講師等	参加者
あきる野市カエル 観察会	6月10日	東京都あきる野市周辺で、田んぼや河原などの水辺を歩きながらカエルのなかまを観察。 企画：上野動物園	27名
ホタル観察会 ①オンライン教室 ②園内観察会	①6月10日公開 ②6月16日・18日	事前にオンラインでゲンジボタルの生態等について学び、別日に日没後の園内でホタルを観察。 企画：多摩動物公園	一般含 ②6/16: 35名 6/18: 40名
よこはま動物園と 横浜市繁殖セン ター見学ツアー	7月23日	よこはま動物園ズーラシアと非公開施設の横浜市繁殖センターの見学。 企画：多摩動物公園	30名
セミとコウモリ 観察会	8月5日	閉園後の上野動物園不忍池周辺で、セミとコウモリを観察。 企画：上野動物園	一般含 55名
ながわ水遊園と アユやな漁見学 バスツアー	9月2日	栃木県ながわ水遊園と伝統漁法のひとつ“アユやな”の見学。 企画：井の頭自然文化園	38名
ムササビの棲む森 を見よう！	9月3日	ムササビの生態や生息環境などについての講義と高尾山薬王院でのムササビ観察。 講師：岡崎弘幸（中央大学附属中学校高等学校元教諭） 企画：多摩動物公園	一般含 28名
山形の自然と水族 館をめぐる秋の 自然観察ツアー	11月3～4日	川を遡上するサケや、ハクチョウ・カモ類の観察、鶴岡市立加茂水族館やサケのふ化場の見学。 企画：葛西臨海水族園・教育普及センター	19名
千支の講演会	1月8日	4園の最近の話題。 講演「世界のモグラに会いに行く」：川田伸一郎（国立科学博物館）企画：多摩動物公園	一般含 156名
初心者野鳥観察会	3月3日	初心者のための野鳥観察会。 企画：多摩動物公園	35名
高碕賞表彰式と 受賞記念講演会	3月16日	講演「つなぐ活動の今までとこれから」：天野未知（教育普及センター） 講演「チンパンジー繁殖に向けた人工授精の取り組み」：高柳真世（野生生物保全センター）	37名

(2) ジュニア会員対象催物

開催園	実施月日	内容	参加者
多摩動物公園	6月17日	ホタル観察会	40名
葛西臨海水族園	9月30日	なぎさの観察会	32名
井の頭自然文化園	2月4日	井の頭池の水鳥観察会	22名
上野動物園	3月2日	野生のトラになってみよう	32名

(3) 「友の会の日」の実施

今年度の「友の会の日」は上野動物園で開催し、講演会と園内特別見学会を実施した。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止していた懇親会を4年ぶりに開催した。

行 事 名	実施月日	内容・講師等	参加者
友の会の日	9月9日	4園の最近の話題 第1部：講演会「アジアゾウの繁殖について」「アイアイの繁殖について」と園内特別見学 第2部：懇親会と抽選会（西園休憩所）	103名

9. 資料の収集・公開

動物及び動物園・水族館関係の専門書や学術雑誌、普及雑誌を中心に収集した。定期刊行物は、購入や寄贈のほか、動物園、博物館、研究所等の出版物との交換により収集した。

感染拡大防止のため休室していた図書コーナーは令和4年7月より毎週土曜日を開室日として再開し、文献複写郵送サービスについては図書コーナーの再開後も引き続き実施している。

写真・ビデオ等の映像資料のほか、動物の音声資料（録音データ）も園内外の利用に供した。収蔵図書については、ウェブサイト上に図書検索システムを設けている。

(1) 図書収集状況

区 分	収集 点数	国 内			国 外			摘 要
		購入	寄贈	交換	購入	寄贈	交換	
書 籍 類	122	73	31	0	4	14	0	収蔵数 和書 14,128冊 洋書 4,266冊
雑 誌 類	514	185	191	59	69	6	4	

(2) 図書利用一覧（文献複写郵送サービスの利用も含む）

区分	動物園	哺乳類	鳥 類	爬虫類	魚 類	無脊椎	一 般	その他	計
件数	30	3	0	0	0	0	2	1	36件

（都立動物園水族園関係者は除く）

(3) 映像資料利用状況

区 分	無 料		有 料		合 計	
写 真	28件	151点	43件	81点	71件	232点
ビデオ映像	4件	13点	28件	49点	32件	62点
音 声 資 料	1件	1点	2件	5点	3件	6点
計	33件	165点	73件	135点	106件	300点

(都立動物園水族園関係者は除く)

10. 出版事業

(1) 「東京動物園友の会」会員向け機関誌の発行

動物及び動物園に関する情報を提供するための出版物を発行し、「東京動物園友の会」会員その他関係機関等に配付した。

刊 行 物	内 容
どうぶつと動物園	A4変型判・約54頁／各号約5,500部／春・夏・秋・冬号 (Vol. 75-2～Vol. 76-1) ・春号は多摩のコアラ飼育に欠かせないユーカリ調達の裏側や、井の頭のニホンカモシカ繁殖に向けた取組に関する記事を掲載した。 ・夏号は上野のコビトカバ来園や、多摩のチンパンジーの人工授精成功、井の頭の水草イノカシラフラスコモ復活に関する記事を掲載した。 ・秋号は多摩が継続して取り組んでいるトキの自然孵化と自然育雛、園内のチョウ類調査、葛西の餌管理に関する記事を掲載した。 ・冬号は上野のニシゴリラの人工哺育や、希少種オガサワラカワラヒワ保全の取組、葛西のウミガラスの卵についての研究等に関する記事を掲載した。 ・その他、研究や保全活動の最新知見として、都立動物園・水族園が取り組む東京産アカハライモリの教育普及活動、日本初渡来のキリンにまつわる歴史秘話、海岸に漂着する海棲哺乳類の調査・研究に関する記事等を掲載した。
ZOO! どうぶつえん しんぶん	A4判・8頁／各号約500部／8月・2月発行 ・第30号（8月発行）は「コウモリ」を特集した。上野動物園で展示している3種類のコウモリを取り上げ、体のつくりや食性、飼育担当者が解説するコウモリの魅力や観察ポイントなどについて紹介した。 ・第31号（2月発行）は「サイ」を特集した。上野動物園のヒガシクロサイと多摩動物公園のインドサイを取り上げ、それぞれの体の特徴や飼育するうえでの工夫などについて紹介した。

(2) 葛西臨海水族園情報誌の発行

刊 行 物	内 容
SEA LIFE NEWS	A4判・4頁（第110号は6頁）／各号約4,500部／第109号～第114号発行 ・葛西臨海水族園の展示生物についての情報や保全活動・調査活動等に関する情報を取り上げ、園内で配布するとともに東京ズーネットサイトで公開した。
	第109号 さまざまなウンチのはなし、「西なぎさ」調査2021まとめ、他
	第110号 「水辺の自然」エリア特集、施設係による樹木等の管理、他
	第111号 アミメハギの繁殖行動、「スイミー」の教材集公開、他
	第112号 魚類の正面顔、「西なぎさ」のスナガニ、標本の作り方、他
	第113号 カチュディートの繁殖、タコブネの展示、他
	第114号 アオウミガメの輸送と展示、カタマイマイ展示開始、他

(3) 高碕賞の表彰

季刊「どうぶつと動物園」の令和5年度発行号（春号～冬号）に掲載された記事及び写真を対象に、優れた作品を選出し表彰した。

区分	タイトル	掲載号	氏 名	摘 要
高碕賞	オンラインでつながる学びの場 ——コロナ禍での新たな取り組み	春号	天野未知 古坂志乃 木下哲 市川啓介 山崎彩夏	教育普及センター 上野動物園 多摩動物公園 葛西臨海水族園 井の頭自然文化園
	チンパンジーの未来に向けて ——人工授精成功への道のり	夏号	野田瑞穂	多摩動物公園
	精液を保存し、人工授精に備える ——チンパンジー繁殖に向けた野生生物保全センターの取り組み		高柳真世	野生生物保全センター
奨励賞	多摩動物公園のレッサーパンダ	春号	中山理恵	
	上野動物園のオオワシ	秋号	田代真知子	
	上野動物園のレッサーパンダ	冬号	山口恵美	

11. インターネット事業

都立動物園・水族園公式サイト「東京ズーネット」、上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA.JP」、X（旧Twitter：6アカウント）、YouTube、Instagramを通じて、動物園・水族園の基本情報及び動物に関する情報を広く提供・配信した。

（1）ウェブサイト「東京ズーネット」の運営（<https://www.tokyo-zoo.net/>）

都立動物園・水族園の公式サイトとして、基本情報としての利用案内をはじめ、動物に関する最新情報や各園イベント情報、動物に関する基礎知識、各園の見どころや動物の紹介、保全への取組など、様々な情報を提供した。

【年間アナリティクス数値】

年度	令和4年度	令和5年度
ページビュー数	44,523,418	32,851,390
ユニークユーザー数	7,449,417	8,266,328

※集計ツール（Google Analytics）の計測方法に仕様変更あり（令和5年7月）

【主なコンテンツ】

ページ名	内 容 等
ニュース&イベント	都立動物園で飼育している動物に関する最新情報と各園イベント情報
各種利用案内	開園時間、休園日、入園料、団体入園、乳幼児・障がい者対応、園内利用施設、交通アクセス、園内マップ
見どころと歴史	各園の特徴と見どころ及び歴史を紹介
保全への取組	野生生物や生物多様性の保全、研究、環境教育に関する取組を紹介
どうぶつ図鑑	飼育動物に関する生態等の解説
東京ズーネットBB	動物の様々な行動の動画配信（令和6年3月31日現在計1,184点）
鳴き声図鑑	動物の鳴き声の音声配信
東京動物園友の会	友の会に関する案内や発行雑誌の紹介
蔵書検索	上野動物園資料室に収蔵されている動物関連図書の検索システム
どうぶつえんデジタルライブラリー	都立動物園・水族園に関する書籍や雑誌を電子書籍として公開
動物園サポーター	動物園サポーターの紹介、登録方法、登録者リスト、会計報告

ページ名	内 容 等
学校向けプログラム	教育機関のための各種プログラムの紹介
東京Zoovie: Maps & Tours	グラフィカルなマップを入口として4園のバーチャルツアー映像や動画によって園内の見どころを案内するとともに、日本や世界の生き物について学べる教育普及情報を配置したコンテンツ。※令和6年3月31日をもってサービス終了
都立動物園・水族園 見どころデジタルマップ	各園の動物展示の見どころ、写真に撮りたくなるような景色、おすすめのギフト商品、少しマニアックなスポット等を解説付きで紹介するコンテンツ
ガイドアプリ	上野動物園と葛西臨海水族園をガイドする都立公園ガイドアプリ「Tokyo Parks Navi」の紹介。※都における事業終了に伴い令和5年6月19日サービス終了
幼児向けコンテンツ 「Kids and Zoo」	おもに幼児を対象に、多摩動物公園の動物を取り上げ、ぬりえやひらがな練習等のワークシートや動画を通じて、来園のきっかけや観察の視点を提供
かんさつシート	多摩動物公園の「かんさつシート」の紹介
水族園魚タッチング シート	葛西臨海水族園で楽しく生物観察をするためのワークシートの紹介
移動水族館	葛西臨海水族園の「移動水族館」事業の紹介と申込案内
いきもの広場	井の頭自然文化園園内の「いきもの広場」の紹介、毎週の活動の紹介
花ごよみ	井の頭自然文化園の四季おりおりの植物を紹介

(2) ウェブサイト「UENO-PANDA. JP」の運営 (<https://www.ueno-panda.jp/>)

上野動物園のジャイアントパンダ情報サイトとして、展示個体並びに過去に飼育した個体の情報、飼育係によるレポート、ジャイアントパンダに関する最新情報やQ&A等を紹介。また、保全への取組やジャイアントパンダ保護サポート基金の紹介、更には壁紙ダウンロードコーナーや企業協賛の募集等のコンテンツ等、豊富な情報を掲載した。

【年間アナリティクス数値】

年度	令和4年度	令和5年度
ページビュー数	4,231,008	2,280,958
ユニークユーザー数	1,141,098	600,113

※集計ツール (Google Analytics) の計測方法に仕様変更あり (令和5年7月)

【主なコンテンツ】

ページ名	内 容 等
トピックス	上野動物園のジャイアントパンダに関する最新情報
パンダプロフィール	上野動物園で展示している4頭の個体紹介

ジャイアントパンダについて	様々な角度からジャイアントパンダを紹介
パンダムービー	動画によるジャイアントパンダ紹介
歴代のパンダたち	これまで上野動物園で飼育した個体を動画とともに紹介
パンダ舎の紹介	ジャイアントパンダ舎を写真付きで紹介
パンダ大百科	ジャイアントパンダに関するQ&A
保全への取り組み	ジャイアントパンダ保護研究に関する概要
熊貓的新聞（パンダニュース）	飼育係による写真付きのレポート
壁紙ダウンロード	パソコン用にダウンロードできる壁紙を提供
ジャイアントパンダ保護サポート基金	基金の概要、企業協賛の募集

（３）X（旧 Twitter）による情報発信

SNS媒体「X（旧Twitter）」を活用し、４園と東京ゾーネット及び教育普及センターの６アカウントから、積極的に情報を提供した。

アカウント		フォロワー数	
		令和５年３月末	令和６年３月末
上野動物園	@UenoZooGardens	1,093,157	1,091,612
多摩動物公園	@TamaZooPark	262,739	268,005
葛西臨海水族園	@KasaiSuizokuen	192,021	194,135
井の頭自然文化園	@InokashiraPark	150,205	150,706
東京ゾーネット	@TokyoZooNet_PR	449,548	447,244
東京動物園協会教育普及センター	@TZPS_EduCenter	11,437	11,247

（４）YouTubeによる情報発信

動画配信サービス「YouTube」を活用し、「東京ゾーネット公式チャンネル」「葛西臨海水族園公式チャンネル」「東京ZoovieYouTubeチャンネル」で動画配信を積極的に行った。

（５）Instagramによる情報発信

都立動物園・水族園の公式 Instagram アカウント (@tokyo_zoogram) を活用し、写真や動画を中心とした積極的な情報発信を行った。フォロワー数 20,527（令和６年３月 31 日現在。令和２年 7 月 20 日開設）。

令和４年３月 20 日に上野動物園が開園 140 周年を迎えるにあたり、期間限定 Instagram アカウント (@ueno_zoo_140th) を開設（令和４年３月 9 日～令和５年３月 19 日まで）し、140 周年事業に関わる情報発信を行った。140 周年期間終了後はアカウント名を「@ueno_zoo_official」へ変更し、上野動物園の情報発信媒体として運用継続することとした。フォロワー数 27,372（令和６年３月 31 日現在）

(6) メールマガジンによる情報発信

プッシュ型メディアであるメールマガジンを活用し、「ズー・エクスプレス」を隔週で計2 (No. 870～897) を配信した。登録数3,285 (令和6年3月31日現在)。

12. 映像記録資料制作

(1) 動物写真撮影

都立動物園・水族園を中心に、飼育動物全般に関する記録及び園内外の行事や催物を撮影・記録した。

(2) ビデオ撮影・制作

飼育動物の行動記録や動物園情報をビデオ映像として撮影記録し、入園者向けニュースや各種研究発表として上映・提供するほか、ウェブサイト「東京ズーネット」「UENO-PANDA.JP」において配信した。

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ	22分39秒	上野	資料として提供
ミゾゴイ	26秒	井の頭	YouTube配信用
オオカミ	27秒	多摩	Instagram配信用
カワウソ講演会	1時間48分 40秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダ	5分13秒	上野	資料として提供
マヌルネコ食餌	4分40秒	上野	イベント放映用
ジャイアントパンダ双子の出産と成長	5分	上野	イベント放映用
ジャイアントパンダ鳴き声	31秒	上野	イベント放映用
ジャイアントパンダの近況	22分39秒	上野	資料として提供
トキ公開に向けた座談会	1時間35分 50秒	多摩	資料として提供
4園PR動画	27分21秒	上野	イベント放映用
友の会の日講演	2時間8分8 秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダ	2分26秒	上野	資料として提供
コビトカバ	22秒	上野	YouTube配信用
ヒガシクロサイ	1分7秒	上野	YouTube配信用
ジャイアントパンダ	2分36秒	上野	資料として提供

内 容	時間	園名	主な使用目的
カエルジャンプと泳ぎ	45秒	上野	企画展放映用
ジャイアントパンダ	4分11秒	上野	資料として提供
上野サポーターズデイ講演	1時間23分 51秒	上野	資料として提供
野生生物保全基金講演	1時間55分 31秒	上野	資料として提供
カタマイマイ	8分18秒	井の頭	展示場放映用
コビトカバ	2分48秒	上野	ズーネットBB配信用
ニシゴリラ	1分47秒	上野	ズーネットBB配信用
ミーアキャット	1分43秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ユーラシアカワウソ	1分52秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ゼニガタアザラシの子	1分31秒	上野	ズーネットBB配信用
ミゾゴイ	1分43秒	井の頭	ズーネットBB配信用
オニダルマオコゼ	2分1秒	葛西	ズーネットBB配信用
ミズクラゲ	1分40秒	葛西	ズーネットBB配信用
キュウシュウノウサギ	2分20秒	井の頭	ズーネットBB配信用
マルメタピオカガエル	1分16秒	上野	ズーネットBB配信用
ツチブタ	1分14秒	上野	ズーネットBB配信用
マングース	1分19秒	上野	ズーネットBB配信用
アジアゾウ親子	2分36秒	上野	ズーネットBB配信用
ジャイアントパンダ双子	2分39秒	上野	ズーネットBB配信用
チーター	1分30秒	多摩	ズーネットBB配信用
ホタル観察会	1分54秒	多摩	ズーネットBB配信用
昆虫生態園	1分41秒	多摩	ズーネットBB配信用
シロテテナガザル	1分33秒	多摩	ズーネットBB配信用
テロ対策訓練	2分34秒	上野	ズーネットBB配信用
トビハゼ	2分13秒	葛西	ズーネットBB配信用
サマーナイト	1分24秒	多摩	ズーネットBB配信用
シフゾウ	2分16秒	多摩	ズーネットBB配信用
ナイトオブワンダー	1分46秒	葛西	ズーネットBB配信用

内 容	時間	園名	主な使用目的
真夏の夜の動物園	1分42秒	上野	ズーネットBB配信用
カバ	2分30秒	上野	ズーネットBB配信用
ニシゴリラ	2分16秒	上野	ズーネットBB配信用
ヒゲキホウボウ	1分16秒	葛西	ズーネットBB配信用
ミナミコアリクイ	1分52秒	上野	ズーネットBB配信用
アジアゾウ「アルン」3歳	1分42秒	上野	ズーネットBB配信用
カイツブリ	2分9秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ヒガシクロサイ	1分8秒	上野	ズーネットBB配信用
秋の夜長の自然文化園	2分11秒	井の頭	ズーネットBB配信用
スマトラトラ「アサ」	1分54秒	上野	ズーネットBB配信用
オオアシトガリネズミ	2分4秒	多摩	ズーネットBB配信用
ガイアナカイマントカゲ	1分20秒	上野	ズーネットBB配信用
クビワペッカリー	1分54秒	上野	ズーネットBB配信用
ウィーディシードラゴン	1分23秒	葛西	ズーネットBB配信用
クリイロハコヨコクビガメ	1分41秒	上野	ズーネットBB配信用
インドサイ「ビクラム」	1分43秒	多摩	ズーネットBB配信用
上野新年イベント	1分40秒	上野	ズーネットBB配信用
カタマイマイ	2分58秒	井の頭	ズーネットBB配信用
マグロのエサの時間	1分27秒	葛西	ズーネットBB配信用
ライオンバス非常時対策訓練	3分53秒	多摩	ズーネットBB配信用
雪の上野動物園	2分9秒	上野	ズーネットBB配信用
カイツブリ	2分4秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ヒガシニホントカゲ	2分7秒	上野	ズーネットBB配信用
エトピリカとウミガラス	1分46秒	葛西	ズーネットBB配信用
猛獣脱出対策訓練	3分8秒	上野	ズーネットBB配信用
ジャイアントパンダ	22分39秒	上野	資料として提供

(3) 広報用資料の制作

動物園・水族園の広報発表時の写真資料に加え、ビデオ映像を撮影・制作し、提供した。

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ（4月24日）	5分41秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（5月22日）	4分42秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（6月19日）	6分3秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（6月19日）	53秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（7月24日）	5分9秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（8月21日）	5分39秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（9月25日）	5分48秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（10月16日）	5分42秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（11月20日）	5分34秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（12月18日）	5分51秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（1月22日）	6分6秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（2月19日）	5分59秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（3月18日）	5分18秒	上野	報道発表資料

〔４〕市民・団体との協働事業

１．ボランティアとの協働

園内で展示動物の解説等や入園者案内等のボランティア活動を行う「東京動物園ボランティアーズ（TZV）」（活動場所：上野動物園、多摩動物公園、井の頭自然文化園、登録者数610名）と「東京シーライフボランティアーズ（TSV）」（活動場所：葛西臨海水族園、登録者数105名）に対して、新規応募者や既存会員を対象とした研修会の開催やユニフォーム等活動経費の援助を行った。

また、「恩賜上野動物園樹木美化ボランティア」が上野動物園で、「NPO法人樹木・環境ネットワーク」が多摩動物公園で、園内の植物の維持管理活動等を行った。

（１）新規応募者対象研修会実施状況

園 名		内 容	実施回数	参加者数
TZV	上野	①サービスガイド新規応募者講習会 ②サービスガイド新規応募者接遇研修（希望する既存会員含む）	① 1 回 ② 1 回	①42名 ②47名
	多摩	①サービスガイド新規応募者講習会 ②サービスガイド新規応募者接遇研修（希望する既存会員含む） ③サービスガイド講習生向け施設見学	① 1 回 ② 1 回 ③ 4 回	①16名 ②19名 ③9名
	井の頭	①サービスガイド新規応募者講習会 ②サービスガイド新規応募者接遇研修（希望する既存会員含む） ③サービスガイド講習生モルモットふれあいコーナー研修	① 1 回 ② 1 回 ③ 5 回	①19名 ②26名 ③19名
TSV	葛 西	新規応募者研修会	4 回	55名

（２）ボランティア会員を対象とした研修会

園 名		内 容	参加者数
TZV	上野	ライチョウのガイドのための勉強会、ゴリラ講演会上映会、ドリームデイ事前講演会、子ども動物園見学	137名
	多摩	モルモットふれあい研修、水生昆虫のガイドのための勉強会。チョウのガイドのための勉強会、ライオン・チーター・サーバルの勉強会等	254名
	井の頭	モルモットふれあいコーナー新プログラム勉強会、ヒツジの毛刈り見学会、ボトルウォッチング説明会	161名

TSV	葛 西	「葛西の海2」水槽と地引網調査について、トビハゼの生殖生態について、「海鳥の生態」エリアで取組んでいる海鳥の漁網混獲対策の共同研究について、「深海生物」について等	66名
-----	-----	---	-----

(3) ボランティアとの協働による教育活動等

園 名		内 容	実施回数
TZV	上野	園内スポットガイド等	414回
	多摩	園内スポットガイド、ふれあいコーナー活動等	301回
	井の頭	園内スポットガイド等	103回
TSV	葛 西	しおだまり、東京の海ガイド等	274回

2. サポーター事業

個人及び団体、法人等から資金的支援を得て、都立動物園における動物飼育環境の改善に資するとともに、「動物園サポーター」として登録し、市民の動物園事業への理解と参画意識を促進した。

(1) 動物園サポーターの登録状況

園 名	個人 (大人) 1口：10,000円	個人 (大学生以下) 1口：5,000円	子供 サポーター 1口：500円	法人 (団体) 1口：50,000円	金額
上 野	525名 695口	11名 15口	8名 11口	8法人 10口	7,530,500円
多 摩	199名 265口	7名 9口	2名 2口	2法人 3口	2,846,000円
葛 西	31名 38口	3名 3口	5名 5口	1法人 1口	447,500円
井の頭	71名 86口	1名 1口	0名 0口	3法人 10口	1,365,000円
合 計	826名 1,084口	22名 28口	15名 18口	14法人 24口	12,189,000円

(2) サポーターを対象とした園内見学等の催物（サポーターズデイ）等の実施

開催園	実施月日	内 容	参加者
上野	8月26日	園長挨拶、西園自由見学	278名
多摩	9月16日	園長挨拶、収支報告、園内ガイドツアー	98名
井の頭	11月26日	水生物館・水生物園鳥舎ガイドツアー、近況報告・収支報告	29名
上野	1月28日	東京国立博物館にて講演会	239名

葛西	2月17日	園長挨拶、収支報告、ガイドツアー、飼育係とのQ&A	18名
多摩	3月2日	園長挨拶、収支報告、園内ガイドツアー	99名

(3) サポーター資金による飼育展示等の改善

園 名	実 施 事 項
上 野 動 物 園	①アイアイ・クロシロエリマキキツネザル・クロキツネザルエンリッチメント用具の導入 ②アジアゾウ用電動ウィンチの設置 ③アフリカタテガミヤマアラシ用反射防止フィルムの導入 ④アメリカバイソン用真砂土の導入 ⑤クマ舎バークチップ敷均し ⑥コビトカバ用川砂の導入 ⑦コビトカバ用ミスト噴霧器の導入 ⑧コビトカバ用遠心加湿器の導入 ⑨ゴリラエンリッチメント用具の導入 ⑩キリン用火山礫の導入 ⑪サルヒヒ舎立木ベースの設置 ⑫ゼニガタアザラシ用ダイライト水槽の導入 ⑬チンチラ飼育ケージの亚克力交換 ⑭鳥たちのおうちⅡ室内空調環境改善 ⑮バク用床マットの導入 ⑯ハダカデバネズミ展示飼育用巣穴ケースの導入 ⑰バードハウス・バードケージ中目砂の導入 ⑱ヒガシクロサイ用飼育環境改善用土の導入 ⑲ふたば牧場放飼場用砂の導入 ⑳ブタ用ポータブルエアコンの導入 ㉑ベニイロフラミンゴ用荒木田土の導入 ㉒猛禽舎・ツル舎山砂の導入 ㉓ミナミコアリクイ用監視カメラの設置 ㉔ミミセンザンコウ用バークチップ敷設
多 摩 動 物 公 園	①アジアゾウ給餌エンリッチメント用具の導入 ②アフリカゾウ給餌エンリッチメント用具の導入 ③アフリカゾウ用ジェットヒーターの導入 ④キリン舎段差解消ゴムマットの設置 ⑤チンパンジー腎臓機能強化用給餌食の導入 ⑥ツキノワグマ用日除け丸太の設置 ⑦マレーバク用扇風機の導入 ⑧猛獣舎体重測定用バースケールの導入

	⑨ユキヒョウ用スポットクーラーの導入
葛西臨海水族園	①ペンギン放飼場噴霧器の設置
井の頭自然文化園	①ミーアキャット舎砂敷設 ②ヤマネコ舎（ツシマヤマネコ・アムールヤマネコ）監視カメラ映像保管用外付HDDの導入

3. 関係団体への協力

（1）国際自然保護連合への協力

国際自然保護連合（International Union for Conservation of Nature and Natural Resources 略称IUCN）の委員会である種保存委員会（Species Survival Commission 略称SSC）の保全計画専門家グループ（Conservation Planning Specialist Group 略称CPSG）に事業援助のため寄付を行った。

（2）関係団体への協力

動物園事業に関係する20の団体に加入し、情報の交換や募金活動への協力を行った。

〔加入団体〕

会員区分	団 体 名	会員区分	団 体 名
法 人 会 員	(公財)世界自然保護基金ジャパン	団 体 会 員	(公財)日本自然保護協会
〃	(公財)日本鳥類保護連盟	〃	(一社)日本霊長類学会
賛 助 会 員	(公財)山階鳥類研究所	〃	(一社)日本応用動物昆虫学会
〃	(一社)日本生態学会	〃	(一社)日本環境教育学会
〃	日本動物心理学会	〃	(一社)日本昆虫学会
〃	(公社)日本造園学会	〃	日本鱗翅学会
維 持 会 員	(公社)日本動物園水族館協会	〃	日本鳥学会
〃	(公財)日本博物館協会	〃	日本爬虫両棲類学会
団 体 会 員	(一社)日本哺乳類学会	〃	(一社)日本生物教育学会
〃	(公財)日本動物学会	〃	日本動物園水族館教育研究会

4. 基金事業

（1）ジャイアントパンダ保護サポート基金の運営

募金やドネーション商品からの寄付、企業からの協賛金等を積み立て、ジャイアントパンダ保護に向けた普及啓発活動や上野動物園での飼育環境の向上、東京都と中国が共同で進めている繁殖研究プロジェクトへの支援に活用した。

① 収入の状況

項 目	金 額	内 容
寄付金	13,927,984円	①園内外募金箱への募金 ②SAVE the PANDAパートナーズ ほか
企業協賛金	2,238,500円	①園内広告協賛 ②ロゴマーク、キャラクターライセンス使用
ドネーション商品 売上金からの寄付金	10,946,919円	オリジナルドネーション商品売上金額の5% （「ありがとうジャンジャン」CD/DVDは80%） アイテム数：57点（ぬいぐるみ、お菓子ほか） 売上点数：179,818点

② 基金活用の状況

使 途	活用内容	活用金額
ジャイアントパンダの保護に向けた普及 啓発活動	誕生日記念企画（双子パンダの2 歳）、パンダの日記念企画、ジャ イアントパンダ来園50周年誌及び 普及版の発行ほか	10,318,373円
上野動物園におけるジャイアントパンダの 飼育環境の向上	パンダのもりにおける飼育環境の 充実（X線撮影などの健康管理に 用いる可動式ケージの製作、屋外 放飼場木製工作物設置）	8,485,180円
東京都と中国野生動物保護協会が共同で 進める国際的なパンダ保護活動	東京都と中国の共同繁殖プロジェ クト支援（東京都へ寄付）	10,000,000円

③ 基金残高

基金残高	146,149,836円（令和6年3月31日現在）
------	---------------------------

④ ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会の開催

基金を適正に管理し事業に活用するため、ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会を開催した。

〔委員・顧問〕（令和6年3月31日現在）

役 職	氏 名	職 名
委 員 長	菅 谷 博	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館名誉館長
副 委 員 長	今 村 保 雄	公益財団法人東京動物園協会理事長
委 員	湯 川 れい子	音楽評論家・作詞家
委 員	二 木 忠 男	上野観光連盟名誉会長
委 員	古 屋 留 美	東京都建設局次長
顧 問	黒 柳 徹 子	女優・ユニセフ親善大使

〔運営委員会〕

回	開催月日	議 題
第1回	7月10日	(1) 令和4年度決算報告について (2) 現在の飼育状況について (3) 令和5年度基金進捗状況について
第2回	2月16日	(1) 令和5年度基金進捗状況について (2) 令和6年度基金事業・予算(案)について

(2) 東京動物園協会野生生物保全基金の運営

野生生物の保全に積極的に取り組む個人・団体の支援を目的として、助成対象活動を公募し、審査のうえ、助成金交付を行った。令和6年度の助成対象活動募集にあたっては、「一般部門」・「中高校生部門」・「東京動物園協会保全パートナー部門」の募集をおこなった。

基金PR活動としてポスターとチラシを作成して全国の大学や博物館、研究施設、NPO、SSH、理科教育に関心の高い都立高校等に送付して本助成制度を広くアピールしたほか、各園で配布するパンフレットを新たに作成した。また、令和5年度より(株)ヤフーが提供する日本最大級の寄付ポータルサイト「Yahoo!ネット募金」へプロジェクト参加するなど、クレジットカード決済によるオンライン寄付システムの運用と併せて、幅広く寄付を募った。

① 助成交付実績

〔令和5年度〕

＊令和5年2月1日～2月28日公募。令和4年度内に助成対象を決定し、令和5年度に助成金交付。

【一般部門】

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
動物園の環境条件に合わせたサシバエ活動区域の特定手法の開発	調査研究	茨城大学 動物園学研究拠点プロジェクトチーム (茨城大学農学部動物福祉管理学研究室)	1,000,000円
国内に生息する野生鳥獣の鉛汚染状況の実態調査	調査研究	牛根奈々	970,000円
刺し網漁による海鳥混獲の実状把握 ～ウミガラスとエトピリカの保全を目指して～	調査研究	一般社団法人 バードライフ・インターナショナル東京	720,810円
オキナワトゲネズミ・ケナガネズミの域外保全を目的とした基礎研究(継続)	調査研究	特定非営利活動法人 どうぶつたちの病院 沖縄	1,000,000円
国内希少野生動植物種アカモズの生息域外保全確立に向けたファウンダー導入	保全活動	長野アカモズ保全研究グループ	1,000,000円
野生メダカはいつ・どこで・どのように繁殖している？動画撮影とDNA解析から迫る	調査研究	近藤湧生	1,000,000円
アジアゾウ繁殖保全に関わるタンパク質の探索	調査研究	佐藤陽子	1,000,000円

【中高校生部門】

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
紀ノ川下流の止水域における生態系の研究	調査研究	和歌山県立向陽高等学校	400,000円
奈良県生駒市におけるツバメの子育て研究	調査研究	奈良女子大学附属中等教育学校	492,516円
野鳥の排泄物調査による空気中のマイクロプラスチックの影響	調査研究	東京都立科学技術高等学校	500,000円

【東京動物園協会保全パートナー部門】

助成対象活動名	助成対象者	交付額
オガサワラカワラヒワの飼育繁殖技術の習得及び域内調査活動 ※新規	一般社団法人Islands care	1,500,000円
希少鳥類における域外保全の推進にむけた繁殖生理生態の解明——ライチョウとハシビロコウを中心に（令和3年度から継続※3年目）	岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖学研究室（動物園生物学研究センター）	1,500,000円

② 収入の状況

寄付金	1,491,971円	企業・個人からの寄付（収益事業からの繰入れ除く）
-----	------------	--------------------------

③ 基金残高

基金残高	94,597,354円（令和6年3月31日現在）
------	--------------------------

④ 東京動物園協会野生生物保全基金審査委員会の開催

助成対象活動の選定を適正かつ公正に行うため、東京動物園協会野生生物保全基金審査委員会を開催し、助成対象活動を選定した。

〔審査委員〕（令和6年3月31日現在）

役 職	氏 名	職 名
委 員 長	田 畑 直 樹	公益財団法人日本動物愛護協会 理事長
副 委 員 長	今 村 保 雄	公益財団法人東京動物園協会 理事長
委 員	内 田 純 子	東京動物園ボランティアーズ第4期生
委 員	平 岡 考	公益財団法人山階鳥類研究所 参与
委 員	山 崎 晃 司	東京農業大学 教授
委 員	山 田 文 雄	沖縄大学 客員教授、沖縄大学地域研究所 特別研究員

〔審査委員会〕

開催日	議 題
3月18日	第1号議案 委員長の選出について 第2号議案 副委員長の選出について 第3号議案 令和6年度助成対象活動選定について

⑤ 助成対象活動選定結果

＊令和6年2月1日～2月29日公募。5年度内に助成対象を決定し、助成金は6年度に交付。

【一般部門】

＊助成金額上限：100万円/年、助成件数：7件程度

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
野生動物における身体的ストレスおよび心理的幸福度の評価法に関する研究(II) (令和4年度助成の継続)	調査研究	大和 修	1,000,000円
アジアゾウ繁殖保全に関わるタンパク質の探索2～リン酸化タンパク質に着目して～(継続)	調査研究	佐藤陽子	1,000,000円
野生メダカはいつ・どこで・どのように繁殖している？動画撮影とDNA解析から迫る(継続)	調査研究	近藤 湧生	1,000,000円
ヒキガエル属3種の種の境界維持機構の解明	調査研究	西川完途	986,000円
ガーナの野生霊長類と住民の軋轢緩和：住民主体の持続可能な農作物被害対策	保全活動	半沢真帆	1,000,000円
国内希少野生動植物種アカモズのファウンダー導入と野生復帰に向けた技術検討(継続)	保全活動	長野アカモズ保全研究グループ	1,000,000円
絶滅危惧鳥類シロハラサギの飼育下繁殖技術の確立に向けたアオサギの孵化育雛研究	調査研究	シロハラサギ保全チーム	1,000,000円

【中高校生部門】

＊助成金額上限：50万円/年、助成件数：合計5件程度

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
天草に生息するゲンジボタルについてのDNA分析を用いた生態及び生息状況調査	調査研究	熊本県立天草高等学校	494,480円
紀ノ川下流における止水域に重点を置いた水生生物調査(継続)	調査研究	和歌山県立向陽高等学校	300,000円

ヒメタイコウチの分布調査と分子系統解析、生態ニッチモデリングによる種の保全	調査研究	兵庫県立小野高等学校	500,000円
奈良県生駒市におけるツバメの子育て研究（継続）	調査研究	奈良女子大学附属中等教育学校	500,000円
都市部運河域における魚類の生息場創出に関する研究－魚類の食性に着目して－	調査研究	東京都立晴海総合高等学校	500,000円

【東京動物園協会保全パートナー部門】

※助成金額上限：150万円/年、助成件数：2件※3年間継続

助成対象活動名	助成対象者	交付額
希少哺乳動物の域外保全に寄与する精巣機能解析と精巣細胞保存方法に関する研究（新規）	東京農工大学 獣医生理学研究室	1,500,000円
オガサワラカワラヒワの飼育繁殖技術の習得及び域内調査活動（令和5年度から継続※2年目）	一般社団法人 Islands care	1,500,000円

⑥ 「東京動物園協会野生生物保全基金」成果報告会

令和4年度に完了した助成対象活動のうち6件について、成果報告講演会（令和6年2月10日）を行った。

開催日	内 容
令和6年 2月10日実施	講演① 国内に生息する野鳥の鉛汚染状況の実態調査：牛根奈々氏 講演② 野生動物における身体的ストレスおよび心理的幸福度の評価法に関する研究：大和修氏 講演③ トウキョウトガリネズミの繁殖生態に関する研究：河原淳氏 講演④ 刺し網漁による海鳥混獲の実状把握～ウミガラスとエトビリカの保全を目指して～：一般社団法人 バードライフ・インターナショナル 東京 講演⑤ 齢構造解析とゲノムワイドなSNP解析によるヤエヤマハラブチガエルの保全生態学的研究：戸金大氏・秋田耕佑氏・阿南一穂氏 講演⑥ 奈良・グリーンヒル生駒におけるツバメの子育て研究：荻巣樹氏

〔５〕利用者サービス

１．入場券の売改札及び利用案内・園内サービス

（１）入場券の売改札

入場券の売改札、年間パスポートの販売を行った。

【入園者数】

（単位：人）

区 分			上野	多摩	葛西	井の頭	合計	摘 要
有 料	個 人	一 般	1,948,342	367,075	582,019	345,049	3,242,485	
		中学生	78,219	4,177	13,403	1,169	96,968	
		65歳以上	149,315	30,660	36,269	39,414	255,658	
		計	2,175,876	401,912	631,691	385,632	3,595,111	
	団 体	一 般	44,465	17,630	36,808	5,671	104,574	20人以上
		中学生	525	30	558	24	1,137	〃
		65歳以上	1,550	345	3,423	387	5,705	〃
		計	46,540	18,005	40,789	6,082	111,416	
	小 計		2,222,416	419,917	672,480	391,714	3,706,527	
無 料	個 人	小学生以下	701,217	215,953	393,467	189,246	1,499,883	
		中学生	19,869	3,319	11,258	6,281	40,727	都内在住在学
		計	721,086	219,272	404,725	195,527	1,540,610	
	団 体	幼 児	37,048	35,263	27,338	19,703	119,352	
		小学生	41,315	31,232	48,097	13,566	134,210	
		中学生	36,822	2,588	9,270	478	49,158	
		計	115,185	69,083	84,705	33,747	302,720	
	特 免		95,123	30,088	45,679	29,589	200,479	身体障がい者等
	その他		110,465	63,864	52,629	52,345	279,303	無料開園日等
	小 計		1,041,859	382,307	587,738	311,208	2,323,112	
	合 計		3,264,275	802,224	1,260,218	702,922	6,029,639	

【年間パスポート販売状況】

園 名	販売実績	摘 要
上 野 動 物 園	23,579 枚	一般2,400円、65歳以上1,200円
多 摩 動 物 公 園	5,932 枚	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	3,231 枚	一般2,800円、65歳以上1,400円
井の頭自然文化園	9,750 枚	一般1,600円、65歳以上 800円
合 計	42,492 枚	

(2) 有料施設等の占用等の申請受付と料金徴収

園内での写真撮影や集会所の使用申請の受付事務と入園料、使用料、占用料の徴収及び東京都への納付事務を行った。

【入園料金の徴収】

園 名	収 納 額	摘 要
上 野 動 物 園	1,136,272,500円	大人600円、中学生200円、65歳以上300円
多 摩 動 物 公 園	223,870,320 円	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	438,567,860 円	大人700円、中学生250円、65歳以上350円
井の頭自然文化園	127,397,390 円	大人400円、中学生150円、65歳以上200円
合 計	1,926,108,070 円	

【占用料・使用料の徴収】

園 名	収 納 額	摘 要
上 野 動 物 園	1,988,672 円	占用料（写真撮影等）
多 摩 動 物 公 園	1,072,858 円	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	128,246 円	〃
井の頭自然文化園	390,750 円	占用料・使用料（資料館・童心居）
合 計	3,580,526 円	

(3) 利用案内・園内サービス

園内における利用者案内、迷子相談、園内放送、救急救護、車椅子の貸出等のサービスや遺失物・拾得物対応を実施したほか、園外からの電話による問い合わせに対応、園内案内図、案内板の更新を行った。

【園内利用案内】

(単位：件)

園名	迷子相談	園内放送	入園者救護	車椅子貸出	遺失物届	拾得物届
上野	277	4,671	474	1,506	607	3,026
多摩	41	3,142	244	284	490	3,584
葛西	150	1,807	183	490	527	2,552
井の頭	70	339	113	101	262	1,635
合計	538	9,959	1,014	2,381	1,886	10,797

2. 園内の保安及び環境美化

(1) 園内巡回警備

巡回警備による整理・誘導、防犯等、入園者の安全に配慮して実施した。

(2) 園内清掃及び廃棄物搬出

園内美化を図り、園内の清掃及び収集したゴミ等の廃棄物を園外へ搬出した。また、搬出した寝藁等は専門施設においてリサイクルし、肥料化した。

3. 利用促進・PR活動

ウェブサイトやSNSによるデジタルコンテンツでの広告展開や情報発信を強化し、当協会が行っている野生生物保全に関する取組を発信することで、集客に向けた認知拡大だけでなく、都立動物園・水族園のファンを増やす取組を行った。

【Visit Zoo事業の主な施策】

実施項目	内 容
春季施策	・(公財)東京都道路整備保全公社が管理する新宿駅西口広場の行政情報掲示板での掲出物について、当協会が取り組む野生生物保全への活動をメッセージにしたデザインに意匠を変更し、年度を通して掲出した。 ・Instagram広告にて、4月26日～5月3日の間、行楽シーズンの集客及び認知向上のため、若者が来園を楽しむ仕立ての動画を活用し配信した。 ・ポイント活用アプリにて、4月29日～5月4日の間、4園各園の近隣エリアに在住の方をターゲットに、ゴールデンウィーク及び5月4日の無料開園日のPRを実施した。

実施項目	内 容
夏季施策	・ 4園を網羅的に紹介する「みどころガイド」を、関西方面の旅行代理店JTB 5店舗に6月1日から4週間、また成田国際空港トラベルセンターに7月1日～8月31日まで配架した。 ・ 音楽ストリーミングサービス「Spotify広告」にて、7月22日～7月31日の間、夏休み期間に繁忙を迎える葛西臨海水族園の集客・認知拡大を目的に、30秒の音声広告を配信した。 ・ Instagram広告にて、7月24日～8月6日の間、3園の夜間開園イベント、井の頭の怪談ラリーPR及び各園のイベントページへの遷移（クリック）増を目的に、イベントビジュアル画像を配信した。 ・ スマホアプリに広告配信が可能なサービスを利用して、8月5日～2週間の間、3園の夜間開園イベント、井の頭の怪談ラリーのPRをした。 ・ 4園のイメージを幅広いターゲット層に伝え、来園を促進することを目的に、各園30秒のPR動画を作成。8月1日～8月31日の間、夏休み期間の各園認知拡大を目的にYouTube広告で配信した。
秋季施策	・ 各園イベントや保全の取組のPRとして、9月25日～10月2日の間、都庁第一本庁舎1階のアートワーク台座にSDGs推進に向けたキャッチコピーや、イメージビジュアルのパネルを展示した。また10月19日～10月22日の間、上野公園にて行われた「上野恩賜公園開園150周年総合文化祭」において当協会のブースを出展し、パンフレット・チラシの配布や体験イベントを通じて、4園の魅力や野生生物保全の取組についてPRを実施した。 ・ Instagramの当協会公式アカウントの投稿をWEB上で表示させる「ソーシャルディスプレイ広告」にて、9月22日～10月20日の間4期に分け、4園の無料開園日（都民の日）、井の頭夜間開園日、葛西開園記念日、多摩アフリカフェアのPRを配信した。
冬季施策	・ 12月6日～12月8日に東京ビックサイトで開催された「環境総合展エコプロ2023」に初出展し、「地球環境保全行動戦略」の取組を紹介したほか、パンフレット・チラシの配布や、動物の特徴などを表現したハンズオン教材を用いた体験イベントを通じて、4園の魅力や野生生物保全の取組についてPRを実施した。 ・ 1月13日～2月29日の間、4園合同企画 都立動物園・水族園 冬の周遊キャンペーンとして、5,656名が参加した『都立動物園・水族園に行こう！スタンプラリー』、「#冬の周遊2024」を付けて投稿してもらい特設サイトで紹介をする『Instagramハッシュタグキャンペーン』、島嶼を含む東京の生きものにフォーカスした『守ろう！東京の生きものたち』の3企画を実施した。『守ろう！東京の生きものたち』の詳細は、(1) 見どころデジタルマップで東京のいきものを紹介、(2) 保全種担当者のリレートークを2月4日より1日1本、計9本の動画をYouTubeで公開、(3) 2月3日に大島公園動物園からYouTubeでライブ配信した。

実施項目	内 容
	・12月12日～2月25日の間、Instagram広告及びYouTubeインストリーム広告を利用し幅広いターゲットに配信した。

【利用促進・PR】

事 項	摘 要
ウェブサイト	・ウェブサイト「東京ズーネット」を通じて、動物の最新ニュースや動画、イベント情報等を多くの人に向けて発信した。 ・各園の見どころや写真撮影スポット、おすすめのギフト商品等を「都立動物園・水族園 見どころデジタルマップ」で情報発信した。上野動物園マップには「歴史的施設」のスポットを追加した。 ・上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA. JP」では、パンダに関する情報を掲載したほか、ジャイアントパンダ保護サポート基金についても広くアピールした。 ・葛西臨海水族園の混雑予想カレンダーを掲載し、快適な観覧のための情報を提供した。 ・X(旧Twitter)による4園の情報発信を通じて、即時性のある情報をタイムリーに配信した。 ・YouTube上の「東京ズーネット公式チャンネル」において、ジャイアントパンダの最新情報他、動物園・水族園の魅力を動画を通じて配信した。 ・Instagramを4園共通アカウントとして運用し、園内や事業の魅力を伝える動画画像の投稿を行った。
広 告 物	・東京都内の幼稚園・保育園へ配布する携帯型クーポン冊子「ハッピープレゼントクーポン東京版」(都内の幼稚園・保育園850園に納品、約90,000部配布)のGW号・夏休み号・秋号・冬休み号に広告を掲出、年間パスポートのほか、夏休み号には3園の夜間開園延長をPRした。 ・新宿駅西口広場の大型サイネージ(約227インチ)にて、各園のPR動画を通年で放映した。 ・東京観光情報センターの4施設(東京都庁、バスタ新宿、京成上野、多摩)のサイネージにて、各園のPR動画を通年で放映した。 ・八王子駅北口ビジョンにて、各園のPR動画を通年で放映した。 ・上野動物園では、上野公園内の常設看板に公式SNSやイベントをPRするポスターを1年通して掲出したほか、東京メトロ銀座線上野駅通路「文化の杜路」では、野生生物保全に関する情報発信を行った。 ・多摩動物公園では、京王動物園線車内に、12月26日～令和6年4月2日まで干支の企画展「ようこそ土竜世界(モグランド)へ」の中吊り広告を掲出した。

事 項	摘 要
	また、京王線近隣主要駅及び多摩モノレール主要駅に、サマーナイトをPRするポスターを7月下旬～8月中旬まで掲出、アフリカフェアをPRするポスターを10月中下旬～11月12日まで掲出した。 ・葛西臨海水族園では、JR東日本と連携し、JR葛西臨海公園駅構内のディスプレイモニターにおいて展示生物を紹介する映像を4月に更新し放映したほか、駅に隣接する商業施設F f (エフエフ)に葛西臨海水族園オリジナル商品のディスプレイを1年間通して行った。また、SNSやYouTubeでのWEB広告により利用促進を行った。 ・井の頭自然文化園では、吉祥寺駅北口ビジョンに1年を通して園のPR動画を放映したほか、秋の夜間開園「ちょっとおでかけ 秋の夜長の自然文化園」の広報活動として、当園のデザイナーによるポスターグラフィックに基づき、9～10月に、SNS等のインターネット広告、ポスター掲出（吉祥寺駅・近隣施設）、デジタルサイネージ（吉祥寺駅・調布駅）などを展開した。夜間開園の広報活動では、政策企画局主催の第1回「伝わる広報大賞」に応募したところ、リピーター増などの成果を伴う広報活動の質の高さが認められ、クリエイティブ賞（静止画部門）を受賞した。
そ の 他	・繁忙期における休園日の臨時開園（上野8日、多摩3日、葛西6日、井の頭2日）、開園時間延長（上野11日、多摩11日、葛西9日、井の頭7日）を実施した。 ※飼育鳥類における高病原性鳥インフルエンザ発生に伴う臨時休園により、多摩で予定していた3月29日の臨時開園は中止した。 ・「雨の日サービス」として、各園のX（旧Twitter）を利用して展示やイベントに関する予定変更の情報、雨の日の展示動物の様子や「雨の日ならではの楽しみ方」等に関する情報発信を実施した。 ・訪日入園者の動向を把握するため、オンラインチケット購入者の国別推計調査を実施した。 ・訪都旅行者向けに、都立動物園・水族園紹介パンフレット「Tokyo Zoos & Aquarium」（英語・中国語〔繁体・簡体〕・韓国語及び日本語）を東京都観光案内所等で配布した。

4. 広報広聴

園内動物の繁殖や催物等についての広報発表、取材対応のほか苦情や意見への対応を行った。

（1）主な広報発表

園 名	発表日	件 名
	5月18日	スマトラトラの子どもが生まれました——上野動物園では26年ぶり！

園 名	発表日	件 名
上 野	6月8日	ジャイアントパンダのシャオシャオ・レイレイの誕生日記念企画を開催します
	7月10日	オカピの「トト」が死亡しました
	7月13日	真夏の夜の動物園 ～ビ・ビ・ビ（鼻先から・尾先まで・美しさ満載）～
	12月6日	スマトラトラのミンピが出産しました！
	その他、合計20件	
多 摩	4月7日	多摩動物公園再開について
	8月8日	今年は4羽のトキが育っています
	9月28日	「第9回都立動物園アフリカフェア」開催！～アフリカへのとびら～
	10月16日	国内で唯一の個体タスマニアデビル「テイマー」が死亡しました
	2月8日	絶滅危惧種の肉食性有袋類 タスマニアデビルが来園します！
	その他、合計19件	
葛 西	4月4日	オウサマペンギンを移動します
	7月13日	夏の特別イベント「Night of Wonder ～夜の不思議の水族園～」
	11月9日	「つどえ オロロ～ン！」を開催！
	12月25日	2024年の干支は「辰」 干支にちなんだ名前を持つ魚、タツノオトシゴの仲間を展示中
	3月14日	葛西臨海水族園開園35周年記念イベント開催！
	その他、合14件	
井の頭	4月27日	開園記念イベントを開催します
	5月17日	アムールヤマネコが生まれました
	9月14日	「ちょっとおでかけ 秋の夜長の自然文化園」を開催します！
	9月28日	ヤマネコ祭2023開催！
	12月12日	ニホンリスの死亡について
	その他、合計11件	

（２）苦情・意見への対応

園内に設置した意見箱やウェブサイト「東京ゾーネット」に寄せられた苦情・意見について、関係部署へ周知するとともに対応策を検討し、園内環境やサービス等の改善に努めた。また、データベースを活用しサービスの改善・充実を図ったほか、各園に寄せられた主なご意見ご要望及びそれに対する回答と対応について、月毎にウェブサイト「東京ゾーネット」への掲載を行った。

〔6〕安全・安心の確保

令和5年度は「危機管理委員会の下、自然災害、人為災害、サーバー攻撃や新型コロナウイルス感染症など各種感染症等への的確な対策を講じ、対応力の向上を図ること」を組織方針の一つに掲げ、安全・安心の確保に努めた。

（1）新型コロナウイルス感染症対策

令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「新型インフルエンザ等感染症（2類）」から「5類感染症」に移行された。これにより、5月8日以降は、日常における基本的な感染症対策について、主体的な選択を尊重し、個人の判断に委ねることが基本となった。

しかしながら、動物園・水族園が不特定多数のお客様を迎える施設であること、また、動物の飼育を行っている特性を勘案し、職員自らが感染を防ぐことを念頭に置きながら、クラスターを発生させることなく、業務を継続して遂行することができるよう、引き続き安全・安心の確保に取り組んだ。

（2）動物事故再発防止対策

令和元年8月に多摩動物公園インドサイ舎において発生した飼育職員の死亡事故を受け、動物事故再発防止PTによる再発防止策として令和2年に策定した「動物事故再発防止対策」に基づき、危機管理委員会下にある「動物事故・感染症対策部会」において定期的に進捗状況を確認し、安全管理の徹底を図った。

【動物事故再発防止対策】

区分	対策	具体的内容
特定動物等のより安全な管理方法の構築	飼育管理のルール化	- 種毎に危険度に応じたルールを設定し、同場に関するルールを定める。 - 飼育作業におけるリスクアセスメントを実施し、それを踏まえた「安全作業マニュアル」を作成する。
職員が安全に作業できる施設・設備の整備	物理的遮蔽	- 管理通路にライン塗装し、通常の作業ではラインより動物舎側に立ち入らないこととする。 - スクイーズケージや柵場の導入など、物理的遮蔽手段を検討する。
	職員の状況把握のための取組	- カメラによるモニターシステムを導入する。 - 複数の動物舎を担当する職員がどこで作業をしているか把握するための作業スケジュール表を作成する。
	非常時連絡システムの導入	- 転倒時通報機能や音声発信機能を有したスマートウォッチを順次導入する。 - 既存のPHSに位置情報通知機能等を追加する。
職員の安全を確保するための取組及び体制の確立	作業時の安全確保体制	- インドサイ舎の飼育体制について、2名の担当者を置いた。 - 班の担当する飼育作業を共同で行う「グループ制」若しくはリスクの高い作業を抽出し、班の枠を超えた2～3名の職員が対応する「ユニット制」の導入を検討する。
	施設改修や補修の計画的実施	毎年作成している施設改修の全体計画に、随時提出される個別の工事・作業依頼を反映させ、柔軟に施工準の見直しを行う。

	引継ぎの体系化	・引継ぎ書類の内容を統一化し、それぞれの動物種の課題・懸案事項を着実に引き継げる体制とする。
職員の安全意識の向上	職員の情報共有等の仕組み	・職員の作業予定や体調など、班員同士が情報共有を図るため「班ミーティング」を毎日決まった時間に実施する。
	ヒヤリハット事例の収集と共有	・ヒヤリハット事例の収集と共有のルールを策定し、事故防止に活用する仕組みを構築する。
	作業の安全性の客観的な検証	・飼育管理のルール化において実施する飼育作業のリスクアセスメントにおいて定めるリスク提言措置について、年に1回実施状況確認を行う。
	継続した安全意識の確保	・安全意識向上につながる研修を毎年実施する。 ・事故の発生した8月25日を「安全の日」と定め、黙とうや訓示を実施し、事故の記憶の風化を防止する。

今後も、上記「動物事故再発防止対策」の進捗状況について、危機管理委員会の下「動物事故・感染症対策部会」に定期的に確認し、安全管理の徹底を図る。

(3) 事業継続 (BCP)

震災、テロ等の大規模災害の発生を想定し、備蓄品の確保やマニュアルを整備したほか、各種訓練の実施を通して災害対応力を向上させた。

令和5年度にはMCA無線の上位機種に機器を入替え、新たに搭載されたチャット機能を毎月の無線訓練に取り入れ、非常時の通信手段の確認と訓練を行った。また、近年の無差別殺傷事件数の増加等を踏まえ、警察と連携したテロ対策訓練を4園それぞれで実施した。更に各園にて冬季の発生を想定した震災対策訓練を実施し、必要備品の確認を行うとともに、災害発生時の体制や役割、対応の流れを再確認した。

訓練名	開催日	目 的
テロ対策訓練 (第1回訓練)	葛 西：7/5 多 摩：7/12 上 野：7/18 多 摩：8/7	テロの発生抑止と対応力の向上を目的として実施 ・サスマタ演習等初動対応の確認 ・警察等関連機関との連携強化
参集訓練	総務部・4園：11/14	参集経路の確認と参集者によるオンラインでの本部運営訓練を実施
震災対策訓練 (第2回訓練)	総務部：10/16 葛 西：12/6 上 野：1/22 多 摩：2/7 井の頭：2/26	首都直下型地震の発生を想定し、災害対応力の向上を目的として実施 ・災害発生時の体制や役割、対応の流れを再確認 ・初動対応及び災害対策本部運営の確認 ・消防等関連団体との連携強化
無線通信訓練	総務部・各園：毎月	災害対応力の向上を目的として実施
安否確認訓練	総務部・各園：4半期に1回	災害対応力の向上を目的として実施

（４）災害対策

台風や大雨等の気象警報発令時等には、巡回点検や職員の事務所待機を行い災害時に備えるとともに、被害復旧対応を行った。

（５）情報セキュリティ対策

社会状況の変化やセキュリティ技術の向上を受け、情報資産に対する新たな脅威に対応すべく「サイバーセキュリティ基本方針」の改定を行った。また、不正アクセス対策としてファイアウォールの更新を行うとともに、専門業者による「サイバーセキュリティ外部監査」や「サイバーセキュリティ脆弱性診断」などのセキュリティ対策を実施した。

（６）工事等安全衛生対策

上野労働基準監督署より講師を招いて講習会（オンライン）を行い、園内で工事や作業を行う指定店事業者の安全衛生対策の強化を促した。

講演「建設業における労働災害の防止について」

参加者数：99社、149名（内、協会職員26名）

（７）工事等事故防止対策

過去の事事故事例を教訓に、園内作業における事故防止対策を積み重ねている。事故防止のため、協会職員と受注者が共通の安全管理意識を持って、組織的に安全対策に取り組んでいる。

また、危機管理委員会の下に置かれた、事故防止対策部会において、維持管理部門における安全管理の年間取組計画や重点管理目標を定め、定期的に進行管理を行うなど、各種の安全管理対策に取り組み、事故防止の徹底を図った。

- 主な対策等
- ・受発注者の立ち合いによる安全対策の事前確認
 - ・朝礼や終礼でのKY活動等の強化
 - ・特記仕様書による事故防止対策指示の強化
 - ・指定店契約時の意識啓発（安全管理計画等）
 - ・熱中症防止対策の強化
 - ・自動車事故防止対策の強化
 - ・工事安全パトロールの実施（４回）
 - ・維持管理担当者向けのeラーニングの実施
 - ・ヒヤリハット事例集の作成・周知

(8) 園内施設・設備の維持管理

① 定常的維持管理

施設や設備を適切に保守し、利用者の安全と快適性を確保するために、以下の園内施設の維持管理業務を行っている。

園 名	主 要 施 設	主要維持管理業務
上 野 動 物 園	- 敷地面積：144千㎡ - パンダ舎、ホッキョクグマとアザラシの海、クマ舎、ゾウ舎、アイアイのすむ森 等 - 両生爬虫類館 - 管理センター - 不忍池	- 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） - 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） - 設備保守（機械、水処理、放送、動物脱出防止柵 他） - 不忍池水質管理 - 設備点検 - 保護管理（植込地、花壇） - 危険樹点検対応 他
多 摩 動 物 公 園	- 敷地面積：601千㎡（含む七生公園） - オランウータン舎、コアラ館等 - ライオン園 他 - 昆虫生態園 - 丘陵地	- 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） - 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） - 設備保守（機械、水処理、放送、動物脱出防止柵 他） - 設備点検 - 保護管理（植込地、芝生地、花壇） - 危険樹点検対応 他
葛 西 臨 海 水 族 園	- 敷地面積：86千㎡ - 水槽数：47 - マグロ水槽（2,200t）、ペンギン池 他 - ポンプ（水処理用244台、給排水用53台）	- 設備補修（冷凍機、水処理 他） - 施設補修（水槽、漏水、排水、園内不陸 他） - 設備保守（中央監視、水処理、展示システム、排水処理、オゾン設備 他） - 設備点検 - 保護管理（植込地、芝生地、花壇） - 危険樹点検対応 他
井 の 頭 自 然 文 化 園	- 敷地面積：116千㎡ - 大放飼場 - 彫刻館 - リスの小径 - 資料館 - 水生物館	- 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） - 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） - 設備保守（機械、水処理、放送 他） - 設備点検 - 保護管理（植込地、花壇） - 危険樹点検対応 他

② 集中的維持管理

設備補修や地球温暖化対策等を行うとともに、ナラ枯れ処理、鳥インフルエンザ対策等の集中的な修繕を行った。

園名	No.	修 繕 施 設	概 要
上 野	1	動物舎	西園予備鳥舎ほか補修工事
	2	記念施設	サーラータイ笠石補修工事
	3	観覧通路	ゴリトラ観覧通路補修工事
	4	工作物	西園観察デッキA改修工事
多 摩	1	照明設備	チンパンジー舎放飼場やぐら補修工事
	2	動物舎	カワウソ・魚類展示室ほか照明補修工事
	3	放飼場	ソデグロツル舎鳥インフルエンザ対策工事
	4	樹林	ナラ枯れ被害木処理（917本） 予防保全措置としての樹幹注入（52本）
葛 西	1	機械設備	タッチプール造波装置連結棒補修工事
	2	建物	海藻の林前天井補修工事
	3	循環設備	各種設備補修
	4	照明設備	水槽照明補修工事
井の頭	1	動物舎	サギ舎壁面金網取替工事
	2	照明設備	園内灯整備工事
	3	工作物	ベンチ補修工事
	4	樹林	枯損木等撤去工事

〔 7 〕 受託業務

1. 恩賜上野動物園ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトに係る業務受託

東京都からの受託により、都と中国野生生物保護協会の間で締結された「ジャイアントパンダ保護研究実施の協力協定書」に基づく研究プロジェクトについて、上野動物園におけるジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトの進展状況報告書の作成や、飼育施設、資料及び医療施設等の検査・検収等に係る中国側の専門家招聘や、飼育下におけるジャイアントパンダの飼育管理及び繁殖に関する研究の実施と報告書の作成業務を実施した。

項 目	内 容
件 名	恩賜上野動物園ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトに係る業務受託
業 務 内 容	ジャイアントパンダの飼育、管理及び健康等の状況報告、研究協力プロジェクトの進展状況報告書の作成、中国側との連絡業務、飼育施設、資料及び医療施設等の検査・検収等に係る中国側の専門家招聘の業務。
期 間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日
委 託 金 額	194,434,000円
受 領 額	65,950,000円

2. 多摩動物公園へのスリランカゾウの導入支援事業における受託に関する協定

東京都がスリランカ民主社会主義共和国から導入するスリランカゾウ2頭を、多摩動物公園に導入するための支援事業について都と協定を締結したが、スリランカ民主社会主義共和国内の情勢が安定せず、当該業務は遂行できなかった。

項 目	内 容
件 名	多摩動物公園へのスリランカゾウの導入支援事業における受託に関する協定
業 務 内 容	スリランカゾウの輸送、スリランカゾウ導入準備、スリランカゾウ公開式典の開催、報告書の作成。
期 間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日
委 託 金 額	277,497,000円
受 領 額	0円 ※履行に至らず。

3. 大島公園動物園動物飼育管理業務受託

東京都大島支庁からの受託により、大島公園動物園における展示動物の飼育管理やイベントの対応等を行った。

項 目	内 容
件 名	大島公園動物園動物飼育管理業務受託
業 務 内 容	大島公園動物園の展示動物の飼育及びこれに関する管理業務
期 間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日
委 託 金 額	57,420,000円

4. 葛西臨海水族園（仮称）整備等事業の支援業務受託

東京都からの受託により、葛西臨海水族園（仮称）整備等事業に関して、設計等に係るモニタリング支援、助言等技術支援、維持管理・運営に関する技術的支援等を実施した。

項 目	内 容
件 名	葛西臨海水族園（仮称）整備等事業の支援業務
業 務 内 容	① モニタリング、助言など技術的支援 ② 各種計画策定支援（常設展示計画、教育普及計画） ③ 生物調達・移転業務 ④ 維持管理・運営に関する技術的支援 ⑤ その他、本件業務委託の実施に当たり必要な業務
期 間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日
委 託 金 額	59,887,300円

第3 収 益 事 業

I. 事業総括

上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園の利用者の利便性と公益目的事業の充実のために、以下の事業を実施した。

事業区分	事業細目		
	園名	種別	箇所数
I. 便益施設の経営	(1) 上野動物園	(1) 売店	3
		(2) 飲食店	2
		(3) 臨時売店	3
		(4) 自動販売機コーナー	12
		(5) ベビーカー貸出所	3
		(6) コインロッカー	2
		(7) フォトサービス	1
		(8) 写真(映像資料)貸出	1
	(2) 多摩動物公園	(1) 売店	4
		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	4
		(4) 自動販売機コーナー	12
		(5) ベビーカー貸出所	1
		(6) コインロッカー	1
		(7) ライオンバス	1
		(8) フォトサービス	1
	(3) 葛西臨海水族園	(1) 売店	2
		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	1
		(4) 自動販売機コーナー	3
		(5) コインロッカー	2
		(6) フォトサービス	1
	(4) 井の頭自然文化園	(1) 売店	2
		(2) 臨時売店	3
		(3) 自動販売機コーナー	3
II. その他事業	(1) 上野動物園内広告事業(広告施設9箇所)		
	(2) 協賛金募集事業(ジャイアントパンダ保護サポート基金等)		

Ⅱ．事業実績

〔１〕 便益施設等の経営

収益事業の売上高は、物価高騰により販売価格の上昇を余儀なくされたが、入園者の回復により、好調であった前年度を上回る結果となった。４園の中で多摩動物公園では、令和５年２月１６日から４月９日まで高病原性鳥インフルエンザの発生により臨時休園となり、春休み期間の店舗営業を行うことができなかったが、再開園後は順調に売上を伸ばし、例年の成績を上回った。

各園の園内販売が回復している一方、新型コロナウイルスによる臨時休園中に培ったノウハウを活かし、上野公園内の「パークス上野」、上野駅構内の「エキュート上野」、葛西臨海公園駅の「F f」などにおいて委託による外部販売を継続した。

当協会が保有する映像コンテンツ等を活用し、受注生産での通信販売を行うカスタムフォトブックを令和４年度に導入し好評であったが、令和５年度はジャイアントパンダの双子「シャオシャオ・レイレイ」の画像を使ったフォトブックの他、Ｔシャツやポストカードなど、アイテム数を増やし実施した。

上野動物園では、４年ぶりに入園制限のないゴールデンウィークを迎え、新型コロナウイルス感染症５類感染症移行後は、パンダ号をはじめとする団体や訪日外国人来園者が急回復した。これに伴い来園状況に応じた柔軟な店舗運営を行った。販売商品としては「シャオシャオ・レイレイ」２歳記念商品のほか、園内イベントに連動した動物園らしい商品提供を行い満足度の向上及び、野生生物の取り巻く環境を伝える一役に寄与した。世界ゾウの日には、教育普及係や飼育展示係と連携して開発した環境に配慮した素材を使用したギフト商品やアジアゾウの「アルン」が砂浴びをしている様子を模したデザート「アルンきな粉まみれ」などを展開した。また、ジャイアントパンダ保護サポート基金を活用した「つながり上野動物園ジャイアントパンダ飼育の５０年」の販売を行った。

多摩動物公園では、企画展やタスマニアデビルの来園に関連した商品、飼育係と開発したデザートドリンクや地元日野市産ブルーベリーを使用した日野市市制１５０周年記念商品を販売するなど、展示動物や地産地消への興味関心を高め、楽しめる商品やメニューを提供した。また、サバンナキッチンでは注文の待機時間を緩和するシステムを試験的に導入し、利便性向上への施策も進めたほか、タスマニアデビルの来園を記念し、ブルーデビルを飼育している葛西臨海水族園と共催でスタンプラリーを実施した。

葛西臨海水族園では、SDGsの取組としてギフトショップで海洋プラスチックを含む再生樹脂を使用したボールペンの販売を開始した。レストランでは地域連携を意識して江戸川区産小松菜を使用したメニューの販売を開始、また引き続き八丈島産食材を使用したメニューを販売し、『とうきょう特産食材使用店』として登録が認められた。

井の頭自然文化園では、繁忙日のケータリングカー活用など、来園者状況に応じた柔軟で効率的な店舗運営を行った。また、夜間開園では正門周辺に販売拠点を集約するとともに、ツシマヤマネコ保全の取組と連携したクラフトビール「ヤマネコエール」の発売などにより、満足度と売上の向上に寄与した。このほか、当園らしいデザインを活かしたオリジナル商品や季節に応じた限定メニューを展開した。

※園外販売の状況

区分	出店箇所等	売上高
外部出店	上野動物園150周年マルシェ、同文化祭、金魚祭り(行船公園)	492千円
委託販売	松坂屋上野店、Ff(葛西臨海公園内)、ららぽーと立川立飛、キラリナ(吉祥寺駅ビル)、かまわぬ(代官山イベント)	2,269千円
卸販売	上野案内所売店(東京都公園協会)、BOOK COMPASSエキュート上野店	3,539千円
受注生産販売	シャオシャオ&レイレイ「写真を選べるカスタムフォトグッズ」、シャンシャンリバイバル企画	5,777千円

1. 施設及び収入額

(単位：千円)

園 名	施 設 名	収 入 額
上 野 動 物 園	1. 1号売店(店名：リトルトランク) 2. 2号売店(店名：カメレオン) 3. 東園中央広場売店(店名：バードソング) 4. 飲食店第1号(店名：さるやまキッチン) 5. 飲食店第2号 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. コインロッカー 10. フォトサービス 11. 写真(映像資料)貸出 12. その他(通信販売事業を含む)	2,166,916 (この内、通販 は34,279)
多 摩 動 物 公 園	1. 1号売店(店名：コアラ館下売店) 2. 2号売店(店名：ライオンカフェ) 3. 3号売店(店名：コレクション) 4. 4号売店(店名：ズーカフェ) 5. 飲食店(店名：サバンナキッチン) 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. ライオンバス 10. コインロッカー 11. フォトサービス 12. その他	603,358

葛西臨海水族園	1. 1号売店（店名：アクアマリン） 2. 2号売店（店名：アクアスケープ） 3. 飲食店（店名：シーウインド） 4. 臨時売店 5. 自動販売機コーナー 6. コインロッカー 7. フォトサービス 8. その他	648,691
井の頭自然文化園	1. 1号売店（店名：はな子カフェ） 2. 2号売店（店名：こもれび） 3. 自動販売機コーナー 4. その他	107,198
合 計		3,526,164

2. 商品取扱状況

（単位：点）

区 分		上野 動物園	多摩 動物公園	葛西 臨海水族園	井の頭 自然文化園
取扱商品数		1,035	1,311	1,359	218
内 訳	ギフトその他	885	1,155	1,243	174
	飲 食 品	150	156	116	44

〔２〕その他の事業

１．上野動物園内広告事業

上野動物園の案内誘導サイン等の整備費用に充てるため、園内に設置した下記の広告掲示施設により、広告料金による民間からの資金を得た。

種 別	設 置 場 所	数 量
動物解説ボード	ジャイアントパンダ、ニホンザル、ヒガシクロサイ、アジアゾウ、ニシゴリラ、ワシ・タカ、キリン・オカピ、ハシビロコウ	８基
環境啓発ボード	モノレール東園駅前	１基
収 入 額	3,132 千円	

２．協賛金募集事業

ジャイアントパンダ保護サポート基金を活用した事業展開のため、園内普及啓発ボードによる協賛や園外でのロゴマーク協賛を実施した。

収 入 額	2,239 千円
-------	----------

第4 決 算 概 要（正味財産増減計算書）

（単位：千円）

科目	公益目的 事業会計	収益事業 会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
（1）経常収益				
基本財産運用益	2,580	—	4,342	6,922
特定資産運用益	2	—	—	2
受取会費	9,097	—	—	9,097
事業収益	174,429	3,533,152	—	3,707,581
受取寄付金	22,442	—	—	22,442
受取委託料	6,810,022	—	214,093	7,024,115
雑収益	6,711	7,200	39	13,950
経常収益計	7,025,282	3,540,352	218,475	10,784,109
（2）経常費用				
事業費	7,253,967	3,039,417	—	10,293,384
管理費	—	—	303,120	303,120
経常費用計	7,253,967	3,039,417	303,120	10,596,504
評価損益等	0	△9,940	0	△9,940
当期経常増減額	△228,684	490,995	△84,646	177,665
2. 経常外増減の部				
経常外収益	0	0	0	0
経常外費用	0	1,790	0	1,790
当期経常外増減額	0	△1,790	0	△1,790
他会計振替額	209,570	△289,575	80,005	0
税引前当期一般正味財産額	△19,115	199,630	△4,640	175,875
法人税等	—	220	—	220
法人税等調整額	—	△3,376	—	△3,376
当期一般正味財産増減額	△19,115	202,786	△4,640	179,031
一般正味財産期首残高	151,534	809,200	307,767	1,268,500
一般正味財産期末残高	132,419	1,011,985	303,126	1,447,531
II 指定正味財産増減の部				
受取寄付金	27,634	0	0	27,634
一般正味財産への振替額	22,152	0	0	22,152
当期指定正味財産増減額	5,482	0	0	5,482
指定正味財産期首残高	249,185	0	0	249,185
指定正味財産期末残高	254,667	0	0	254,667
III 正味財産期末残高	387,086	1,011,985	303,126	1,702,197

第5 事 務 報 告

I. 役員会議の開催

〔1〕 評議員会

回	開催月日	議 題
書面決議	5月18日	(1) 理事の選任について
第1回 定時評議員会 (ハイブリッド)	6月22日	(1) 令和4年度決算報告(案)について 監査報告 (2) 理事の選任について (報告事項) 令和4年度事業報告について
書面決議	8月24日	(1) 監事の選任について
書面決議	2月13日	(1) 常勤理事の報酬に関する規程の一部改正について (2) 常勤理事の報酬総額の変更について
書面決議	3月22日	(1) 理事の選任について

〔2〕 理 事 会

回	開催月日	議 題
書面決議	5月12日	(1) 評議員会の開催について
第1回 定時理事会 (ハイブリッド)	6月7日	(1) 令和4年度事業報告(案)について (2) 令和4年度決算報告(案)について 監査報告 (3) 定時評議員会の開催について (4) 諸規程の一部改正について (報告事項) 理事長及び常務理事の職務状況報告
書面決議	8月9日	(1) 評議員会の開催について
書面決議	1月31日	(1) 評議員会の開催について
書面決議	2月29日	(1) 常勤理事の報酬額の変更について
書面決議	3月14日	(1) 評議員会の開催について
第2回 定時理事会 (ハイブリッド)	3月27日	(1) 令和6年度事業計画(案)について (2) 令和6年度収支予算(案)について (3) 資金調達及び設備投資の見込みについて (4) 理事長の選定について

回	開催月日	議 題
		(5) (4) で選定した理事長の報酬額について (6) 役員賠償責任保険の加入について (7) 諸規程の一部改正について (8) 事務局長の任免について (報告事項) 理事長及び常務理事の職務状況報告

〔3〕評議員選定委員会

回	開催月日	議 題
第1回	5月18日	(1) 評議員の退任にともなう後任評議員の選任について
第2回	11月22日	(1) 評議員の退任にともなう後任評議員の選任について

Ⅱ. 監 査

〔1〕公認会計士下村久幸氏・岸徹氏と監査契約を締結し、公認会計士による会計帳簿・証憑書類の試査、実地棚卸立会、現金実査、銀行残高確認等の外部監査を実施した。

〔2〕令和4年度の事業報告及び決算報告について、5月25日に監事による監査を実施した。

Ⅲ. 人事関係

〔１〕 就任・退任

① 評議員の就任

役職名	氏 名	就任月日	摘 要
評 議 員	古 屋 留 美	５月31日	東京都建設局次長
〃	矢 岡 俊 樹	５月31日	公益財団法人東京都公園協会理事長
〃	曾 根 は じ め	11月30日	東京都議会環境・建設委員長

② 評議員の退任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
評 議 員	里 吉 ゆ み	10月５日	東京都議会環境・建設委員長
〃	古 屋 留 美	３月31日	東京都建設局次長
〃	大 道 和 彦	３月31日	東京都東部公園緑地事務所長

③ 理事・監事の就任

役職名	氏 名	就任月日	摘 要
理 事	佐 々 木 珠	５月31日	東京都建設局公園緑地部長
監 事	荒 井 芳 則	８月31日	東京都建設局総務部長
理 事	杉 崎 智 恵 子	３月22日	東京都収用委員会委員長

④ 理事・監事の退任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
監 事	浅 野 直 樹	５月31日	東京都建設局総務部長
理 事	今 村 保 雄	３月31日	公益財団法人東京動物園協会理事長

⑤ 顧問の退任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
顧 問	石 内 展 行	平成29年	元公益財団法人東京動物園協会理事長（死去）
顧 問	浅 倉 繁 春	令和２年	元公益財団法人東京動物園協会理事長（死去）
顧 問	矢 島 稔	令和４年	元公益財団法人東京動物園協会理事長（死去）
顧 問	齋 藤 勝	９月26日	元公益財団法人東京動物園協会理事長（死去）

※石内氏、浅倉氏、矢島氏については当該年度の事業報告書への記載漏れにより本報告書に記載

〔２〕役員等名簿（令和６年３月３１日現在）

○総 裁 常陸宮正仁親王

○会 長 貫 洞 哲 夫

（１）評 議 員

No.	氏 名	摘 要
1	林 良 博	国立科学博物館顧問
2	内 山 晟	動物写真家
3	久 邦 彦	漫画家・絵本作家
4	遠 藤 秀 紀	東京大学総合研究博物館教授
5	今 泉 忠 明	日本ネコ科動物研究所長
6	林 公 義	皇居内生物学研究所
7	三 浦 慎 悟	早稲田大学人間科学学術院名誉教授
8	打 越 綾 子	成城大学法学部教授
9	竹 内 伸 子	絵手紙作家
10	村 松 真 貴 子	公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団理事長
11	平 井 純 子	駿河台大学スポーツ科学部教授
12	曾 根 は じ め	東京都議会環境・建設委員長
13	古 屋 留 美	東京都建設局次長
14	大 道 和 彦	東京都東部公園緑地事務所長
15	細 川 卓 巳	東京都西部公園緑地事務所長
16	矢 岡 俊 樹	公益財団法人東京都公園協会理事長

（２）評議員選定委員会

No.	氏 名	摘 要
1	清 水 眞 澄	成城大学名誉教授、三井記念美術館館長
2	会 田 保 彦	ヤマザキ動物看護大学名誉教授
3	久 邦 彦	漫画家・絵本作家
4	須 賀 光 一	上野のれん会会長
5	鈴 木 直 也	公益財団法人東京動物園協会総務部長

(3) 理事・監事

No.	役職名	氏 名	摘 要
1	理 事 長	今 村 保 雄	元東京都建設局次長
2	常 務 理 事	笥 直	元東京都環境局環境改善部長
3	常 務 理 事	松 山 俊 樹	前公益財団法人東京動物園協会事業調整担当部長
4	理 事	菅 谷 博	茨城県立自然博物館名誉館長
5	〃	見 城 美 枝 子	青森大学名誉教授、エッセイスト
6	〃	長 谷 川 寿 一	東京大学名誉教授
7	〃	西 源 二 郎	東海大学海洋学部客員教授
8	〃	加 藤 勉	京王電鉄株式会社特別顧問
9	〃	鷺 谷 い づ み	東京大学名誉教授
10	〃	村 井 良 子	有限会社プランニング・ラボ代表取締役
11	〃	尾 崎 清 明	公益財団法人山階鳥類研究所副所長
12	〃	佐 々 木 珠	東京都建設局公園緑地部長
13	〃	杉 崎 智 恵 子	東京都収用委員会事務局長
1	監 事	須 賀 光 一	上野のれん会会長
2	〃	半 田 昌 之	公益財団法人日本博物館協会専務理事
3	〃	荒 井 芳 則	東京都建設局総務部長

(4) 顧 問

No.	氏 名	摘 要
1	小 池 百 合 子	東京都知事
2	浅 倉 義 信	元公益財団法人東京動物園協会理事長
3	藤 井 芳 弘	元公益財団法人東京動物園協会理事長
4	羽 仁 進	映画監督・評論家

(5) 正会員

〔賛助会員〕 上 田 浩 上 田 憲 治 上 田 清 一 関 斎
 〔特別会員〕 篠 永 哲

Ⅳ. 組 織 概 要

〔１〕協会の機構

○ 総 裁 常陸宮正仁親王

○ 会 長 貫 洞 哲 夫

機関名	名 称	人数等	摘 要
1. 議決・監督 機関	評 議 員 会	16 名	
2. 執 行 機 関	理 事 会	13 名	理事長・常務理事を含む
	理 事 長	1 名	
	常 務 理 事	2 名	
	事 務 局	4 部 15 課 51 係	
3. 諮 問 機 関	顧 問	4 名	
4. 監 査 機 関	監 事	3 名	
5. 協 力 機 関	賛 助 会 員	4 名	
	特 別 会 員	1 名	
	準 会 員	4,063 名	東京動物園友の会会員

(令和 6 年 3 月 31 日現在)

【事務局】



〔 3 〕 事務局職員数

(単位：人)

固有職員			都派遣職員			合 計		
職 員	嘱託員	計	職 員	再雇用	計	職 員	嘱託員 再雇用	合 計
251	139	390	92	0	92	343	139	482

(令和 6 年 3 月 31 日現在)

